

# 建築設計製図優秀作品集 2019

「都市型リゾート機能を有したホテル」佐藤駿介・藤田大輝

「BORDERLESS ARCHITECTURE 一国境におけるあそび場の提案」小山田駿志

「Chiba-Minato Environment sea Park ~子どもたちが創る未来~」漆山雄大・梅田敢司・窪田直生・サカイ花・坂井律樹・三澤 僚

「ハンマーヘッドクレーンターミナル周辺 海の駅計画」  
神林慶彦・福田晃平

「地域とつながる都市型集合住宅」小林 葵・川内俊太郎

「災成都市 土砂災害と共生し、成長する団地のあり方」小林陽太・西村寿々美・三橋一貴・山内 颯・山本裕貴

「星景の方舟 一豊稔と再生、エジプト神話に基づく宇宙軸」三橋一貴

「水壩再生」中村美月

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」異相咲希・金指 遥・尾沢圭太

「私があなたに贈るもの」西村寿々美

「清水港国際旅客船ターミナル計画」星野智美

「都市の涵養  
—雨水濾過による団地の再興—」中村美月・小山田駿志・渡邊康介・大石展洋

「環境と住空間を考える  
—親水公園沿いに建つ住宅—」小田瑞葵・川内俊太郎・齋藤瞬汰

「千葉ウエルネスパーク ~人生を豊かにする健康増進計画~」  
柿崎龍平・川口直也・斉藤征大・武田竜治・徳田 凌・島海健太

## 令和元年度 設計製図担当教員一覧

### 1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
菅原 遼（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
内海智行（ベーシックデザイン演習）／ミリグラムスタジオ  
川久保智康（ベーシックデザイン演習）／川久保智康建築設計事務所  
高野洋平（ベーシックデザイン演習）／高野洋平建築設計事務所  
筒井紀博（ベーシックデザイン演習）／筒井紀博空間工房  
鶴田伸介（ベーシックデザイン演習）／熊工房  
森田敬介（ベーシックデザイン演習）／森田建築設計事務所

### 2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

佐藤信治（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
小林直明（デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科  
菅原 遼（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
安藤 亮（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／㈱環境システム研究所  
小野和幸（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／KAJIMA DESIGN  
勝又 洋（デザイン演習Ⅱ）／大成建設㈱  
桔川卓也（デザイン演習Ⅱ）／ナスカ  
高野洋平（デザイン演習Ⅰ）／高野洋平建築設計事務所  
玉上貴人（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／タカトタマガミデザイン  
新田知生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／向日葵設計  
間田真矢（デザイン演習Ⅰ）／MAMM DESIGN  
山田晶子（デザイン演習Ⅱ）／かめ設計室

### 3年生（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
穴澤順子（建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所㈱  
内海智行（デザイン演習Ⅲ）／ミリグラムスタジオ  
勝又 洋（デザイン演習Ⅲ）／大成建設㈱  
金子太亮（デザイン演習Ⅲ）／空間研究所  
木内厚子（デザイン演習Ⅲ）／STUDIO 8  
水野吉樹（デザイン演習Ⅲ）／㈱竹中工務店  
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所㈱

### 4年生（総合演習）

佐藤信治（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科  
小林直明（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科  
桜井慎一（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
山本和清（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
菅原 遼（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
吉田郁夫（総合演習計画系）／清水建設㈱

「植物工場を有した複合型研究開発施設の設計」

「植物工場の産業としての自立に向けた連携拠点の提案」 中村圭佑

「プレゼンテーション」

上原のどか・大久保将吾・駒形吏紗・発知将也  
會田 恵・安達祥人・澤田実和・鈴木亜実  
王 子涵・古角虎之介・中村正基・福田晃平

「ミクロの世界に立ってみよう」

小松 蓮・山田莉央・柴田棟文・菅谷彩楓・薦田一輝・袈裟丸椋・石黒敬太・王 珂

「点、線、面から空間をつくる」  
任 晴要・法橋礼歩・鈴木貴之・鈴木涼介・伊東まや・石黒敬太・韓 吉爽・金指 遙

「街のアートミュージアム」 越原瑞樹・田中日那子

「充電しませんか？」 宇津里緒奈・鷹田知輝・西 遼・渡邊ももか・横畑佑樹

「切断」すること、それは「繋ぐ」こと」 横畑佑樹

日本大学理工学部 海洋建築工学科

# 建築設計製図優秀作品集 2019

---

## CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習) .....	2
2年生 (デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ) .....	8
3年生 (デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン) .....	16
4年生 (総合演習) .....	27
卒業設計 .....	33
修士設計 .....	42
コンペ受賞歴一覧 .....	46

# 1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治  
菅原 遼  
内海 智行  
川久保智康  
高野 洋平  
筒井 紀博  
鶴田 伸介  
森田 敬介

## ベーシックデザイン演習 （後期）

### 第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」  
（出題：佐藤信治）

#### 【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることでできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に入り周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。内部空間にあなた自身が立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。あなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

#### 【提出物】

- (1) ケント紙に描いた作品。裏面に①担当講師氏名、②学生番号＋氏名、③描いた対象物とタイトルを記入
- (2) 作品タイトルと空間の説明文を記したA4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

#### 【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてものようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

### 第2課題

「点、線、面から空間をつくる」  
（出題：川久保智康）

#### 【課題趣旨】

これまでの課題をとおして、空間のスケール感や表現方法の基礎について学びました。今回の課題では、シンプルなエレメントを組み合わせて、空間やその造形を考察し、模型や図面を用いてアイデアの具体化を試みます。ここでは、空間は線材や面材といった部材の集合によって成立させます。もちろん模型として成立することが前提ですが、構造は重要視しなくても良いので、より純粋にここにあるべき空間を導き出してください。計画地は本学船橋図書館の中庭です。「図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。以下を参考にしながら、具体的な使い方（機能）や造形のテーマは各自で設定してください。

- ・空間的機能の例：屋外の図書閲覧スペース、休憩スペース、レポートの作業場、グループ学習のスペース、友人との語り場、カフェなど
- ・形態操作の例：反復、相似、増幅、流れ、貫入、断片、隙間など

#### 【学習目標】

- (1) 計画地に赴き、実際の空間を体感する。
- (2) エスキース（計画のスケッチ）と模型製作を繰り返すことで完成品を作り上げる過程を理解する。
- (3) 「かたち」ではなく、「空間」をつくることを意識する。
- (4) デザインの主旨を、言葉（文章）、スケッチ、模型で表現する。

#### 【採点基準】

- (1) 表現したいコンセプトやイメージが実現されているか。
- (2) スケール感を把握しているか（空

間に人物模型を置いて、空間と人との関係を示すこと）。

- (3) 水面を設けた人は、水の魅力を生かしているか。
- (4) 模型やデザイン主旨をきちんとつづけているか。

### 第3課題

「水辺に佇むマイ・スペース  
+ others」  
（出題：菅原 遼、高野洋平）

#### 【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、「+」の要素が求められます。それは自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有できることです。誰は1人でも複数人でもかまいません。人間はそもそも共同体です。そうしたコミュニケーションにこそ、「空間」や「場所」の意味があるので。その場所を訪れる人々に「素敵な何かを」と与える提案を期待します。

#### 【設計条件】

計画地は、本学キャンパスより東陽高速線船橋日大前の北約600mの坪井近隣公園内に位置する。北西側は遊歩道に、南東側は調整池に面した、間口20m×奥行15mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日はジョギングする人、家族で憩う人など、公共な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもって魅力ある場所と成り得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイペース」という定義は住まうスペースではなく、趣味や遊び、自身のアトリエやギャラリー、リスニングルームなどプライベートに活動する場所をイメージする。各自でストーリーを設定すること。自身がかわるスペースであれば

設定は自由。

- (2) 「+」はマイスペースにパブリックスペースをプラスすることを意味する。例えば誰かを招いたり、皆でくつろいだり、地域の人たちが休憩できる場所でもよい。誰かと共有される価値を付与すること。
- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。建物と水辺との動線は必ず確保し、水辺と岸辺、陸地など場所性をとらえ、関係を深める提案を行う。
- (4) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371
- (5) 敷地面積：300㎡（約90坪）
- (6) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
- (7) 構造：自由
- (8) 階数：自由
- ・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。
- ・電気・ガス・上下水道は供給済み。
- ・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

#### 【提出物】

- A2判ケント紙横使い4枚。以下のうち①に1枚、②～⑤に3枚を割り当て。
- ①表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
  - ②配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
  - ③平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
  - ④断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）
  - ⑤立面図：1/50（各面4面以上）
  - ⑥模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）
- 図面は鉛筆描きを原則とするが、彩色（インキング）も可。

ベーシックデザイン演習 第1課題  
ミクロの世界に立ってみよう

■講評

●「日本の夏」：最近はあまり見る機会がなくなった蚊取り線香を見上げた状況を描いた作品です。線香を挟んだ金物が高層の双塔にみえることと、渦巻き状の物体が「回廊都市」のような空間となることを見つけた視点が評価されました。

●「[空間]の中の[空間]」：一見何が描かれているのかわからないスケッチです。鋭い部材が斜めに空間を横切っており、なにか緊張感のある構図が描

かれています。これは Mac のキーボードのエンターキーのトップを外して見えた、バタフライ型のバネですが、高速道路の高架橋にも似た空間を感じることができます。見下げがちな構図を調整し、目線を下げた描写が評価されました。

●「プラネタリウム」：一見本当に明かりのついたプラネタリウムを思わせる空間を描いています。実はこれは、野球帽子の中に閉じ込められた蝶々が見た状況を描いています。その柔らかな質感を見上げた様子が丁寧に描かれています。

●「回る演奏者」：これは一見、SF映画の空間を彷彿とさせる作品です。よくよく見てみると、バネや球体のもの

が CD ラジカセの円盤を挟む機構の様であることがわかります。今にもミサイルが発射されようとしている緊張感のある情景が想像できます。

●「奥まで続く一本道」：上空から降り注ぐ希望の光。これは道路の側溝のグレーチングの間から差し込む光を表現しようとしたものです。それもただの側溝ではなく、巨人となった歩行者が通るすぐ脇に設定されており、逃げ惑う小人が息を潜めている様子が丁寧に描かれています。

●「メキシコの牢屋」：まずタイトルが良いですね。いったい何を意味しているのでしょうか。これは、紙の手提げ袋の中から出口（入口？）方向を見た光景です。日常的によく使う紙袋であ

りながらその中から見上げた風景をあまり考えたことがありません。そうした日常の何気ない素材を選んだところが評価されました。

●「文房具の休日」：押しつぶされるような緊張感と、希望の光がさしこむ天空。そういった SF 映画にあるような雰囲気が良く表現されている作品です。タイトルは、文房具の休日ですが、もう少ししひねったタイトルでも良かったかもしれません。

●「涼爽の夏日」：一見ロケットの噴射口でしょうか、それとも秘密結社の新兵器でしょうか。緊張感のある情景がよく描かれています。しかしながら、1/100の本人はどこに立っているのかが判然としません。（佐藤信治）



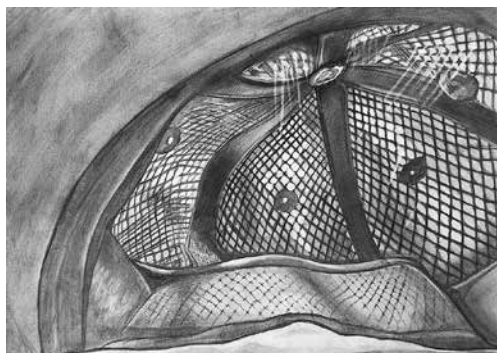
小松 蓮「日本の夏」



山田莉央「[空間]の中の[空間]」



袈裟丸棕「メキシコの牢屋」



柴田棟文「プラネタリウム」



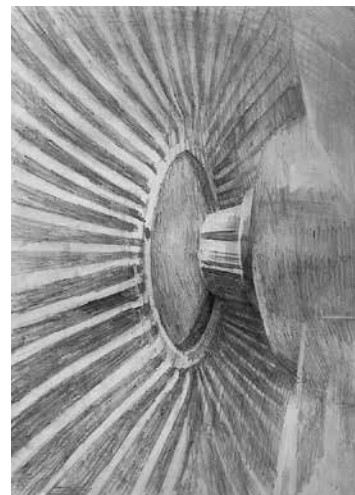
菅谷彩楓「回る演奏者」



藤田一輝「奥まで続く一本道」



石黒敬太「文房具の休日」



王 珂「涼爽の夏日」

点、線、面から  
空間をつくる

■講評

●**任案**：線材をさまざまな建築的エレメントに置換し、空間を構築している案。人の流れを積極的に取り入れ、雨という要素を利用した演出まで考えられている良案。ただし、滝の演出が線材では表現しにくく、水が落ちる放物線を考慮すると、外壁との距離を意識した方が良かったように思える。●**法橋案**：木漏れ日をイメージした線材と多目的チェアの機能をもつ面材が、天と地の両面に演出されている案。多目

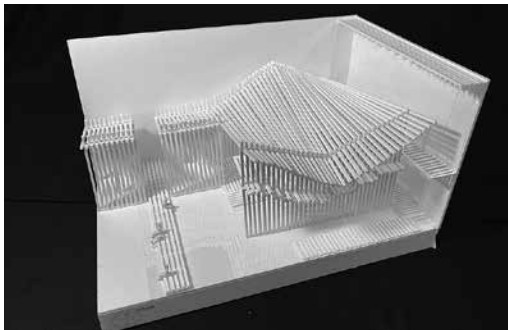
的チェアは自由に移動でき、空間に動きを持たせているのが面白い。図書館の外壁に立つ線材など、コンセプトには不要な要素を取り除くと、より魅力的な空間になるだろう。●**鈴木(貴)案**：人工的な立地に、山を切り取り、配置したような提案。モニュメントのような装いもあり、木々を表現する複雑に絡み合わされた線材と地面を構成する面材が、うまく山というモチーフに溶け込んでいる。周囲を、より山を引き立たすことができる演出があれば、なお良かっただろう。●**鈴木(涼)案**：利用者が自らの快適さに適した空間の広さを選択でき、個人を尊重しつつも、全体として統一感を持たせることのできる提案。単一的ではなく、さまざま

な大きさの空間を体感、選択できることによって、利用者は新たな個性を口にすることなく表現できる面白い案だと思う。  
(筒井紀博)

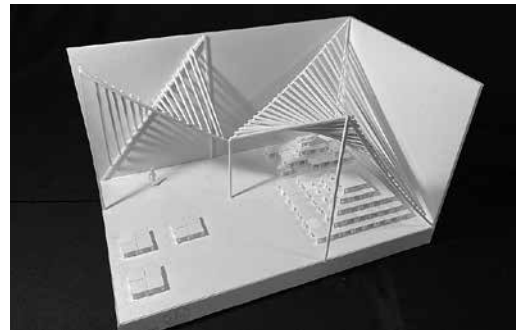
●**伊藤案**：同じ形状の面材のみを使用することにこだわった意志が、これだけ強く構成的なデザインに昇華させたのであろう。通過や佇むという行為から展開させ「動と静」をテーマとした空間は、図書館の中庭に強い象徴性を与える造形力も持っていて、とても秀逸です。●**石黒案**：中庭の上部から吊られた線材が、射し込む光の経路をなぞり地上へと導いている。地上すれすれで風や人が触れて揺らぐそのしなやかさは、模型での検討を通じて作者

が感じ取ったものであろう。●**韓案**：小さな空間をランダムに配置して居場所をつくり、それらをデッキ状の散策路でつないでいる。路地に迷い込んだような高揚感がある。模型のつくり込みが丁寧で、図書館との関係も表現できている。もし実際に建築されたなら、心地よい中庭空間になるだろう。●**金指案**：単純な作業だけで空間を作ろうと試みているが、出来上がったといくつかのオブジェクトの配置には、それ相当なスタディーの跡が見える。スピンしたような形状が重なり合うことで生まれる躍動感や中心からいろいろな方向へ拡散する様は、作者の言う行き止まりのない空間が具体化できている。  
(川久保智康)

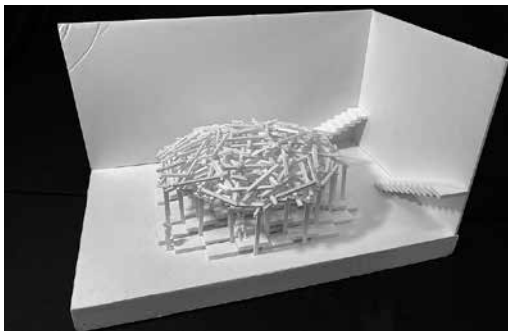
任  
晴  
要



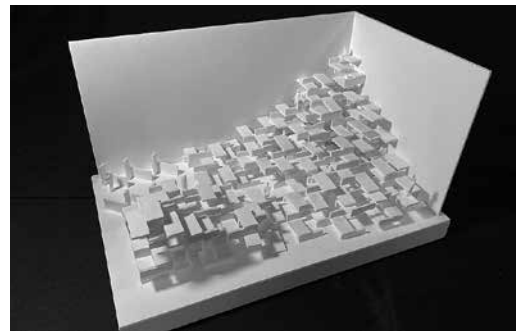
法  
橋  
礼  
歩



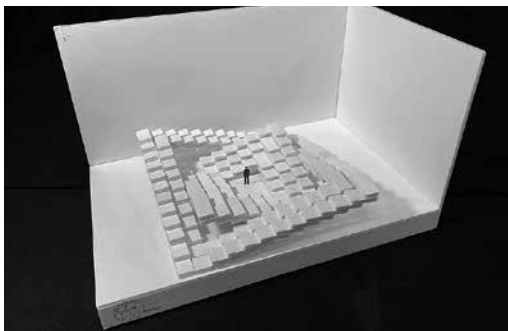
鈴  
木  
貴  
之



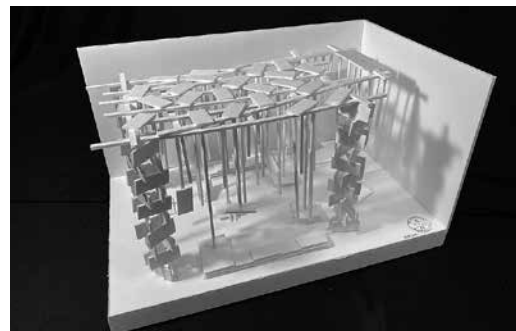
鈴  
木  
涼  
介



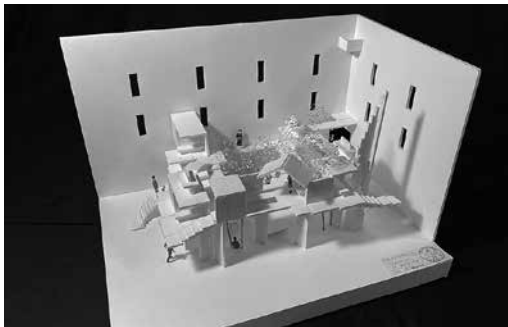
伊  
東  
ま  
や



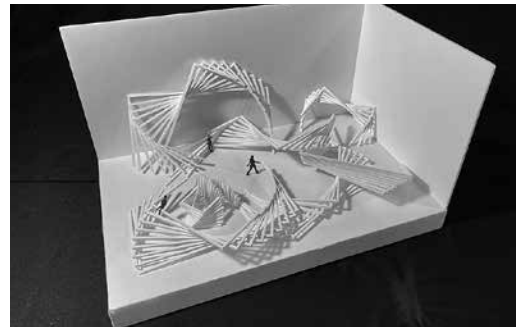
石  
黒  
敬  
太



韓  
吉  
爽



金  
指  
遙



ベーシックデザイン演習 第3課題  
水辺に佇むマイ・スペース  
+ others

異相咲希

「SAPUTA ーサピユター」

■コンセプト

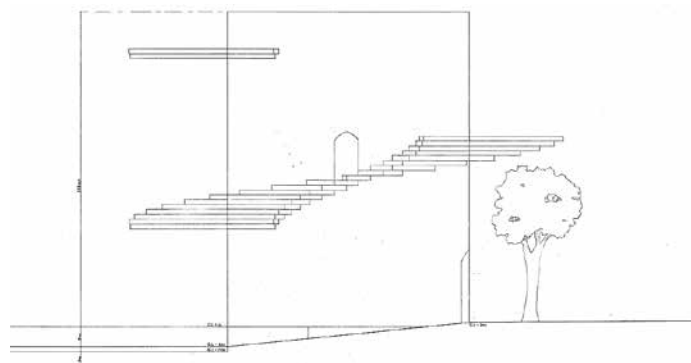
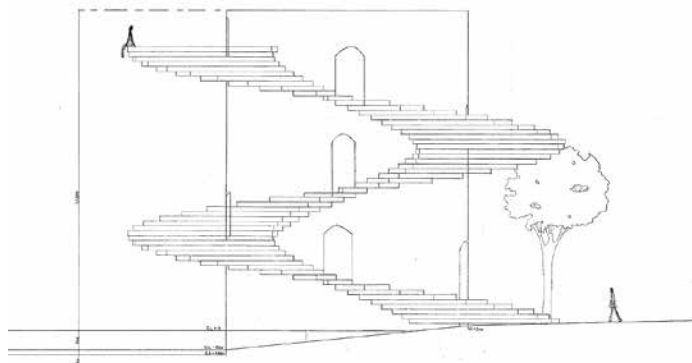
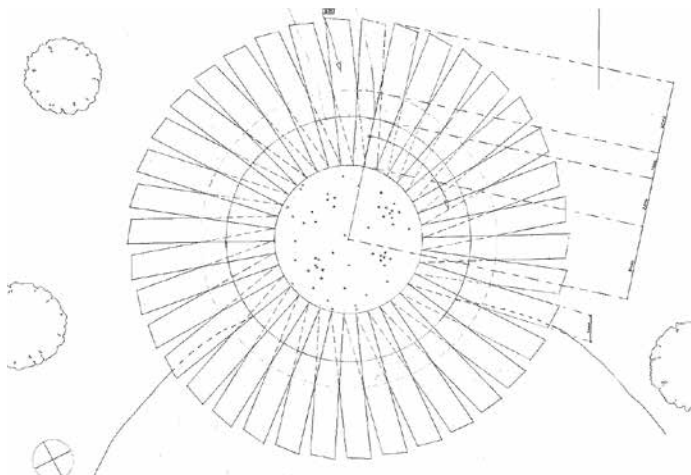
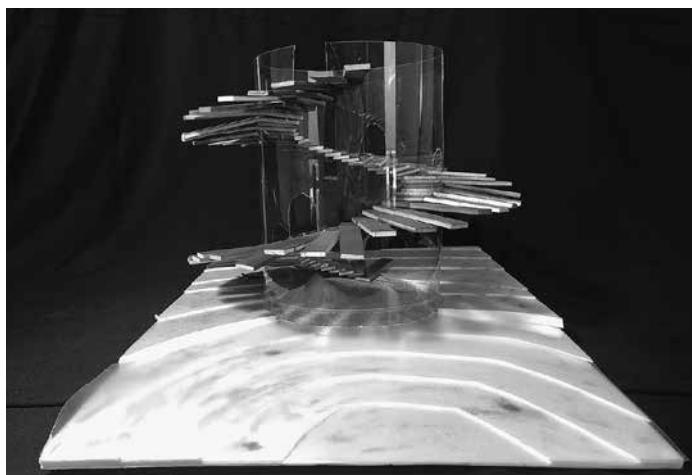
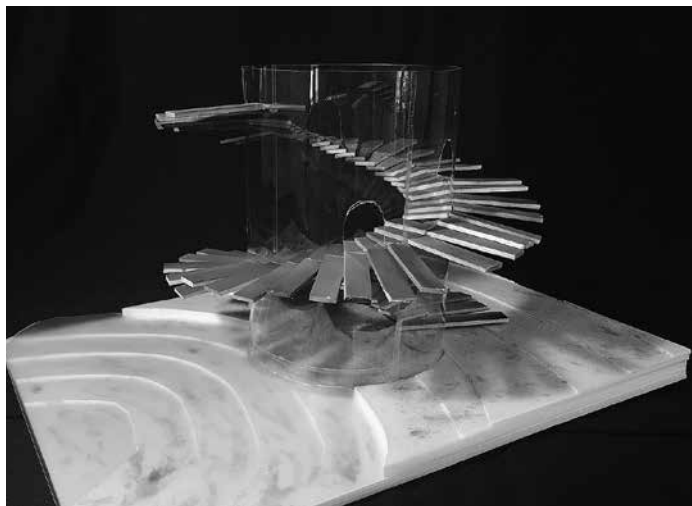
コンセプトは、落ち込んだ時に立ち直れる場所。例えば、ホームシックになって落ち込んでいる人が、浮いた螺旋階段に興味を持ち訪れたとする。最初に目にするのは、浮いたように見える大きな螺旋階段。近づく、大きな木の板、見えていなかったガラスの壁、そして奥には小さな水族館のような空間が見えてくる。螺旋階段を登り

始めると、景色が森、池、まち、と移り変わっていき、広がる景色と飽きない風景の移ろいに心を落ち着かせることができる。階段の内側ほど登りやすく、公共施設という印象が強い場となっており、外側ほど1人で黄昏ることができるパーソナルな空間となっている。立ち位置が高くなるにつれて、怖くなり、気持ちが昂り、ひと通り回って降りた後は、やすらぎを求めグラウンドハープの内部空間へと導かれていく。内部空間から眺める景色は水中、水面、緑、空が広がっている。緊張後のやすらぎやひろげた視界によって落ち着き、気持ちも前向きになって帰ることができる場所。

■講評

極めて独自性の高い詩的な表現で、課題の要求に応えた作品である。好奇心を掻き立てる美しいフォルムがあり、すべてが物語のようでありながら、巨大な段板の蹴上・踏面はどこか実際の、円柱ガラスの内部に2m、外側に

4mの跳ね出しも、内側で重ね合わせることで成立と不成立の間を行き交うような不思議な世界を漂わせている。段バナ側の長辺を真芯に向けた本案では奥側の辺は芯を指さないが、そこで生まれるズレが、人が佇むために用意された外側の縁へ誘うようにも見える。シンボル性と内部空間の切り替えが巧みで、遠景では浮くが、近景ではガラスを認識することを想定し、水中を切り取る断面に置き換えたこと、それにより生まれる空間を物語に組み込んでいることが秀逸である。コンセプトにおいて、例えばの書き出しから感じられるのは、自身の内面に向かいながら、共感する誰かを探するような others である。  
(高野洋平)





金指 遥

「禅莫山」

■コンセプト

ただ、私がお場所に長く居たくなるような空間をつかった。何かするでもなく、池や木など、目の前にあるものが良いと思えるような空間を目指した。模様は、木陰に似たような、水面に似たようなものになっている。1人で居る場所も透けているようになっているのは、1人で居ても何となく人の気配を感じるが、人からの視線が気が

なったりしないように設計した。また、その場にある自然が気持ち良いと感じるように風が通るようになっていて、開放的な空間になるようにした。

1番大きい場所の2重構造は、木陰のように、幾重にも重なる影を再現した。建物が土に埋まっているのは、計画地の池を上から見下ろしてもとくきれいととは思えないと思い、建物内部の椅子に座った時に、視界の高さが池を見下ろさずに池を楽しむことができるよう景色が広がるようにした。また、土に囲まれ、枝に覆われることで、動物が冬眠に入るかのように、安心してリラックスすることができる考えた。水面の植栽は、計画地にもともと存在し、美しい景色をつくるために必要な

要素だと考え、意図的に再現した。

■講評

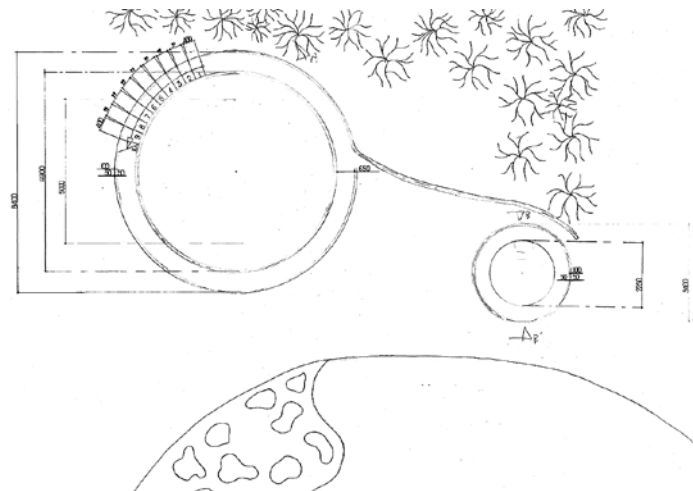
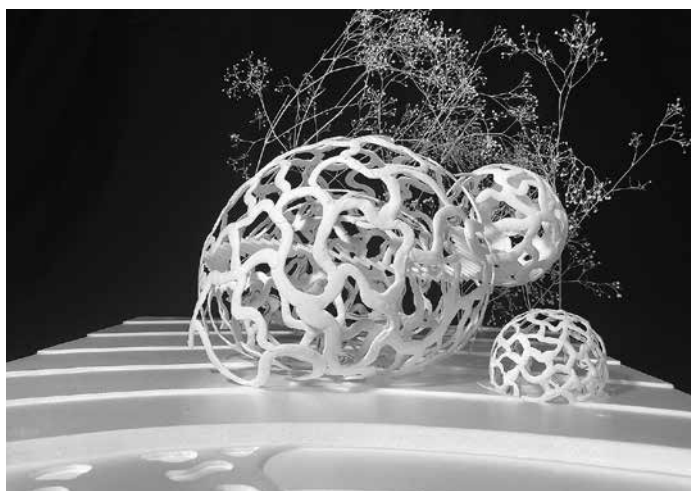
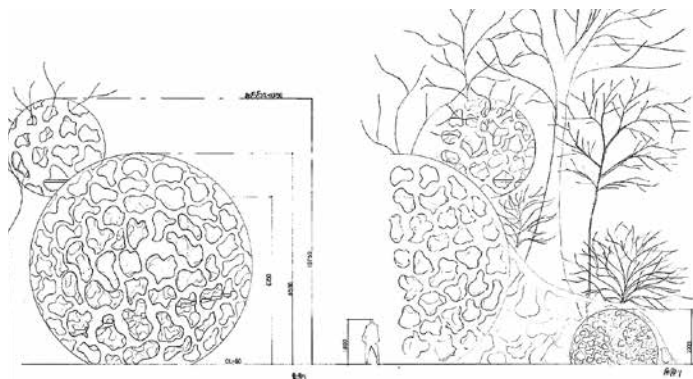
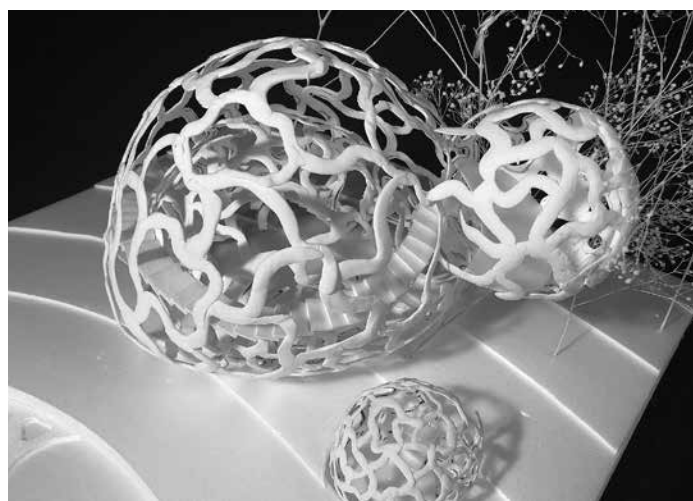
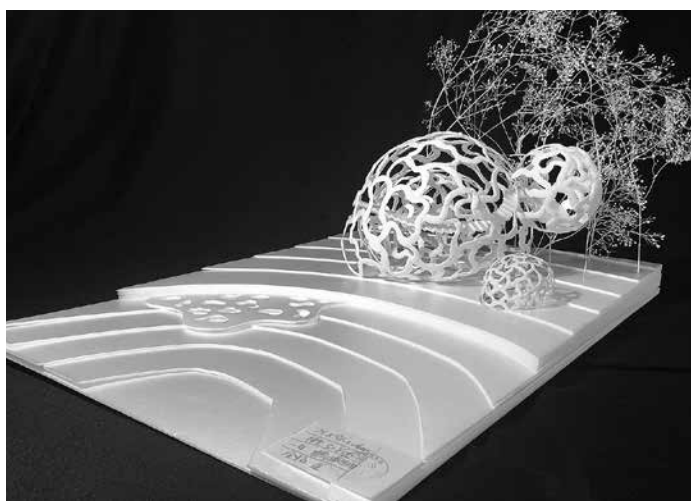
自分が何であるのか。皆にどうしてあげたいのか。自分と他者との関係をコンセプトの軸軸においているマイスペース + others は毎年1年生の最後の課題に立ち足る。

初めての建築空間を設計する課題に自らを問われるこの課題は禅問答のような難題で、それゆえに4年間で最も自分らしさを表現しているともいえる。

金指案は誰をも受け入れたい希望と自分自身で一人にありたいという、彼女自身のさまざまな葛藤(たぶん)を表しているように見える。空間の存在は自然の中に溶け込むように細胞のセ

ルのような有機的な表現をして、繭のように包み込む空間と絡みあう構造が織りなす陰影が緑陰を表現している。それは、その外観が計画敷地の水辺の修景を邪魔をしないで存在できるかという彼女自身の自然へのやさしさでもある。そして、複雑に絡み合った2重構造のダブルスキンのシェルターが彼女の他人との距離に對しての繊細な思いを感じる。

こうした内面的な精神性を建築的に表現すること自体が難しく、本能的にも勇気が必要であったらと思う。そういう彼女の情熱や思いが複雑な造形となり、その複雑な時代を生きること自体が建築表現となっている今を感じる作品である。(鶴田伸介)



ベーシックデザイン演習 第3課題  
水辺に佇むマイ・スペース  
+ others

尾沢圭太

「水辺のパブリックビューイング」

■コンセプト

現地調査の際、まず、1番に気付いたことは、周辺が住宅街であり、人が集まりやすいということである。そのため、多くの人びとが集まり「何か」をする場所をつくり出したいと考えた。

最近、パブリックビューイングというものを見かけた。多くの人が集まりスポーツ観戦などをする様子はコンセプトに合っていると感じた。

水辺に面しているということから、やはり「水」と関係性をもたせなければならぬと感じた。そのため、ウォータープロジェクションマッピングによって映像を投影することを考えた。

自分と他人のスペースは観戦、観覧をとおしてほとんど融合されているが、1カ所が完全に独立したマイスペースも確保している。ここでの活動は自由であるが、水に面した方向には地窓のみ設け、マイスペースに1人でこもり観戦、観覧はできないようにしている。

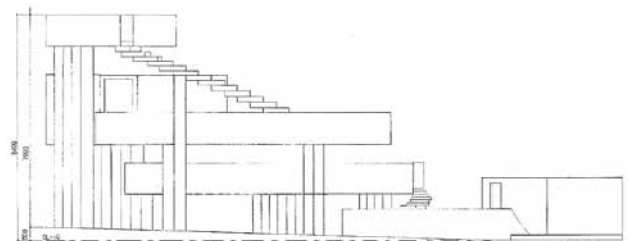
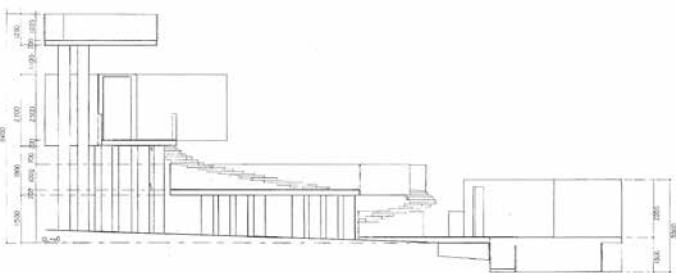
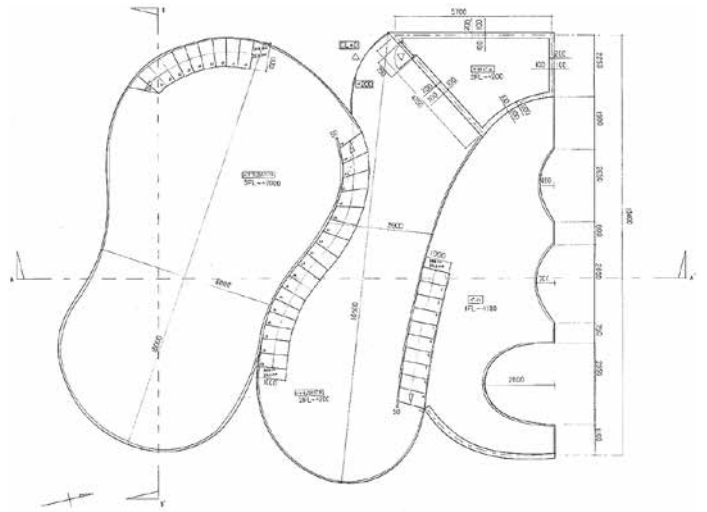
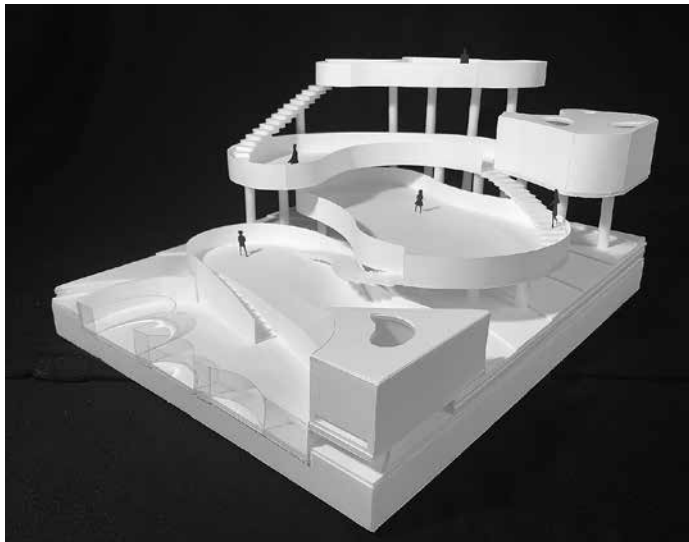
■講評

この課題は水辺に面する場所に自分の活動拠点となる「マイ・スペース」を計画するモノです。

尾沢君の作品を見てみましょう。彼の特徴は、敷地を広さも高さも目一杯使っていることにあります。具体的には、水辺に近いところに自らの「マイスペース」があり、そこから不定型なスラブがだんだんせり上がり、緩やか

な階段で結ばれています。そして最上部に上がると敷地境界ですっぱりと切り取られています。機能としては、水辺を眺める空間しかありません。この課題では「マイ・スペース」だけではなく、さらに「+ others」の要素が求められています。本作品では自分以外の誰かに水辺の良さを紹介するという接点をもうけ、さらに建物と周辺環境とが不定型な空間を通じて、アメーバのように有機的につながっているのがわかります。新しくできたスペースが、周辺の環境と一体になって魅力ある場所となり、さらに自分や親しい仲間、その場所に訪れる人々に「何か」を与える提案となっています。

(佐藤信治)



# 2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
菅原 遼  
安藤 亮  
小野 和幸  
勝又 洋  
桔川 卓也  
高野 洋平  
玉上 貴人  
新田 知生  
間田 真矢  
山田 晶子

## デザイン演習Ⅰ（前期）

### 第2課題

「環境と住空間を考える  
一親水公園沿いに建つ住宅―」  
（出題：安藤 亮、間田真矢）

#### 【課題趣旨】

社会的な背景を踏まえて現代の家族像や生活スタイルを考慮しつつ、周辺環境や景観を配慮した住宅の設計を行います。住まい手の個性を最大限に活かす住空間をイメージし、これからの『住まい方』の提案を求める課題です。敷地は江東区門前仲町付近、古石場川親水公園に面した古くからある街区。都心に近く生活の利便性が高く、富岡八幡宮や深川不動尊の門前町で江戸の下町の風情を残した地域です。それぞれ一方向で接道し、運河跡をなぞる親水公園の散歩道や広場とは視覚的なつながりを持っています。公園と敷地は約1.2~2.5mのレベル差があります。

#### 【学習目標】

- ・現代の家族のありかたや生活スタイルを考える。
- ・住宅空間のスケール感、単位空間や基本寸法を習得する。
- ・エスキースからプレゼンテーションまで、設計プロセスを学ぶ。
- ・住宅としての機能を満足するだけでなく、空間的魅力を考察する。
- ・製図記号等の図面表記のルールを理解し、建築図面の作図および表現の方法を習得する。

#### 【敷地条件】

- (1) 東京都江東区牡丹3丁目24-6周辺
- (2) 準工業地域
- (3) 建ぺい率60%、容積率300%
- (4) 最高高さ制限10m以下
- (5) 第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域
- (6) 構造は自由。地盤は良好

#### 【設計条件】

- (1) 生活スタイルは各自自由に設定。

- (2) 家族構成は夫婦+子2人の4人以上の家族を想定。2世帯も可。
- (3) 駐車スペースは1台以上設置する。
- (4) 家族それぞれの寝室（個室）、および居間、食堂、台所のほか、収納等生活に必要な諸室を計画する。
- (5) 各室への動線をよく考えて計画する。とくに家事動線に配慮する。
- (6) 各屋の大きさは適宜設定を行う。
- (7) 家族の距離感や関係を配慮する。
- (8) 内部と外部の関係や、親水公園や近隣住民との関係を十分考慮する。
- (9) 各敷地にはそれぞれ特徴があり、その敷地を活かした計画を行う。
- (10) 延床面積120㎡~150㎡程度。階数制限なし、最高高さの制限を守る。

## デザイン演習Ⅱ（後期）

### 第1課題

「街のアートミュージアム」  
（出題：玉上貴人、勝又 洋）

#### 【課題趣旨】

東京・門前仲町エリアの、都心のオープンスペースである都市公園に隣接した計画地において、街のアートミュージアムを計画するものである。課題タイトルに「街の」とつけているのは、街の顔となり、地域とつながりを持つ建築の提案を求めるためである。アートミュージアムが街にどのような影響を与えるのか、選定した展示コンテンツにふさわしい空間の質はどうあるべきか、敷地の特性を読み取り、より具体的なイメージを膨らませながら図面を描いてほしい。

#### 【計画敷地および周辺条件】

- 計画地面積：2,451.91㎡
- (1) 敷地形状、接道条件、周辺状況等は添付資料敷地図を参照。
  - (2) 現況は地盤の起伏が3mほどある。設計においては更地として計画。
  - (3) 敷地内の切土・盛土は可能。

- (4) 用途地域：準工業地域、建ぺい率60%、容積率300%、準防火地域。
- (5) 電気・ガス・上下水道完備、地盤良好。

#### 【計画建物設計条件】

- ・延床面積：約1,000㎡とする。
- ・構造形式は自由。地上2階建て程度、必要によって地階も可とする。
- ・隣接する公園との関係性を活かした外構計画をすること。つながりを高めるための擁壁の形状変更や、敷地内へ公共空間を引き込むことは可。ただし、敷地内のアプローチ動線、用途との関連、地盤の高低差、セキュリティラインに配慮。
- ・車いす来客用兼作品搬出入用として、駐車場1台分を設けること。一般来客用駐車場は設けなくてよい。計画する場合は適宜とする。1台あたり必要面積は設計資料集成などを参照のこと。
- ・駐輪場を10台以上設ける。必要面積は設計資料集成などを参照のこと。
- ・広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園等、適宜自由に設けてよい。

### 第2課題

「地域とつながる都市型集合住宅」  
（出題：新田知生、桔川卓也）

#### 【課題趣旨】

古石場川親水公園沿いの敷地に都市との関係性を配慮して集合住宅を計画するものである。深川不動尊や富岡八幡宮の門前町として古くから賑わいある街として発展してきたエリアである。広域の視点で見ると、北側の清澄白河エリアは、新たな文化圏が形成されつつあり下町のストリート文化が形成されている。下町情緒ある住宅エリアにおいて、そこで暮らす人々と地域の人々が自然と交流できるような魅力的な都市型の集合住宅の提案を求める。

#### 【計画敷地および周辺条件】

- 計画地面積：2,108㎡
- (1) 敷地は、添付資料敷地図参照のこと。

- (2) 敷地条件は準工業地域（建ぺい率60%、容積率300%）。防火地域。
- (3) 電気・ガス・上下水道などは整備されている。地盤は良好である。

- (4) 現存する敷地内の建物は、更地として計画する。

#### 【計画建物設計条件】

- (1) 鉄筋コンクリート造、地上3階建て以上5階建て程度の中層集合住宅。
- (2) 総戸数は20戸以上、1戸の床面積は50㎡~75㎡程度、入居者設定によって床面積と間取りの提案は可。
- (3) 住戸形式はフラットタイプのほか、メゾネットタイプ、トリプレットタイプ等、立体的な住戸形式としてもよい。
- (4) 接階の提案として、入居者同士の交流や、広く地域に開放できる利用方法を提案すること。
- (5) 共用エントランスには、メールコーナーを設ける。
- (6) 共用部として、管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける。
- (7) バリアフリーに配慮し、エレベーターを必ず設置する。
- (8) 延床面積を算定すること。外気に有効に開放され、屋内的用途に供しないピロティ・バルコニー・吹きさらしの共用廊下・屋外階段などは延床面積に算入しなくてよい。

#### ・屋外施設

- (1) 駐輪場は平面駐車とし、来客用兼搬入用1台分を必ず設ける。その他台数は適宜とする。
- (2) 駐輪場を20台分以上設ける。
- (3) 牡丹町公園、親水公園との関係性を活かした外構計画をすること。つながりを高めるための擁壁形状の変更や敷地内へ公共空間を引き込むことは可。敷地内のアクセス動線、用途との関連性、地盤高低差、セキュリティラインに配慮すること。
- (4) 広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園などは、適宜自由に設けてよい。

デザイン演習 I 第2課題  
**環境と住空間を考える**  
 —親水公園沿いに建つ住宅—

小田瑞葵

「そと、なか、そと、そと、なか」

■コンセプト

B敷地選定の理由は公園と程よい距離感があること。車通りの多い車道に面していないこと。それに加え、縦長の立地を生かした建築ができると考えたからである。

この住宅のコンセプトは「内と外のつながり」である。この住宅に暮らす家族は、京都の長屋のような家に憧れをもっている。それを現代的にアレン

ジし、土間空間とは少し違う「上履き空間」をつくる。また、都会の中でも緑を感じることができるよう、多くの中庭を設けている。この中庭には緑を感じる「見る中庭」と、外で軽い食事をする、洗濯物を干す「使う中庭」がある。さらに、手前には来訪者が入る空間を、奥に進むにつれてプライベートな空間を配置した。その区切りに大きな壁を設け、部屋の高さで空間にメリハリをつけた。しかし、その空間もぶつ切りではなく、奥から手前まで窓を設け風が抜けるようにした。

■講評

与えられた3つの敷地から、東西を住宅敷地に挟まれ、南側を開けた公園、北側を前面道路とする敷地を小田君は選択した。

「周りの目があるこんな世の中じゃ」というタイトルが示すように、プライバシーをとくに意識した住宅案である。

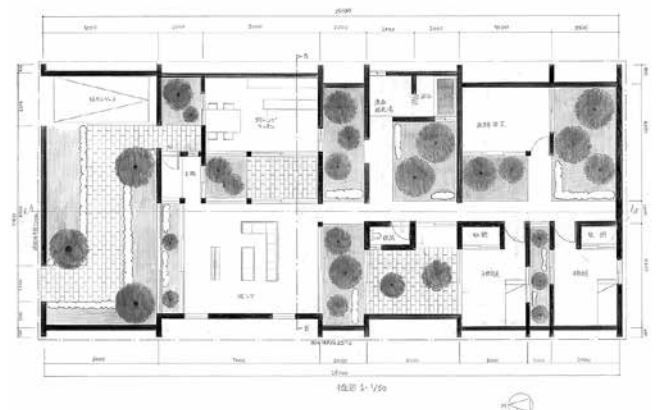
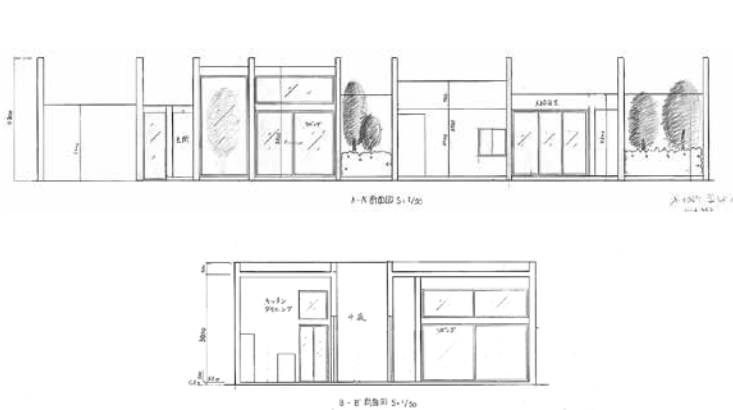
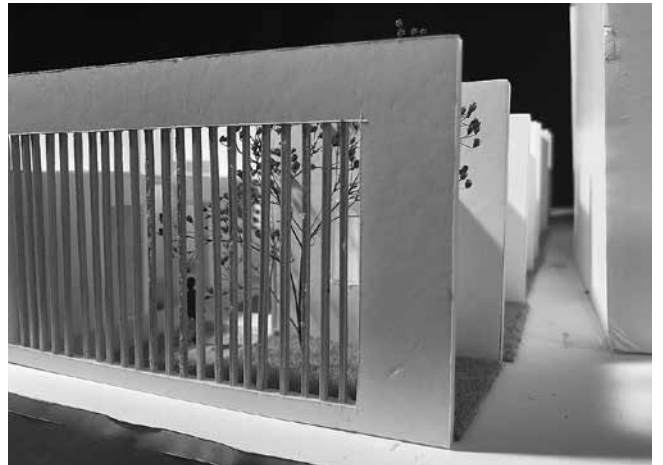
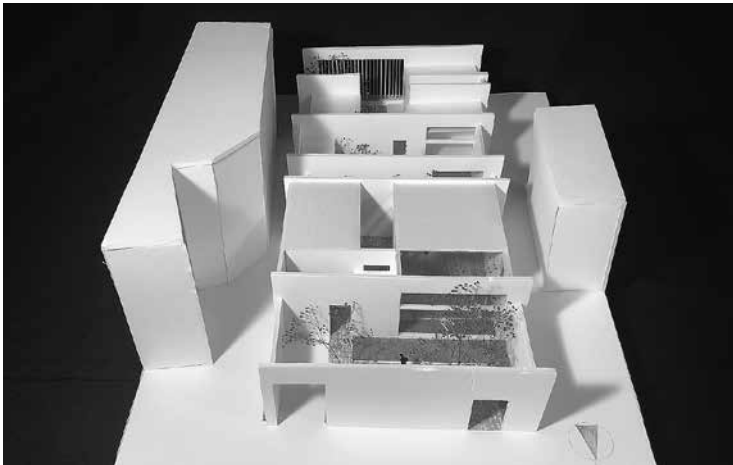
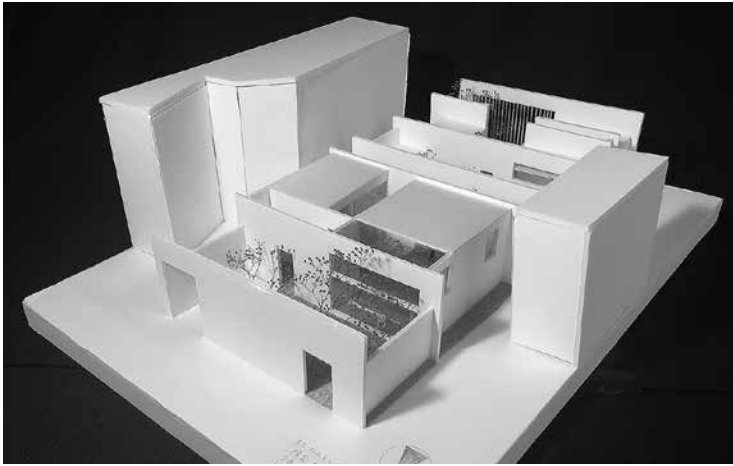
小田君はコミュニティ=オープンという形式に疑問をもち、プライバシー性の高い空間に孔を開けていく作業でコミュニティのつながり、光、風、空間の快適性を獲得しようとしている。

具体的には、平家構成とし、道から

公園に平行に並べられた壁の距離(間隔)・孔(開口)坪庭(外部空間)の3つ要素で南側の親水空間まで連続した奥行きのある明るく風通しの良い空間を獲得している。

とくに、坪庭の配置とその大きさ・そこに植えられる緑を意識し、道路から玄関へのアプローチは、玄関先での立ち話や子どもの遊び場などに使えるように、個室や水回りは空間の連続性を失うことなくプライバシーを確保できるようにするなど、スタディーを重ねて導き出している。

住宅の密集する都心住宅のプライバシーという問題を安易に避けず、空間の豊かさとのバランスを巧みに解いた力作である。(安藤 亮)



川内俊太郎

「中庭と生きる家」

■コンセプト

住宅のコンセプトは中庭である。敷地は住宅地の真ん中で、隣にはマンションも建っている。そうした中、どうやってゆとりある暮らしを提案しようかと考えた結果、中庭という結論に至った。そして、中庭と取り巻く環境の中に親水公園を融合させたものが本提案である。リビングからは中庭も親水公園も見渡すことができ、なおかつ、

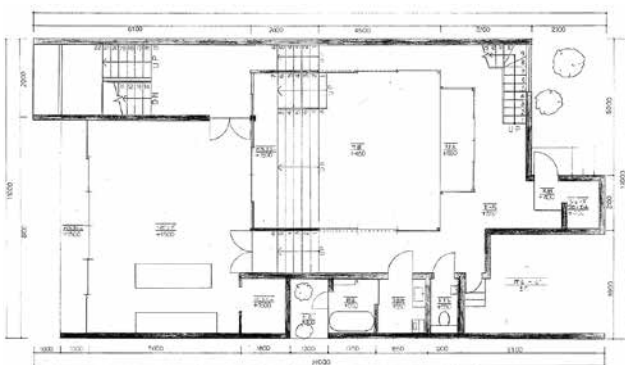
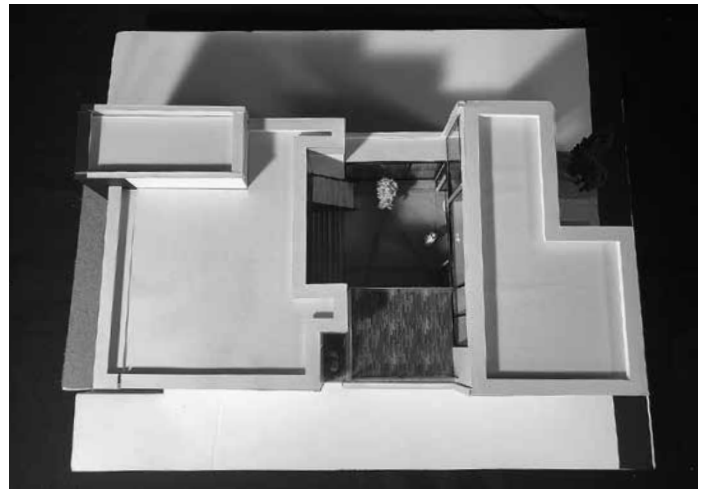
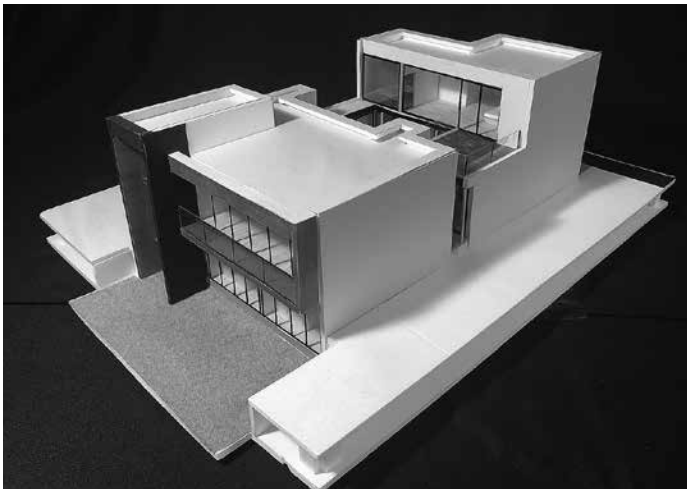
両方の窓が大きく開閉することができるようにすることで風の通り道を確保した。

南側の建物を少し低くすることで、中庭の日当たりを良くするとともに、地階からも中庭にアクセスできるという地階独特の閉鎖感も払拭した。冬至の際にも、わずかながら中庭には光が落ちる。これにより、空間的な温かさは変わってくるであろう。西側の廊下は階段とひと続きとなっており、上に抜けるような見渡しと開放感を感じるようデザインした。

■講評

B敷地において、中庭を生活の中心に置いた作品である。中間期に中庭を介して生活することを想定しているが、中庭が生活の主たる動線となり得ることで無理のない活用を生み出している。ホールの計画では中庭を象徴的に鎮座させるのではなく、配置上、テラスと階段の関係に価値を置きなおすなど場面への対応がみられ、リビング、主寝室などの諸室だけでなく、廊下の

隅々まで空間を感じる間合いが点在している。リビングは敢えて家具を配置していないが、どの向きにも成立して見えるのは計画者が意図したものである。各所階段の昇降時、登り口、降り口、体を転回する場面など、それぞれに空間の意図が置かれ、密度の高い計画が連続している。中庭を享受するにあたって、好みの季節は年齢によって変わるかもしれないが、先の数十年、人が暮らす普遍的な環境に 대응していることに深く共感した。B敷地の現実を捉え、浴室とメイン廊下を挟んで中庭を東側のマンションから逃すことから始めており、読み解きと問題を解決する中でたどり着いた誠実な空間である。  
 (高野洋平)



デザイン演習 I 第2課題  
**環境と住空間を考える**  
 ー親水公園沿いに建つ住宅ー

齋藤瞬汰

「木で形成された家」

■コンセプト

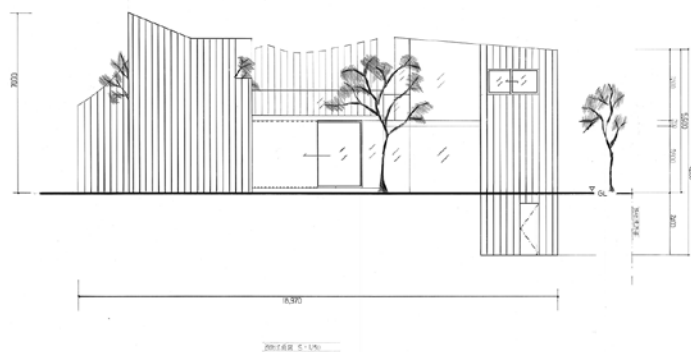
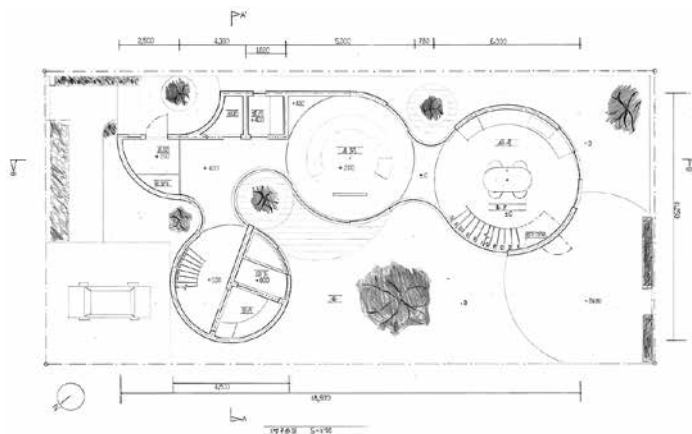
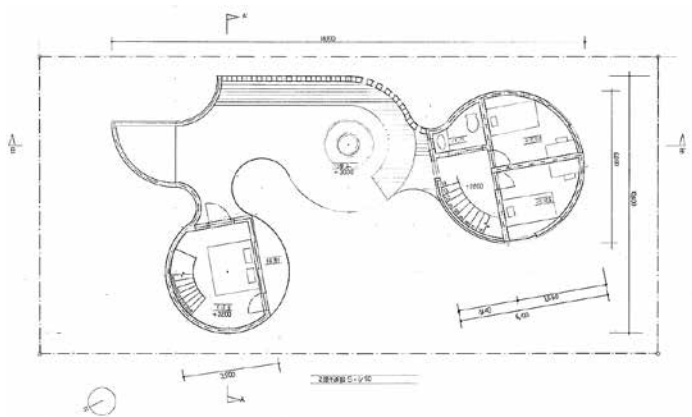
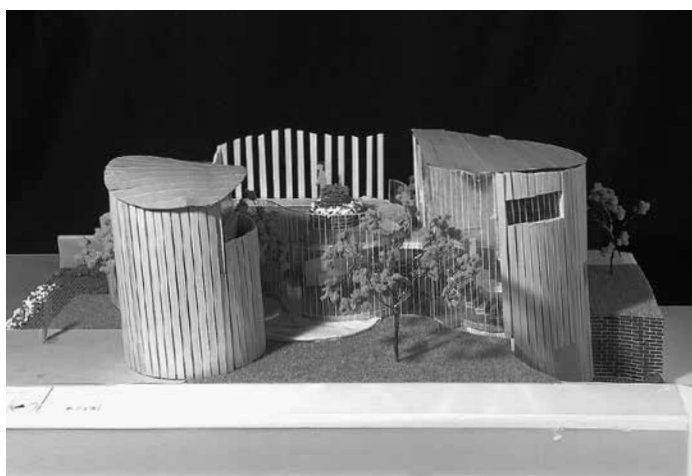
私が住宅を設計する上で考えたことは、古石場川親水公園が水と緑を取り入れることにより美しい場所となっているのに対し、公園沿いに建つ住宅は自然を感じにくくなっている印象を受け、自然を感じることができる住宅を設計したいと考えたからである。そのため、木材を主とした住宅を設計したいと考え、建物のかたちは、家の庭

に適切な植栽を配置し、その植栽の力によって丸みを帯びたイメージとなるようにした。また、公園沿いに立地していることから、庭の一部のレベルを下げることで公園に直接アクセスできるようにした。さらに、正面玄関にガラス張りの窓を設けることで中庭が一望できるようにし、加えて、壁を少なくすることで各部屋も見渡すことができるようにし、自然の開放感を感じることができるようにした。開口部には植栽を配置することで各諸室のプライバシー性を担保できるようにもしている。

■講評

この住宅は隣接する親水公園とのつながりを積極的に考慮して計画をするものであった。親水公園と敷地のレベル差は2.5mあり平面的なつながりを

つくることは難しく、多くの学生は眺望などを重視し、実際に公園へアクセスすることを考慮しなかった。齋藤君も最初の計画ではアクセスは考えていなかったが、スタディをする中で、この敷地の一番の特徴である親水公園との連携の意味を再考し、階段を設け2.5m下の公園レベルにアクセスできるものとした。この結果、立体的な空間性が高まる計画となった。円弧が多用された平面計画により、曲面の柔らかさと空間の凹凸のメリハリという2つの対立した空間要素がうまくバランスされており、興味深い作品である。凹部にプライバシー確保のための樹木を配置したのはこの案の魅力を高めるアクセントとなっている。(高野洋平)



越原瑞樹

「壁画あふれる未来美術館」

■コンセプト

計画地である門前仲町の牡丹町公園周辺には、親水公園と壁画が南・西側にある。本設計では、親水公園に元来ある壁画を元に「壁画の美術館」を提案する。

計画地は親水公園と高低差があるため、敷地の一部を掘り下げることで、親水公園からのアプローチを増やした。敷地と親水公園との境界線を曖昧にする

ことで、それぞれの空間をつなぎ、自然と美術館へ足を運ぶように誘導する。こうして親水公園も美術館の一部と思わせ、本来の計画地以上の広さを持つ壁画あふれる美術館となる。

ここでは地域住民や訪れた人が美術館の壁に絵を描き、時間をかけて更新していくことでこの美術館は完成する。また館内の展示内容は幼稚園児や訪れた人の絵画を展示する。

美術館の壁の配置として、敷地周辺を歩くと壁画がさまざまなところで垣間見えるようになっている。また、敷地内でも壁画を抜けた先にさまざまな空間が広がっている。中央部には芝生や木があり、外空間でも観覧し楽しむことができる。こうして、この美術館

は展示物だけではなく、建物そのものとその空間をアートとした美術館となる。

■講評

この作品は、公園に建つアートミュージアムという特殊なプログラムを、建物単体で完結するのではなく、周辺のランドスケープと一体的にデザインし、建物の内と外がつながっていくような提案である。

通常であれば、決められた敷地に建築ボリュームを作り、その中に展示物と動線の間接性を考えながら空間を構成

しがちだが、越原案の場合にはまとまったボリュームがない。

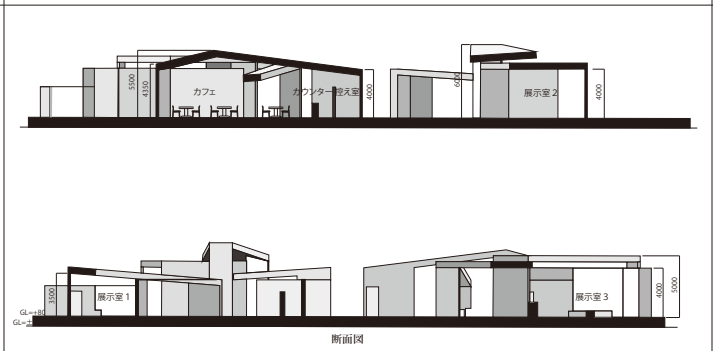
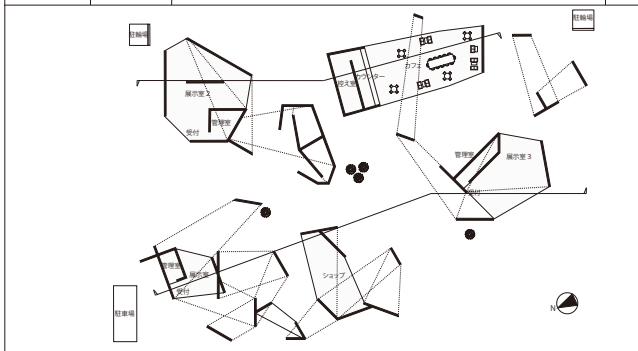
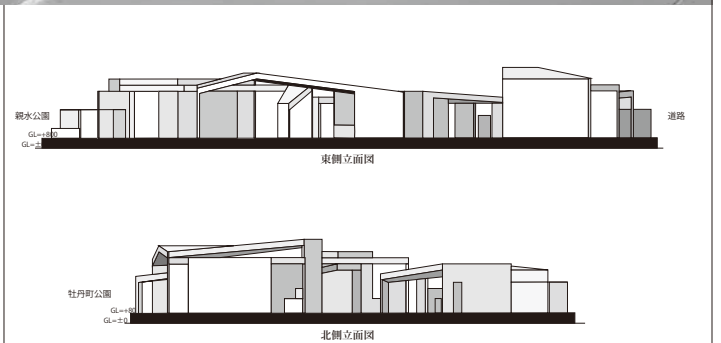
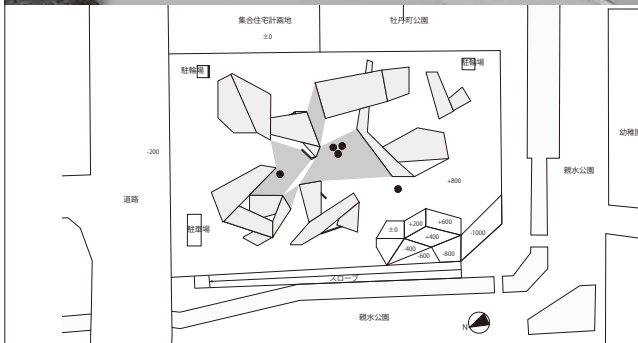
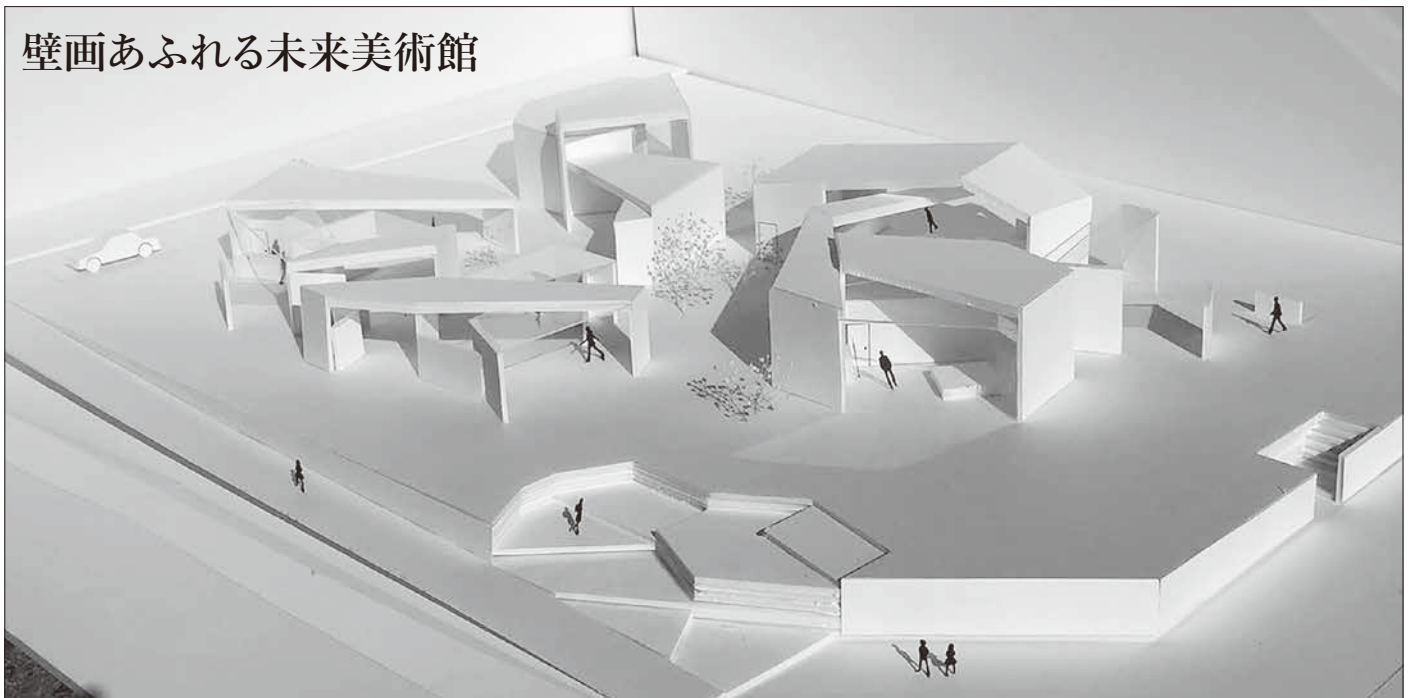
敷地に対して壁をひたすらランダムに重ね、屋根でつなげることで、不思議な空間を作り出している。

ランダム配置された壁はアートのための「キャンバス」にもなり、地域住民が描く絵によって美術館としての展示空間と変わり、時間とともに空間が変化していくような建築でもある。

既存敷地の擁壁に描かれたアートウォールをヒントによって出来上がった越原案は、地域住民とともに建築を育てるといった「まちのアートミュージアム」としての在り方に応えていると考え、この作品を高く評価した。

(桂川卓也)

# 壁画あふれる未来美術館



田中日那子

「きものミュージアム」

■コンセプト

計画地牡丹町公園が位置する門前仲町は江戸時代に建てられた富岡八幡宮や深川不動堂があり、観光地としても人気な江戸情緒あふれる街である。そこに江戸時代から受け継がれてきた着物を展示する「きものミュージアム」を計画する。着物は日本の美意識と技術が詰まった歴史あるアート作品である。着物の帯をモチーフに設計し、帯

の中に機能を並べその帯を締めることで空間を作り出すようなイメージで設計を行った。古石場親水公園と牡丹町公園に隣接しているという立地を生かし、公園と、道路側と公園に面した場所にエントランス、ショップ、カフェを配置することで地域に開いたミュージアムとした。展示室は太陽の直接光から作品を保護するため2つめの屋根の隙間から間接的に光を取り込み、作品と向き合える空間をつかった。また、鑑賞だけでなく着付け体験をとおして非日常的な体験、街を散策することで今まで気が付かなかった街の魅力を再発見できる。

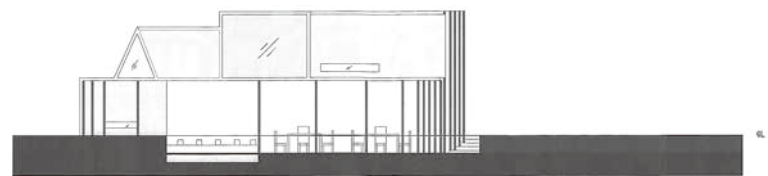
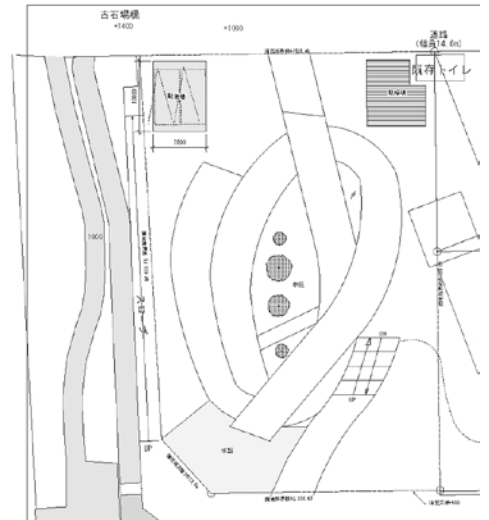
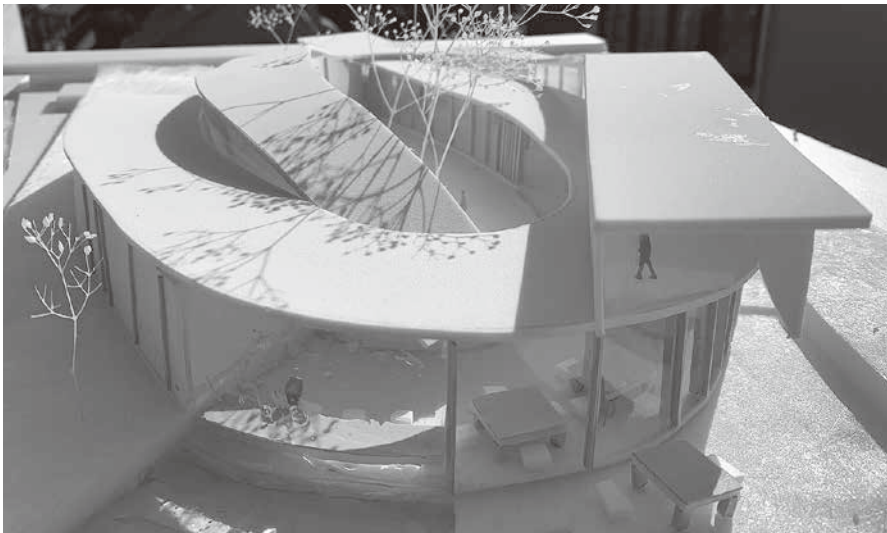
帯を結ぶデザインのこの美術館で着物の魅力に触れるとともに、着物姿の

人がこの街に増える。そんなこの町と美術館が帯を締めるように紡いでいく。

■講評

日本が世界に誇る伝統文化のひとつである「着物」。海外では「着るアート」とも呼ばれ、世界から高い評価を受けており、近年では「キモノ女子」といった、日常や観光で着物を気軽に楽しむ若い女性も増えており、着付けの先生である曾祖母の影響を受けた作者自身もその一人であった。江戸情緒が漂う門前仲町の風景と、「着物の美しさを世間に広めたい」という感情が

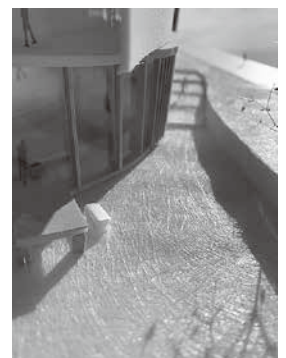
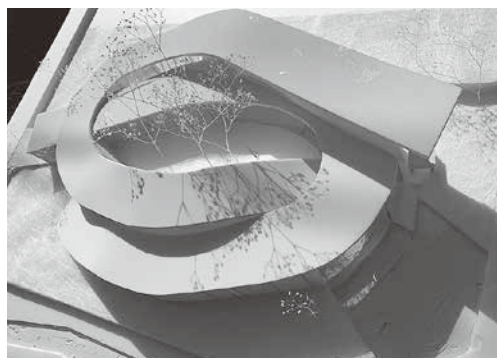
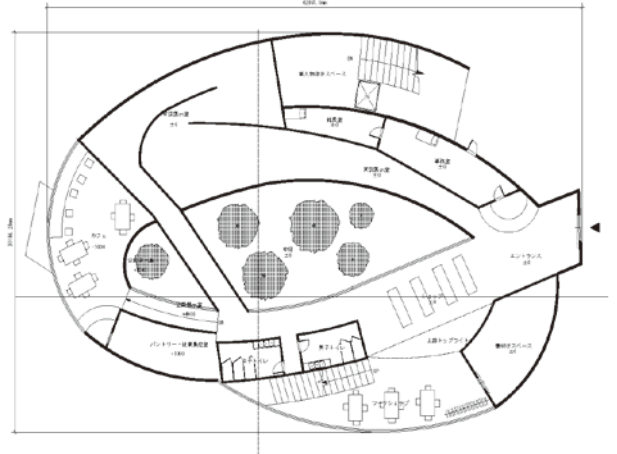
重なりあい、「帯」をモチーフにした独特な造形で巧みにまとめ上げている。着物のようにやわらかい曲線と内部に差し込む自然光が、奥ゆかしさを感じさせるシーケンスを生み、周辺環境との関係を読み解きながら丁寧につくり込まれている。女性を外見から華やかに彩るだけでなく、内面の美しさを引き出す「着物」。その本質を「きものミュージアム」という建築で見事にまでに表現している。ここで「着物」を学び、体験した着物姿の人々が散歩しているシーンを思い浮かべると、街の風景そのものが華やかになるのではないだろうか、そんな想像がどこまでも膨らんでいく魅力溢れる作品である。(勝又 洋)



西側立面図



A-A 断面図 01/100





小林 葵

「みんなで育てて、作って、一緒にご飯を食べよう」

■コンセプト

現在、各地域において「子どもたちの地域からの孤立」が問題視されている。これは、人間関係の希薄化が原因であり近所付き合いの希薄化にも影響している。そこで、この集合住宅では近所付き合いが進むことによって、より豊かな暮らしができるよう仕掛けを施した。

1つめは、「街のキッチン」を集合住宅の空間の真ん中に持ってきたことである。このキッチンは、住民はもちろん地域の人たちも利用することができる。この地域は、郷土料理店が多く立ち並んでおり、この「街のキッチン」を使ってイベント等を行うことで、地域活性化を図ることができると考えた。

2つめは、3階の共用部に住民が利用できる畑を設置したことである。2階のキッチンで作る料理に使う食材をこの畑で育てることで、みんなで1つのことをやり遂げる一体感が生まれ、住民同士のつながりがよりいっそう強くなっていくだろう。

3つめは、2階を地域の人たちと住

民が交流できる空間としたことである。2階には、3階の住民が利用することのできる店舗を設け、2階フロアに高低差をつけることでどこでも座ってコミュニケーションをとることができる、人々の交流の空間とした。

■講評

この集合住宅は社会問題まで解決しようとする試みがあり、他の作品と比べても異質なものとなっている。空間設計において社会性とはどういうことか。スタディ模型を作り続け、美的性・空間性・機能性から立体的な動線・ゾーニングを作り上げ、公的領

域・私的領域をそのスタディに重ね合わせる等、多方面からのアイデアが編み込まれている。その中心に都市のキッチンを置くことで中心性もあり、メリハリがあり、魅力的な作品となっている。

また、プレゼンテーションにおいては実体験からの話もあり、なぜこのような社会性を持った建物が今の都市にあるべきか、気持ちも入った話で、とても惹きつけられるものであった。

建築設計は社会的に意味があるものであるべきだと思う。このようにデザインと社会が掛け合わされた提案が世に出ていき、多くの方々の生活の質に関係する建物が増えることを期待している。  
 (新田知生)

みんなで育てて、作って、一緒にご飯を食べよう

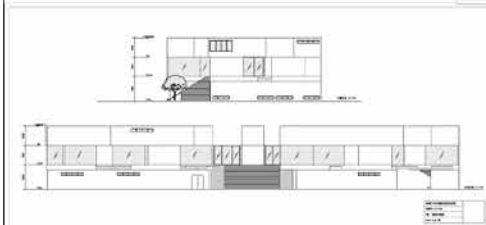


1階中央に  
**「コワーキングスペース」**  
 周囲には  
**高齢者向けの住戸**

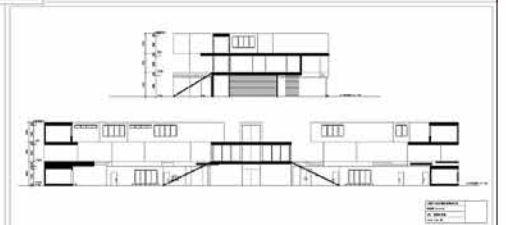
2階中央に  
**「街のキッチン」**  
 周囲には  
**開放的な店舗**



3階中央に  
**「共用の畑」**  
 周囲には  
**ファミリー向けの住戸**



中心に人が集う集合住宅



川内俊太郎

「公園を望む働き人の家」

■コンセプト

この集合住宅の敷地は門前仲町駅から徒歩5分で牡丹町公園に面している。周辺には下町情緒あふれる一方で、沿線の東西線は非常に混雑することで有名だ。そこで、集合住宅にシェアオフィスを設けることで住民を混雑から守りつつ、周辺からの人も呼び込めるのではないかと考えた。前課題で創作文化を取り上げた美術館を設計したため、

この集合住宅はクリエイターのための住宅として設計され、事業を始めたばかりの駆け出しのクリエイターから家族をもつクリエイターまで幅広く対応するために3種類の部屋を用意した。それぞれのクリエイターの交流を図るためのスペースや生活が不規則なクリエイターの健康を維持するためにジムを設けた。そして、この集合住宅に住むクリエイターがシェアオフィスを利用することで周辺地域からシェアオフィスに集まる人との交流が生まれ、新たな商品やアイデアが生まれる。その商品やアイデアを1階で展示販売するスペースを設けることで、クリエイターの成長や新たな地域の名物が生まれ、その地域一体の活性化ができると考え

た。

■講評

住宅がプライベートな暮らしの場としてだけでなく、働く場の役割を担うようになってきている。家族とのつながりを持つこと、個のスペースを確保すること、さらには社会といかに接続

できるか、集合住宅の在り方はさらに拡張していくように思う。

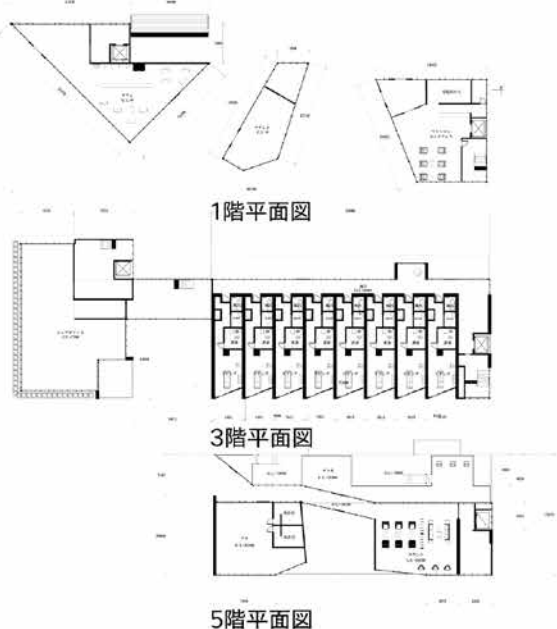
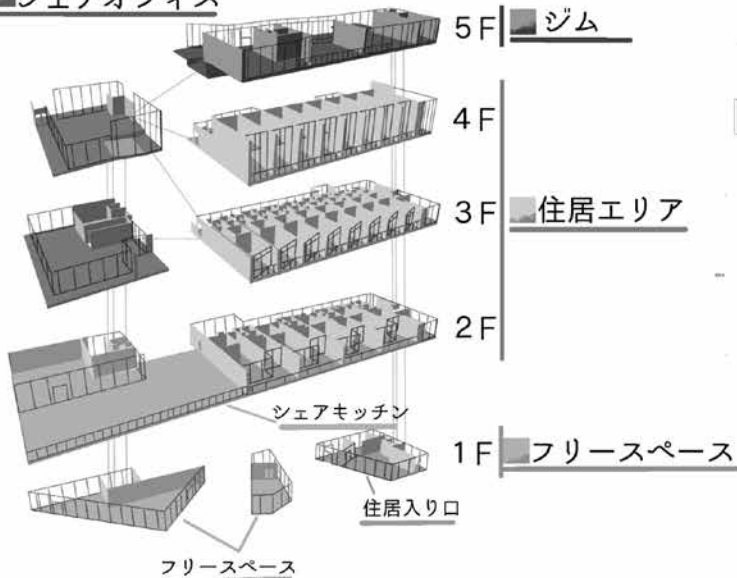
川内案は、公園に面する立地を活かし、カフェ、シェアオフィスが、住宅と適度な距離感を持って立体的に構成され、地域社会との多様なつながりを提案している。家族と過ごすこと、働くこと、過ごし方に適した場を選択しながら回遊するように暮らすシーンが想定されているようだ。同じ街に住む人にとっても日々の生活がより良くなるための拠点になればと感じさせる。暮らしに求められる新たな機能を受け入れ、その変化に追従できる余白を用意しておくことが、これからの都市型集合住宅の条件となるのではと思わせる提案である。(小野和幸)

# 公園を望む働き人の家



集合住宅とシェアオフィス、販売ブースのある複合型住宅。シェアオフィスと集合住宅を切り離したのはONとOFFを切り替える必要があると考えたため。一方で、全体的に一体感を出すために全体を大屋根で囲んだ。

■シェアオフィス



# 3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築メディアデザイン）

## デザイン演習Ⅲ（前期）

### 第1課題

「ハンマーヘッドクレーターミナル  
周辺 海の駅計画」  
（出題：内海智行、佐藤信治）

#### 【課題意図】

海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。当初は大型のヨット、モーターボート等の海洋レジャー利用環境整備や、情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰でも利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆トイレ等の設置の3点が必要最低登録要件となる。行政的解釈から休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加え海の駅ネットワークの構築が図られるものと考えられる。加えて以下3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能 海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能 来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供
- (3) 地域連携機能 それぞれの地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進

課題は、この新港地区の突端で内水面の地形と眺望を生かしながら、将来の周辺開発を見据えた海上からの交通拠点としての機能を拡充する。設定敷地エリアは陸上で約9,000平米。内水面の左岸には大棧橋を補完する新たな旅客ターミナルが建設中であり、8万トン級の客船が停泊することになる。そうした環境を見据え、海上の結節点として公共性と賑わいを演出することのできる施設計画を求めるものである。

#### 【設計条件】

- (1) 敷地条件

敷地形状、接道条件、周辺状況は、別添図面を参照。電気・ガス・上下水道は整備されている。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導による。

#### (2) 建築条件

構造形式は自由。下記程度の規模であれば、建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。

#### (3) 計画諸元

- ① 建築諸室：延べ面積約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）  
・ 客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）  
・ 管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）
- ② 屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽などを建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は若洲キャンプ場の既存駐車場を利用するが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用5台、サービス用10台程度の駐車スペース確保。

#### 【提出物】

- (1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現）
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現

- (5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2面以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西）
- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

### 第2課題

#### 「水族館」

（課題担当：水野吉樹、勝又 洋）

#### 【課題趣旨】

海の駅に引き続き、ハンマーヘッド埠頭施設の隣接敷地に水族館を計画します。計画地は横浜の歴史ある風景を継承し、新たな文化や価値を生み出す出発地点です。横浜を代表する地域にふさわしいコンセプトを立案し、都市型である敷地の特徴を捉えた、魅力的な水族館の設計提案を求めます。

また、周辺施設である第1課題の「海の駅」からの導入や、後期の課題で予定している「リゾートホテル」との連続性に配慮し、一体的なランドスケープを描いた上で、来客機能、飼育・研究機能、設備機能、管理機能のソフトとハードの関係性を考慮した総合的な計画を求めます。

#### 【課題のポイント】

- (1) 敷地条件の把握 立地、敷地の大きさ、施設規模、既存動線の位置を把握し、計画概要を捉える。
- (2) 基本的構成の把握 来館者スペース、管理スペースの関係性を捉える。
- (3) 水族館機能の検討 教育、研究、展示、アミューズメント機能の各ボリューム、動線を検討する。
- (4) コンセプトの立案 課題の趣旨に応じた明快なコンセプトを上げる。
- (5) コンセプトの表現 コンセプトを具現化した水際空間の設計、屋外を含む造形を行う。
- (6) プレゼンテーション 上記各段階

で何を考え選択したか、過程と結果を表現する。

#### 【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約11,453㎡
- (2) 延床面積：5,000㎡～6,000㎡程度
- ① 来館者部門：約3,000㎡  
（エントランスゲート、観覧室、展示水槽、レクチャーラーム、レストラン・カフェ、ミュージアムショップ、休憩コーナー、化粧室、退館ゲート）
- ② 管理部門：約2,500㎡  
（作業室、飼育室・研究室、事務室、会議室、館長室、宿直室、シャワー室、給湯室、更衣室・従業員用化粧室、管理用エントランス・廊下、荷解きスペース、設備機械室）
- ③ 屋外部門：  
（アプローチ、来館者駐車場、サービス駐車場）

#### 【提出物】

- (1) 図面  
表紙  
配置図：縮尺1/400  
各階平面図：縮尺1/200  
立面図（2面以上）：縮尺1/200  
断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 模型および写真
- ① 模型 縮尺1/200
- ② 写真 キャビネ判4点程度とする。
- (3) 図面提出仕様  
A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびダイアグラム、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。図面表現はCADを基本とし他の表現との併用も可とする。

## 建築メディアデザイン （後期）

### 第1課題

「都市型リゾート機能を有したホテル」  
（出題：小林直明）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
穴澤 順子  
内海 智行  
勝又 洋  
金子 太亮  
木内 厚子  
水野 吉樹  
光井 純

### 【課題趣旨】

第1課題に引き続き、同じ計画地内の隣接敷地に「都市型リゾート機能を有したホテル施設」の提案を求めるものです。敷地東南側の大さん橋と山下埠頭では国の背景である観光立国を実現させるための一環として、横浜市によるIRの再開発計画が進められています。敷地も含め国内外の観光客誘致も期待されるエリアといえます。

現在計画および建設中の周辺施設を超える付加価値と、リラクゼーション&ホスピタリティを感じさせ、周辺環境に呼応しかつ、海の駅や水族館との相乗効果を図った魅力的な都市型リゾート機能を有したホテルの設計提案を求めます。

### 【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：約11,350㎡  
・敷地形状や接道条件、周辺状況等は別紙図面参照および現地調査による。
- (2) 計画内容  
・延床面積：21,000㎡程度、建物の高さは、31m内とするが、さらなる高層、一部客室コテージタイプ（平屋・メゾネット）も可  
・一部海側に張り出した施設計画、または敷地内に海水を入り込ませたラグーン形成も可  
・構造形式は自由。木耐火構造集成材または木とS造・RC造とのハイブリット構造等も可
- (3) 計画諸元  
\*各部門、各室面積は参考例とし、適度な設定を行うことを可とする  
\*駐車場50台、サービス用5台（屋外および屋内・地下階の複合も可）
- ①宿泊エリア：8,500㎡  
ツイン・ダブルルーム100室程度（40～45㎡）、スイートルーム（コテージも可）10室（120～150㎡）、通路、階段等
- ②パブリックエリア：8,300㎡  
ロビー・共用スペース、レストラン、ショップ、宴会場・会議場（室）、

ジム・スバ

- ③管理エリア：4,200㎡  
裏方サービス諸室、機械室、廊下・その他

### 【提出物】

- (1) 図面  
配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図・パース：縮尺1/50、立面図（2面以上）：縮尺1/200、断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 計画概要（表紙）  
①計画コンセプトに合致したタイトル。  
②設計趣旨は簡潔に分かりやすく、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現。  
③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
- (3) 模型および写真  
①模型は、全体：縮尺1/400、部分：縮尺1/100程度、A1判サイズ仕上げ。  
②写真は、キャビネ判4点程度。

### 第2課題

「マスタープランとランドスケープ」  
（出題：光井 純、穴澤順子）

### 【課題趣旨】

敷地は横浜ウォーターフロントに展開する多種多様な既存施設に近接し、JR線やみなとみらい線など公共交通機関からのアクセスも良い利便性の高いエリアです。海の駅、水族館、ホテル、ランドスケープが一体となった、魅力あふれる複合開発をデザインし、横浜の新たなデスティネーションとなる設計提案を求めます。

課題はグループによる作業とします。アイデアを持ちより、議論や調整、作業分担のプロセスを経て、一つのグループ作品の完成を目指してください。

### 【課題のすすめかた】

- ①グループの各メンバーが三施設の課題成果物を持ちより、マスタープラン課題で採用する建築デザイン案を選出し敷地に配置。マスタープランの

視点から計画全体を俯瞰し、建築の機能的な相互関係性と連続性、意匠の一体性を検証。②計画地全体のコンセプト固め。課題敷地の開発計画に携わる設計者・デザイナーの立場に立ち、魅力的な再開発を具現化するためのアイデアやストーリーを、クライアントに訴えられるように、ロジックを構築。③計画コンセプトを実現するための空間イメージ集め。イメージ写真から、1)空間のスケール、2)空間の使われ方、3)空間を創りだすデザイン要素などを読み取り整理することで、マスタープランやランドスケープデザインに生かすことができます。④骨格をつくるにあたり、軸、ノード、シークエンス、ビューコリドールなどの基本的なデザイン手法を学び、計画案に反映。⑤敷地内を人々が自由にかつ活発に往来できる動線を計画。敷地外のどこから人や物が入り、移動するかの理解と整理が重要。「歩者分離」の思想に基づいた道路・園路計画、駐車場配置に留意。⑥高木、中木、低木、地被類など、植物自体の特性やスケールがどのように空間デザインに生かされるかについての理解を深める。樹木のないエ

リア、樹木の密なエリア、樹木の粗密感も空間デザインに大きな影響を及ぼします。⑦ウォーターフロントの開発においては、水際空間のつくりかたが、開発地の環境向上、空間の質、人々のアクティビティの多様化に作用します。人と水との心地よい関係性の構築をこころがけた屋外空間のデザインを行ってください。

### 第3課題

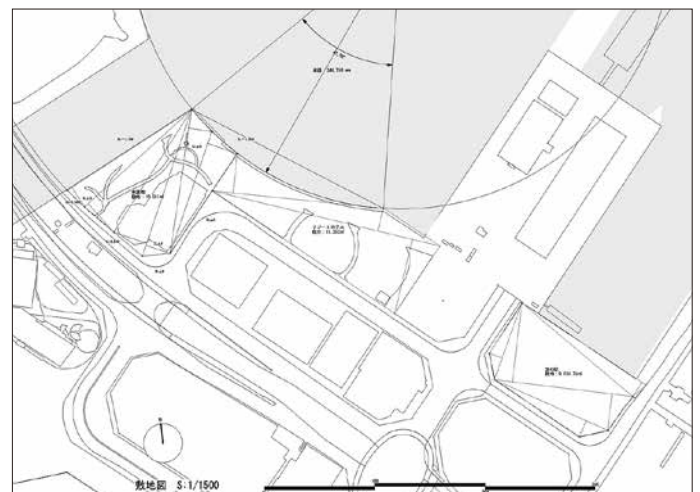
「プレゼンテーション」  
（出題：光井 純）

### 【課題趣旨】

年度を通じて学習したことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を一つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

### 【課題の想定】

課題敷地のマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこの江ノ島の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対してデザインプレゼンテーションを行う設定とします。



全体敷地図

神林慶彦

■コンセプト

本敷地、みなとみらいは再開発が進み日本の内側から人が来る。また、新たに横浜ハンマーヘッドという船のターミナルが生まれ、日本の外側からも人が来る。そのため、それら2つが重なる結節点を作ることを考えた。

全体計画として、海を引き込むことで、街とターミナルをつなぐ流れを可視化し、人の流れが広がり重なっていく場を目指した。敷地は、海と陸の境

目にあることから、周りを見渡すことができる場所であり、横浜のもつさまざまな景観を楽しめる場所である。そこで平面計画では、楕円形スラブを主要な景観に対して軸を振ることで、高さや向きで多様な軒下空間を作った。上下階の重なりがそのまま内部と外部を分けるため、より複雑な空間が生まれている。地上階を船着き場として海に開放し、そこから高層の展示や物販、レストランに上がるにつれ公園空間を引き込むことを考え、海と陸が互いに折り込まれるような断面計画とした。さらに、外壁を全面ガラスとすることで、海辺の先端にありながらも開放的で、景色が海の駅をこえて抜けていくような風景を考えた。

「海から来た人に街を見せ、街から来た人に海を見せる」をコンセプトに横浜の新たな灯台となる海の駅を設計した。

■講評

MM21に隣接し新たに商業施設も建設され注目を集める新港エリアの中心地に海の駅を計画する課題です。

神林案は、海と陸との境界線上にランドマークとしてのタワー型の海の駅を提案しました。ランドマークには、象徴性、求心性、視認性、場所性が求められます。敷地の半分に海面を引き込みブリッジを渡ってアクセスすることで求心性と場所性を創り出し、通常のランドマークタワーはシンメトリー

な建築がほとんどであるのに対してこのタワーは海に向かって階段上にスラブを積み上げたアシンメトリーなタワーとなっています。

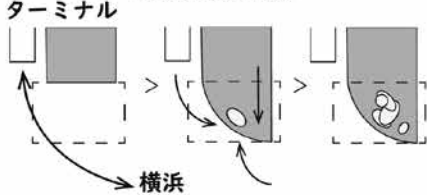
楕円や卵型の形状をしたスラブが周辺の景観を頼りに踊るように一定の方向性を持って積層され、3層吹抜けの大きな公園のようなテラスや軒の深い縁側のようなテラスがあちこちに出現しその中を利用者は居場所を見つけながら最上階の360度横浜の景色が広がる展望台へと誘導されます。

一方で海からアプローチする人々に対して、迫り出た木板仕上げの大きな軒下空間が実に日本らしい、国際都市横浜にふさわしい海の玄関口となっています。(金子太亮)



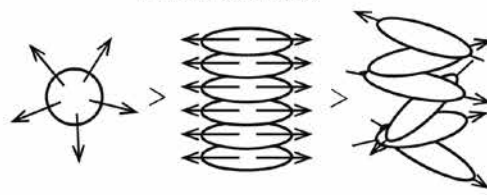
OVAL TOWER

MASTER PLAN



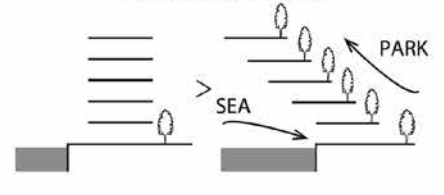
人の流れが広がり重なっていく

PLAN DIAGRAM



高さや向きが 多様な軒下空間

SECTION DIAGRAM



海と陸を互いに折り込む



福田晃平

■コンセプト

当敷地は開港以来の文化や流行の発信地となるに違いない。流行は約20年周期で繰り返しており、いま街中でよく見かけるファッションの中にも実は1980年代や1990年代にすでに流行していたものがある。それは建築においても言えることではないのか。未体験の時代の建築に対して、古臭くて格好悪いと考える人よりは、むしろ格好良いとロマンを感じる人の方が多いはずで

ある。そしてそれらのようなデザインは流行のサイクルから外れ、消費されることのないデザインだと私は考える。さまざまな文化が輸入され流行も次々に変わっていくであろう新港地区において、流行のサイクルにとられない建築をつくることは時代遅れの建築と化すことを防ぐことができるはずである。そして横浜を開港以来の文化の発信地にするのだ。

■講評

この計画の魅力は、船舶を建物中央のコートヤードに係留し、水面と船を取り囲む建物内部の回廊が、施設構成の核になっている点である。海の駅としての棧橋を取って設けず、故に往来

する船舶の着離岸は容易ではない。しかし一方、海上からのアプローチを想像すると、シンメトリーなファサードに整然と連続するアーチ状の開口に、船が吸い込まれていく叙情的な光景が浮かぶ。一見すると古典的な形式の引用にも思えるが、福田さんの思考には一貫して過剰に消費の対象として生産される現代建築への懐疑性がある。この作品は、組積や煉瓦造などの形式的な模倣ではなく、形態を与える側の内省的な自意識の表現と私は解釈している。「横浜港のこの場所に際立ったオブジェクトを据えない……」その思考から結果的に採択された水平的な立面の採用は潔いが、しかし建築は如何様にも形から逃れられず、むしろ

その端正さは意図せずともランドマーク性を帯びるであろう。こう見ると明快な建築の外殻に、新築をリノベーションするかのように丁寧に機能を配置したゾーニングも好ましく思える。かつて近接する赤レンガ倉庫がそうであったように、建築の利用価値に普遍性があるとすれば、それは時代の必然によって生み出された用途が消滅してもなお、その構造物が物質的な遺産とならず、綿々と人に愛される何かが深く刷り込まれる過程であろう。次世代の建築には、現代情報社会の要請に沿った新しい材料と構法を追求しつつ、その環境が故にその場所に置かれた理由が引き継がれる計画を目指してほしい。(内海智行)



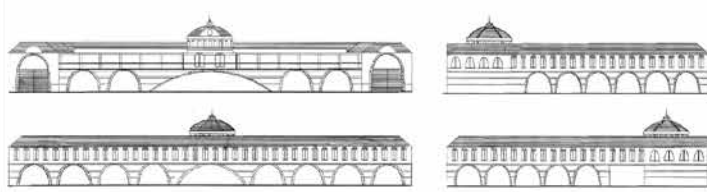
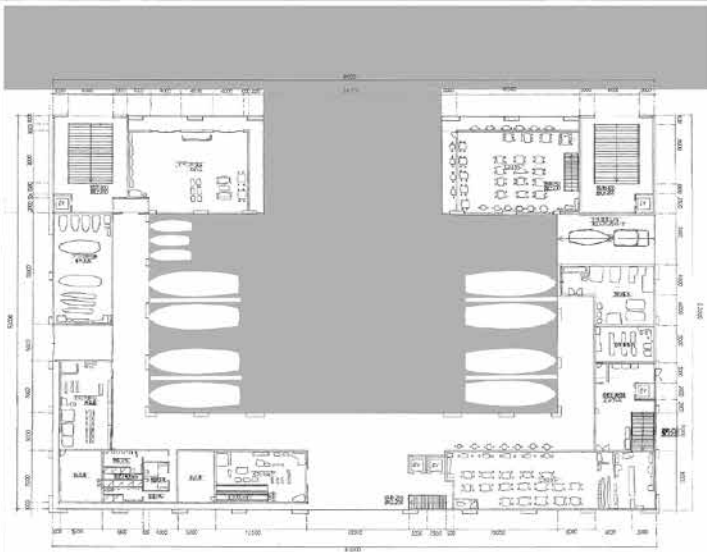
時代における流行は数十年周期で繰り返されている



周期から外れた未体験の時代のものには、古さを憧れやロマンに変える魅力がある



その当時の建築から外観を模倣する - デザインの消費を防ぐと共に横浜の景観にも適したものとなる



異なるアーチスパンによる視覚的体験



従来のマリーナにはないドラマチックな空間



駒形吏紗

■コンセプト

海と陸の境界線をなくしたいと考えました。海における境界線とは、段差がついて、陸と海が触れ合う場所（水際）です。水際の角度を緩くしていき、0°に近づければ、陸になかった水が入り込み境界線がなくなると考えました。そこで4種類（0°・10°・20°・45°・90°）の水槽と人の関係を作りました。計画敷地である横浜みなとみらい地区では、街の回遊性を向上させる取り組

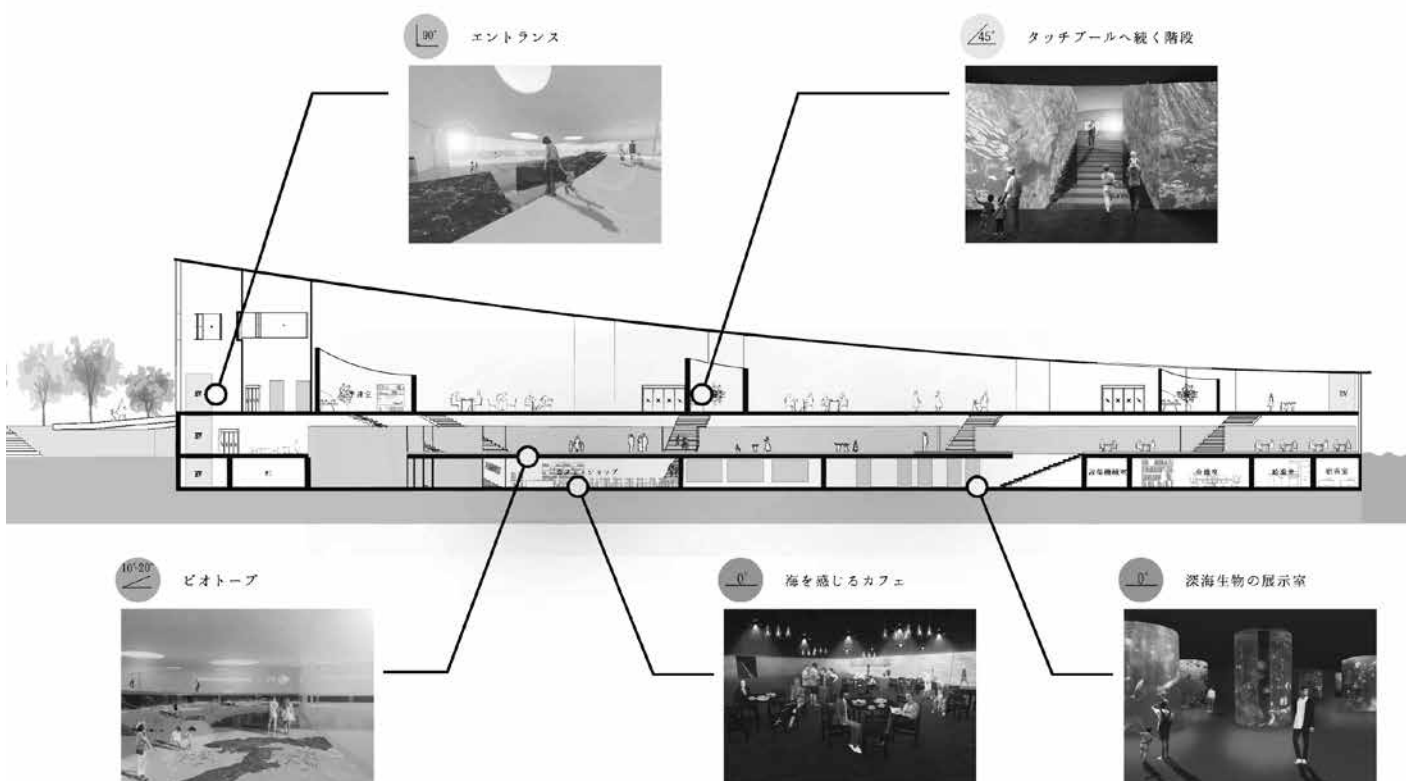
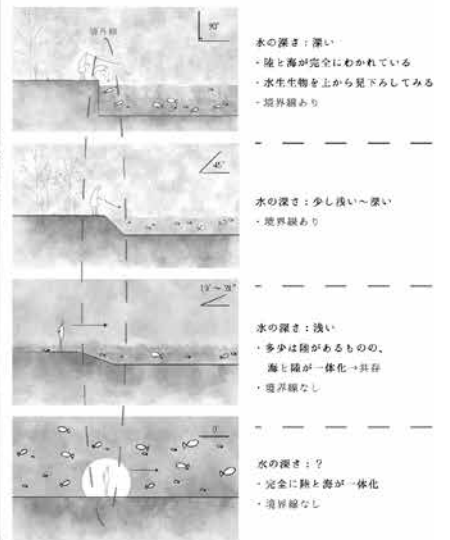
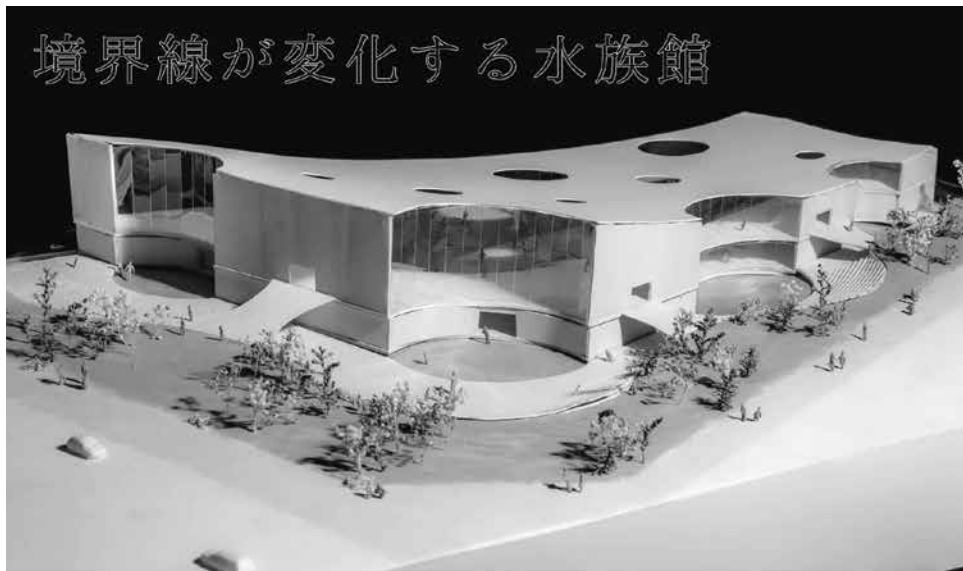
みが進んでいます。私は、横浜の回遊性を計画に引き込むことを目指しました。具体的に①人々を呼び込む②人々を誘う大小4つの円形広場を設ける③水族館が人々を受け止める④海へと視野を開かせる、この①～④を建築に落とし込みました。また、計画敷地は干満差を利用した作りに設計し満潮時には入り口が3つで、海を渡り水族館に入る動線となっています。干潮になると円形広場から入る入り口が増え全部で6つに増えます。潮が引くと円形広場が現れ、横浜の干潟と触れ合えます。このようにさまざまな動線を作ること、来るたびに違う水族館の魅力を引き出させました。

■講評

この作品は人と海との境界のあり方を探究し、その関係性をデザインとして昇華させた作品である。満潮時には水族館を取り巻く入口や広場は1カ所を除いて水没することになる。水没時にはピオトープ空間に面するカフェも横浜湾の水に囲まれて実際の海の様子を眺めることになる。あまり透明度の高くない実際の海を見ながら、同時にピオトープを挟んで対面にある、魚の生育に最適な水に満ちた大型水槽の魚を見ることは、来館者に環境を現実の問題として考えさせる上で大変効果的である。干潮時には広場はすべて姿を表し、カフェも横浜湾の水面を眺めることになる。現実には広場に海洋生物

がいろいろと転がっている状況になるだろうがそれはそれで興味深い。

館内でも水と人との関係がいろいろと考えられ空間化されている。水と人との関係を、深い水、浅い水、人が少し入り込んだ水、そして人を包み込む水、の4つの関係へと整理している。人を包む水のイメージを実現するためにデザインされた大水槽を貫通する階段を抜け、浅い水の中をあえて歩かせるピオトープ空間へと導く。さらに階段によって、照度を落とした円筒型水槽の空間へと来館者を導いていく。なかなかの演出であるが、最後に-2500レベルから一階レベルへと戻っていく動線が不明快なのがちょっと残念ではある。（光井 純）



中村正基

■コンセプト

海の中がどうなっているのか考えたことがありますか？ 一見、海というのは陸上から見ると美しい景色が広がっているが、海中はマイクロプラスチックごみの問題や、地球温暖化などにより環境悪化が進んでいる。それは今回の敷地である横浜の面する東京湾も例外ではない。環境悪化を今後食い止めるには、人間が魚の気持ちになることが大事なのではないかと考えた。そ

こで一般的な水族館のように綺麗な海を見せる水族館にするのではなく、身近な東京湾の海がどのようにしているかを見せる展示や水族館の展示で水槽に閉じ込められている魚の気持ちになれる水族館があってもいいのではないかと考えた。そこでこの水族館では、来場者が魚の気持ちになる「人間の空槽」、外来種がだんだんと増えていく「支配的水槽」、東京湾の今後を見せる「絶滅的水槽」の3つの展示を作り、この水族館に来場することで環境悪化に関して意識を向けることができるように設計をした。

■講評

水族館とは、一般的に、海や河川・湖沼などの水中や水辺に生活する生物を展示・収集する施設のことであるが、今回の中村さんの案は、従来の水族館を超えた施設内容のあり方について、当初より提案したいという視点があり、途中、紆余曲折がありながらも、最終的にも提案されていることが、よかったように思います。今後の水族館において、生物の展示と収集にとどまらず、水中や水辺の環境問題や変化を知ることができ、新たな活動のきっかけとなる展示室もあってよいのではないかと考えました。

建築の計画としても、多くの施設を地下に配置して、地上面をランドスケープ的に扱うことで、敷地全体を公園

のように歩くことができることは、もう少しアップダウンがあってもよかったのではと思いつつも、今回の敷地に適した選択であったようにも思います。そして内部は、三角形のエントランスホールを基点として、三角形のそれぞれの頂点から、3つの展示室へアクセスをするという構成も明快であり、明快がゆえに、エントランスホールにはもう少し重層的、交差するような空間要素があるほうが、さらに魅力が出たようにも感じます。

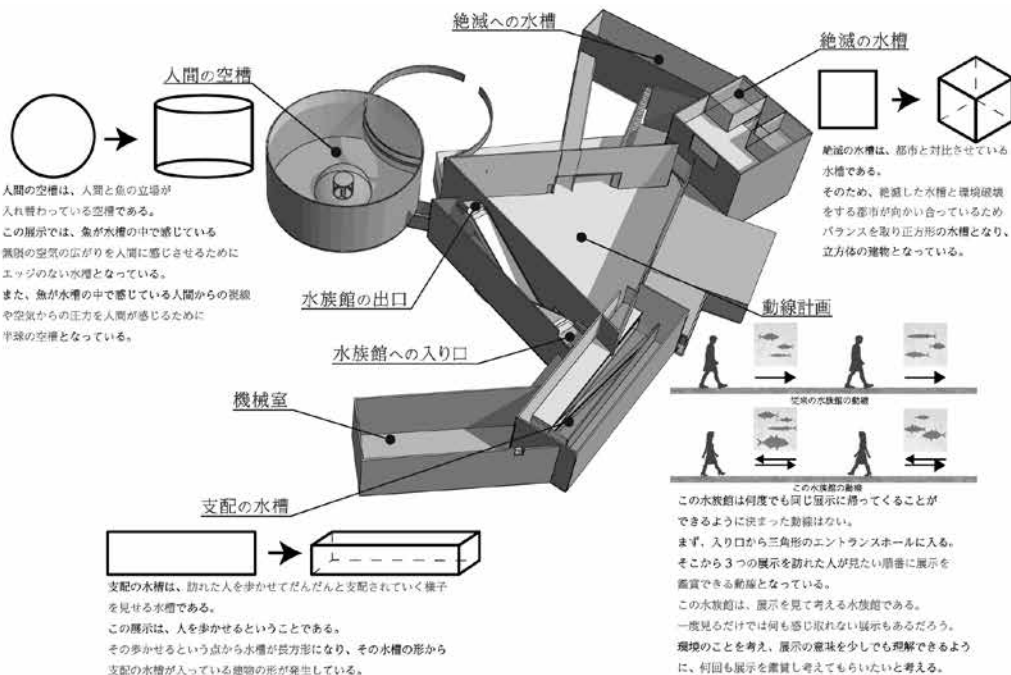
中村さんは、毎週のエスキース授業だけでなく、プレゼンテーション方法の探究にも熱心であり、その気持ちを持ち続けてほしいと願っています。

(木内厚子)



# Thinking Aquarium

環境問題を考える水族館の提案





佐藤駿介

■コンセプト

国内旅行の目的に食が占める割合は55%である。今回の計画敷地である横浜はナポリタン、アイスクリーム、シューマイなどさまざまな食の発祥の地であり、さまざまな食の文化が根付いてきた。ここはいわば食の原点である。ここには食にフォーカスした新たなスタイルのホテルが求められていると考えた。そこで、従来のようにレストランをいくつか配置するのではなく、多

くのお店がそれぞれ人気の商品を少しずつ持ち寄り、食のパズルを展開することとした。また、空間と空間の間に大きさの異なるスキマを数多く生み出し、食の機能を入れることで、食を中心に居場所を決める新たなスタイルのホテルを提案する。食を楽しんだあとにホッと一息つける「憩いのスキマ」、パズルで買ったものをそれぞれ持ち寄り宿泊者が食をとおして交流する「集いのスキマ」、パーティーや宴会をしながら食を楽しむ「賑わいのスキマ」など大きさや用途が異なるスキマを生み出し、宿泊者の居場所は宿泊者自身が食を中心に決めていく。

■講評

横浜という異文化の融合の地において、食と食べる行為を媒体とした新たな都市型リゾートホテルの提案である。食の文化が無形文化遺産として登録される時代背景と、建築という物理的な有形との連携を試みた提案でもある。建築と建築の間に必然的に発生する「間の空間」をコントロールすることで、食という無形の行為をとおして多様な人の動き、アクティビティを誘導しているといえる。それが新しい都市型リゾートであり、周辺の横浜街区とウオーターフロントの景観を「間」という空間でうまくつないでいる。1枚目のプレゼンテーションボードにおいて、建築プログラムと実建築空間のパースが配置され、ヒエラルキーを持

って説明されていることは、建築作品のコンテキストを理解しやすくしている。1階のピロティ空間は食のパズルストリートとなっており宿泊者だけではなく周辺地域住民にも貢献できる空間となっていて、2階以上にホテル客室を配置することで高潮および津波にも対応できるレジリエントな空間設計にも配慮している。ランダムな床配置で階層を重ねた空間にありがちな閉鎖的空間の打破にもつながっていて、とくに1階の食のパズルストリートに海と視覚的につながる水盤を配置することで視覚のコントロールと光のコントロールを意識した建築計画も海洋建築ならではの計画手法としても評価できる。  
(小林直明)



ホテルの食に新しい選択肢を

横浜はナポリタン、アイスクリーム、シューマイなど食の発祥の地であり、様々な国の文化から多様な食が根付いてきた。ここはいわば様々な食の原点である。ここには食にフォーカスした新たなスタイルのホテルが求められている。

新たな発祥の地に



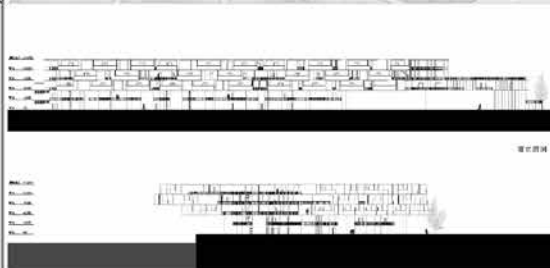
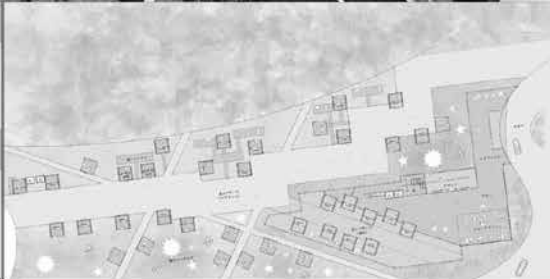
水族館からつながる敷地を海側と陸側に分けるように切り開き、小さなお店の集まるパズルを展開する。



スキマを創る操作を加える事によって食べる前と後の動作にも影響を与える空間につながる。客室部分は角度を与えることによって、奥行のあるスキマができ人々が集う。



客室部分は角度を与えることによって、奥行のあるスキマができ人々が集う。



藤田大輝

■コンセプト

横浜の異文化の入り交じった地理特性を用いることで観光客と地元民との間に生まれた「交流」が地に根付き空間化される。プライベートとパブリックが客室と異文化と商業の異なる3つのプログラムによって衝突せず連続することでセミパブリック空間が生まれる。そこには歴史的な展示や劇場などの発信の場があり、情報交換や個人の交流によって新たなオリジナリティを

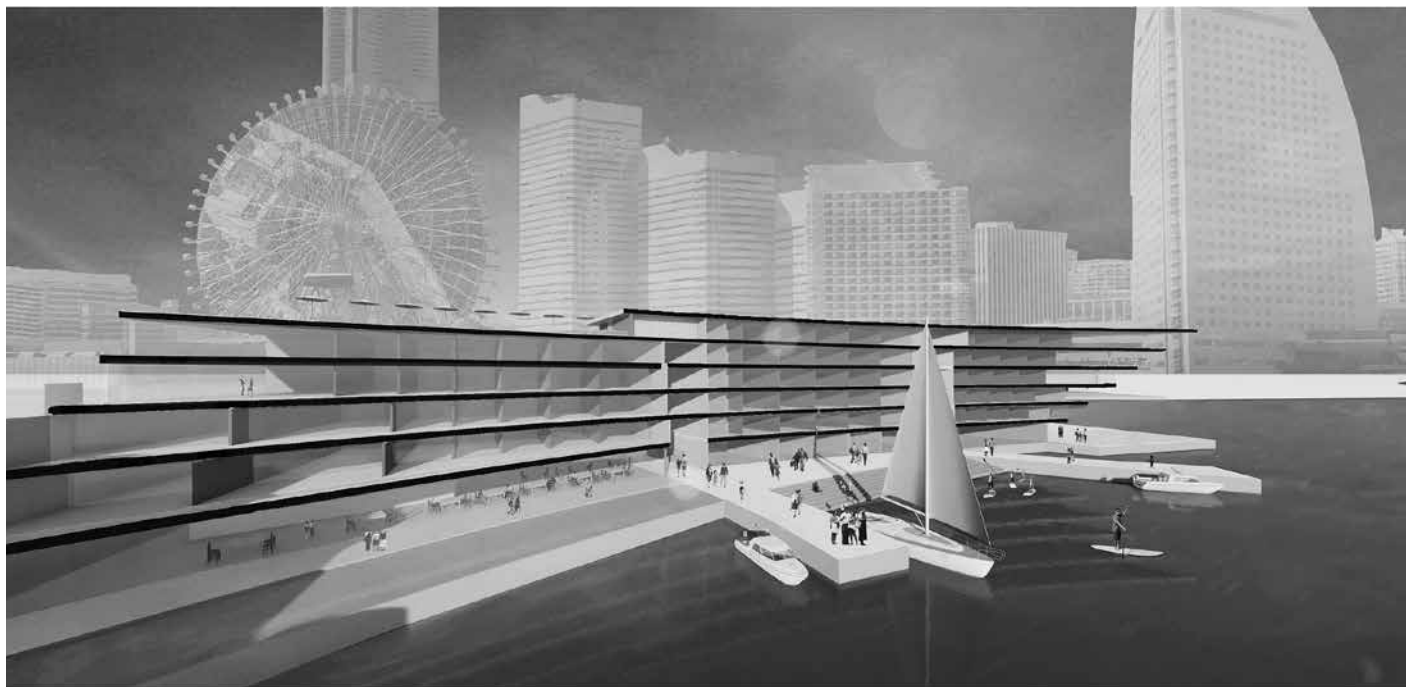
創造する空間ともなる。そのようにして交流を深めることで歴史的な背景を未来へと受け継いでいく。

国際客船ターミナルや海の駅と水族館をつなぐ当ホテルは観光客と宿泊客の2種類の動線計画を考えることでオープン性を維持しつつもプライベートとパブリックという2つの空間を取り持つ。1、2階でのパブリック空間とは異なり3階は有料施設が中心となり機能を形成しているため人の往来が制限される。プライベートとパブリックが決してぶつかり合うことなく互いに異なるスケールやプログラムが連続しているからこそセミパブリック空間が生まれるのである。

■講評

本ホテルは、宿泊棟と商業棟を複合させた計画である。具体的な空間構成は、水際線の曲線を利用した半円形の客室棟とその対象形にある商業棟、その両者をつなぐ吹き抜け空間となっている。そして、本敷地の隣接地にある国際線ターミナルの乗客を取り込むべく、吹き抜け空間は海の駅と水族館を直接的に結びつけるゲートウェイ空間となっている。本施設の特徴はこのプロムナード化された、ゲートウェイ空間にあると言っても過言ではない。それはこの敷地の立地特性にあり、昼間の一般的な観光客と本ホテルへの宿泊客、そして客船ターミナルから流れてきた外国人客のそれぞれがこの敷地を

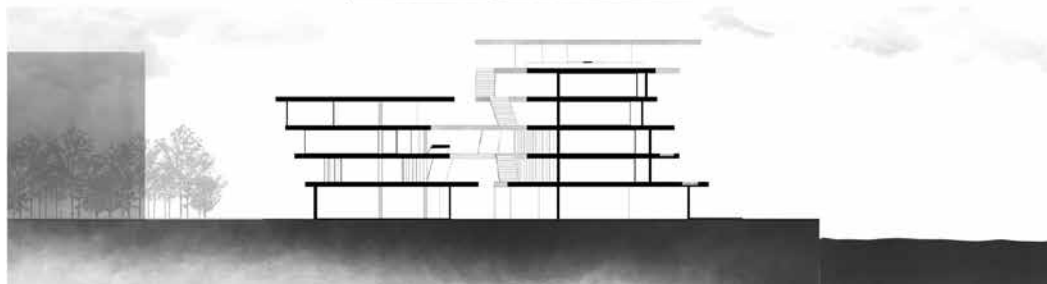
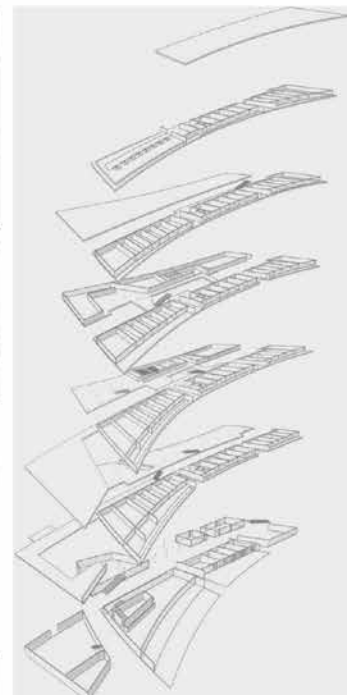
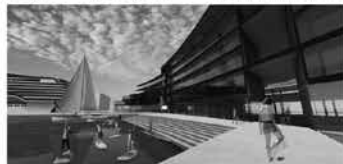
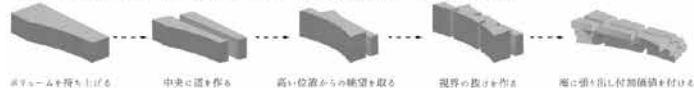
通ることになるからである。このため、ホテルの構成は大きく宿泊客と観光客の動線をこのゲートウェイ空間で立体的に分離し、観光客は主に1階へ導き、宿泊客はロビー空間を通過し客室へとアクセスする。商業施設へのアクセスは主に3階にあり、そこにはラウンジや小規模な劇場や宴会場、4階にはプール施設が設けられている。これらの施設は、ホテルの客と一般観光客の両方が利用できる構成となっており、5階以上は客室専用となっている。また、1階にあるレストランや宴会場などの構成は、詰めの甘い部分も散見されるが、埋め立て地特有の茫洋とした空間に観光客用の空間を与えているところは評価に値するといえよう。(佐藤信治)



ミナトミライ

～異文化交流から港の未来を考えるリゾートホテル～

プライベートとパブリックが客室と商業の異なる3つのプログラムによって衝突せず連続することでセミパブリック空間が生まれる。そこには歴史的な展示や劇場などの発信の場があり、情報交換や個人の交流によって新たなオリジナリティを創造する空間ともなる。そのようにして交流を深めることで歴史的な背景を未来へと受け継いでいくことが可能になる。これはまさにみなとみらいのありたい姿をあらわしている。



上原のどか・大久保将吾  
・駒形史紗・発知将也

■コンセプト

計画敷地がある横浜は外国の多様な文化が集まるとともに、日本の文化を発信する「交流の街」である。また、計画敷地に隣接する施設として、横浜新港の新たなランドマークである大型客船ターミナル「ハンマーヘッド」が完成した。元からある観光施設の集客力に加え、ハンマーヘッドの海路からの集客力が相まって観光地としてポテ

ンシャルが高い、多種多様な人々が集まる土地となっている。そこで、周辺の観光施設をつなぐ結節点となり、地域全体の回遊性が向上するように計画する。計画敷地内の海の駅、リゾートホテル、水族館、ハンマーヘッドの4施設を Culture、Food、Sports の3つのゾーンに分け、その間に休憩スペースを設けることで、敷地全体に交流のきっかけをあたえる。それぞれ違う目的を持って訪れた人々に新しい出会いや発見を促すランドスケープデザインとして設計する。

■講評

横浜という地域の歴史の歩みを題材にそこで生み出された交流を建築的に

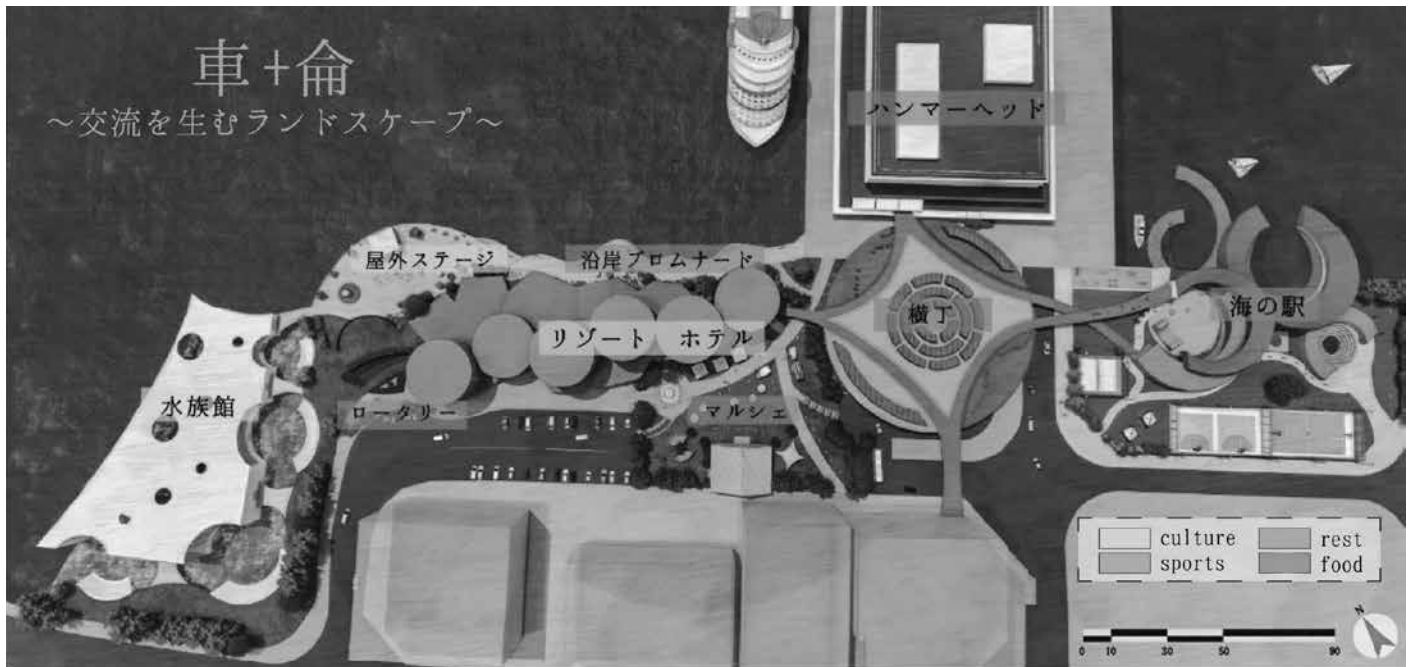
具現化した提案である。

本計画は、まず日本の歴史的な玄関口である横浜の開港における役割について言及している。開港における役割とは貿易を通じた相互交流ということである。その交流は現在では、横浜の観光資源として活用されているモノも多い。このため、近年では横浜市の「観光集客実人数」および「観光消費額の推移」は増加傾向にある。

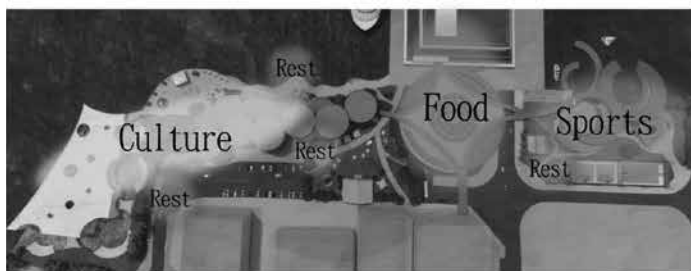
しかしながら、今回の敷地である場所においては、こうした観光資源となる場所から離れているため、これらをつなごうというのが本提案の骨子である。

先ほど述べた観光資源とこの場所はある程度の距離があるため、この

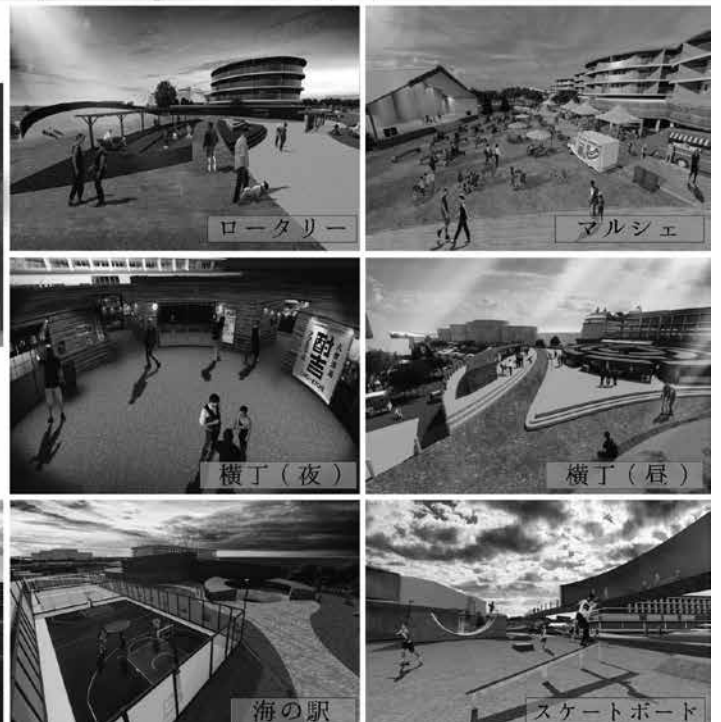
Project では、都心臨海部再生マスタープランに示された、「みなと交流軸」を取り入れている。さらにこの地が旅の結節点となることをめざし、大きく3つのゾーン、culture、sports、foodの主たる拠点とそれらをつなぐrest空間を至る所に配置し、交流を促すように計画している。具体的に見ていくと、東側より、海の駅、横丁、ハンマーヘッド、リゾートホテル、そして水族館と並んでいる。その間をrestとしての、coast promenade、maeche、stageなどの接続機能を設けることで積極的に交流を促している。機能のヒエラルキーを理解した上で、意図的に操作したデザインにまとも上げた点を評価したい。(佐藤信治)



Concept



多種多様な人々が集まるみなとみらいに交流を誘発する「交流拠点」を設けたランドスケープを提案する計画敷地内にある主要施設を Culture、Food、Sportsの3ゾーンに分け、その間にRestを設けることで敷地全体を交流の場となるよう設計した。



會田 恵・安達祥人  
・澤田実和・鈴木亜実

■コンセプト

私たちが提案するコンセプトは、和の庭園の回遊である。今回の計画地を日本のあらゆる要素が詰まっている和風庭園と見立て、回遊してさまざまな庭の風景を楽しむことができる、新たな横浜新港湾地区の姿を提案する。

今回の計画地、神奈川県の傾向として、外国人観光客が増加傾向にある。また、ハンマーヘッドプロジェクト

により、今後さらに多くの外国人観光客が来日すると予想できる。

そこで、ターゲットを外国人観光客に定め、「和の庭園の回遊」というコンセプトにした。外国人が望む観光とは、日本特有の四季の変化や、日本特有の建築や伝統文化などが挙げられる。

そして、横浜には三溪園など、日本を代表とする「和」を感じられる建築物や、横浜中華街、赤レンガ倉庫、など、さまざまな異国文化が健在しており、和と洋2つの要素が混在する魅力ある街だと考えた。

■講評

これは海の駅、水族館、ホテルの3つの施設の統合とそれらをつなぐラ

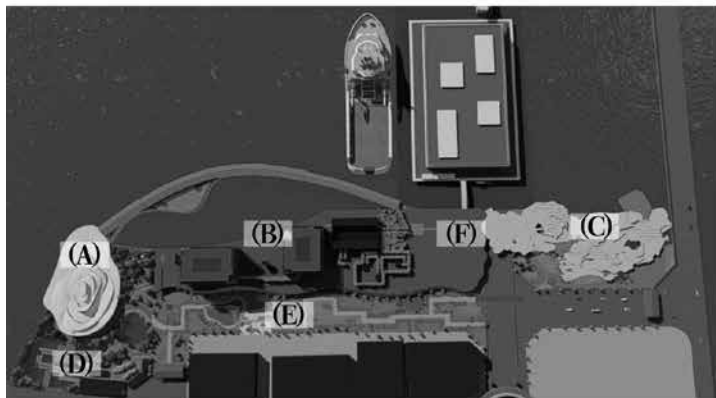
ドスケープデザインが課題のグループワークである。このチームは、和の感性を横浜に作り上げることが横浜の魅力をさらに高める、と考えてさまざまな仕掛けを駆使している。ホテルは水盤の上に配置され、月を水に映して楽しむ和の感性を表現。水盤には四阿がおかれ静謐な空間を作り上げている。水族館のテーマは「みちゆき」であり、街路から連続する迷路状の日本庭園空間を通して、自然に水槽の空間へと誘われる構成となっている。そして海の駅は「洞窟」をテーマに陰影礼賛の空間を目指している。すべての建築は「和」の軸によって結びつけられている。これらすべてを結びつけるように、水族館から伸びる木造の海回廊を

新たにデザインし、施設全体の中心に内海を作り出して、さまざまなイベントの舞台としている。まるで巖島神社にある能舞台のようでもある。さらにこの海回廊は洞窟の空間を擁する海の駅へとつながり、そして竹林の庭露路へと連続して、もう一度、水族館の迷路状の日本庭園へと連続していく。水盤の上に象徴的に建つホテルを囲んだ大きな回遊空間が出来上がっている。

3つの異なるデザインを統合することは容易ではないが、このチームはさまざまな工夫を行い、多様性のある外部空間を生み出しながら、同時にそれぞれの建築の個性を生かし、全体として魅力ある大きな街として再構築しているところが評価に値する。(光井 純)



コンセプト ~和の庭園の回遊~



計画地を日本のあらゆる要素が詰まっている和風庭園と見立て、回遊して様々な庭の風景を楽しむことができる、新たな横浜新港湾地区の姿を提案する。

王子涵・古角虎之介  
・中村正基・福田晃平

■コンセプト

現状の横浜ハンマーヘッドは大型客船の寄港、出港に伴い多くの人で賑わっている。しかし現地に訪れ出港イベントに参加し、その後の様子を観察してみると、来客数が著しく低下していることがわかった。そこで本提案では、地域の活性化を目指した「船を全力で送り出す」という横浜ハンマーヘッドが掲げたコンセプトを補う方針で訪れ

た人々を保持し、周辺施設間で集客力を共有する溜まり場となる空間計画を行った。

主要施設は海の駅、水族館、リゾートホテル、の3つであり、集客力のある建物が計画地周辺にも混在している。そして3施設の計画によって失われた既存の公園としての機能を持った広大なデッキを用いて各施設を円滑につなげる操作を行った。しなやかな輪郭線や境界線の曖昧化、形状の起伏をデッキの形状に用い一体感を出し、計画地周辺に賑わいがもたらされる。

■講評

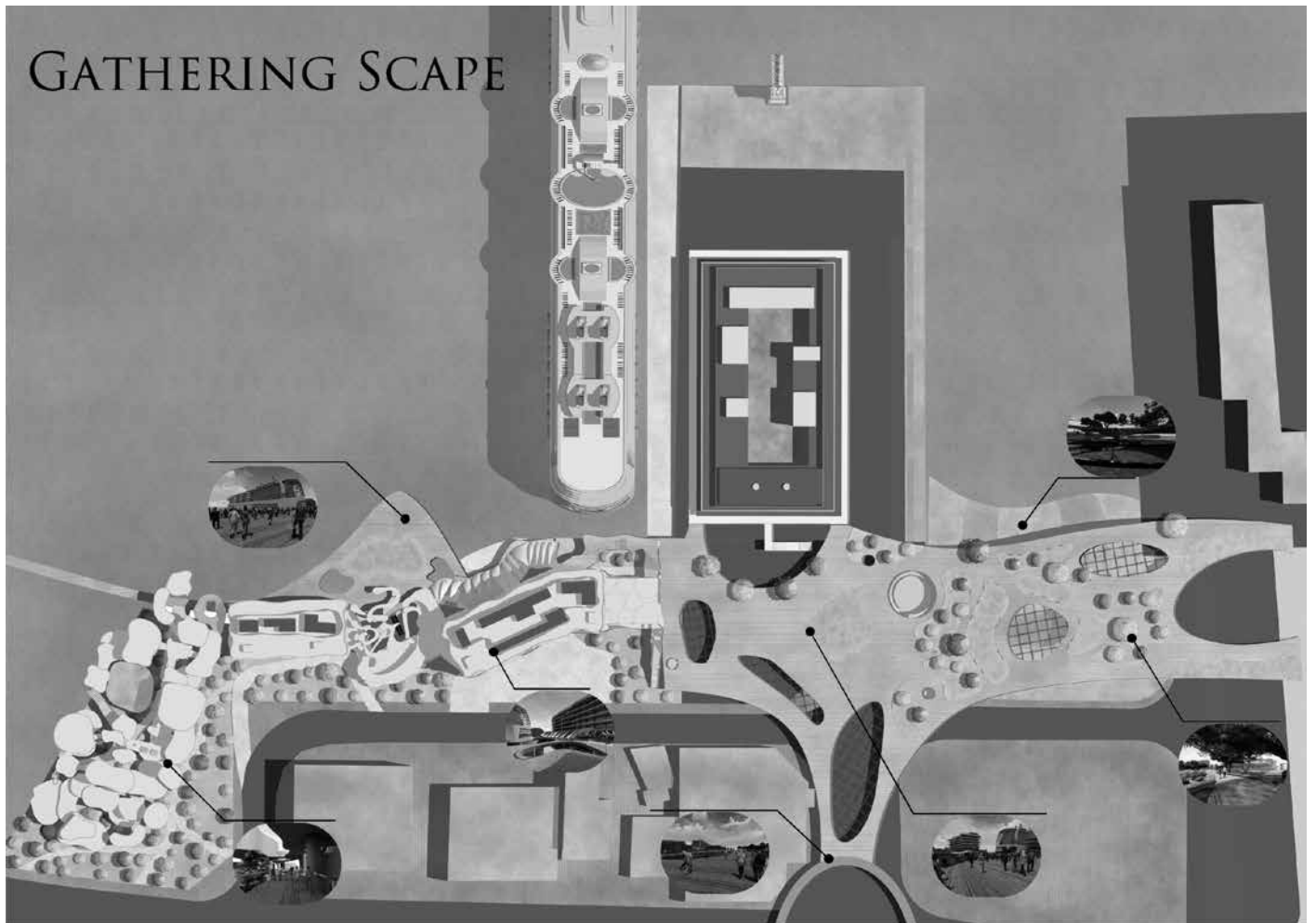
事前の課題で完成させた、水族館、海の駅そしてリゾートホテルをそれぞ

れが持ち寄り、一体の開発としてさらに相乗効果を生み出し、横浜の観光都市、ビジネス都市としての価値をさらに高めるためにはどうしたら良いかを考える演習である。

このチームは「人の行き交う街路」をテーマに3つの施設を結びつけようとしている。まずは、都市から境界なく連続する街路のような水族館を起点にして、曲線の形をうまく活用した。これもまた街路のように構成されたホテルへとつながっている。そしてハンマーヘッドと連続する空中広場を配置し、道路を跨いで都市の街路を連続させている。空中広場には大きな開口部がデザインされていて、広場の下に配置された海の駅との空間的連続性も担

保した大胆で迫力のあるデザインとなっている。一方で空中広場はヒューマンスケールを少し逸脱した感がある。フォリー、トレラス、ボスケ、マウンドなどによって外部空間の分割を行って多様な空間がデザインされていると もっと魅力的である。

また、この案の特徴はホテルの海側に面して大型客船を送迎する三角形の階段状の空間を作り上げたことである。チームはハンマーヘッドホテルが内包的で外に開かれていないことを残念に思い、もっと賑わいが外に溢れ客船を送迎する興奮と一体となるべきだと提案している。さまざまな工夫を施し、まとめ上げた意欲的なデザインである。  
(光井 純)



01. ハンマーヘッドの問題点



今回の計画発足の前には横浜ハンマーヘッドがある。11月4日に横浜ハンマーヘッドに客船ダイヤモンドプリンセスが寄港することによって現地調査を実施した。今回の課題は、ハンマーヘッドが関東して初の大型客船の寄港であった。そのため多くの見学者が船を見るためにハンマーヘッドに訪れていた。しかし、実際にハンマーヘッドを訪れると2階のデッキは閉鎖され、そこから離れた人々は船窓から船を見ることしかできなかった。さらに、ハンマーヘッドは「良」もコンセプトとしているが、出港直前にはハンマーヘッドの飲食店のキャパシティを捉え、ほぼすべての店舗で行列ができて入りきかない状態になっていた。そのためか船が到着してしまうと訪れた人々が周辺の施設へと移動し、時間が経過すると往日の賑わいにある商業施設とは思えないほど閑散としてしまう。これらは、ハンマーヘッドの計画の目的が果たされているのではないかと考えた。

02. 船を全力で送り出す

みなとみらいの魅力



今回再確認ハンマーヘッドは、自ら掲げたコンセプトを全て満たしていない。そこで、自分たちはハンマーヘッドのコンセプトを補いさらにこの地域を活性化させるために、「船を全力で送り出す」というコンセプトで計画した。今回の3つの作品をハンマーヘッドのコンセプトと共有するには、今のハンマーヘッドに足りない部分を補い活用を伸ばすということがこの地域の発展の一歩の促進であると考えた。

03. 3つの融合



今回のランドスケープは、それぞれの3つの施設からデザインを構築した。ホテルからは船窓の曲線、水族館からは境界の曖昧さ、海の駅からは層状のアンジュレーションを描出した。3つの施設はともに連続を重視しており、訪れてきた人々が奥に入っていきたくと思えるような連続が多く配置されている。また、見上を歩いていると自然に高いところ上ったり、起伏で顔が見えなかったりし笑に行ってみたいという気持ちはなるように設計した。

# 4年生（総合演習）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明

桜井 慎一  
山本 和清  
菅原 遼  
吉田 郁夫

## 総合演習

### デザイン系

#### 「ダンチを再考する

（日本建築学会設計競技）」

（担当：佐藤信治、小林直明）

#### 【応募要領】

ここで取り上げる「ダンチ」は公営住宅や公団住宅（現 UR 住宅）の建ち並ぶ集合住宅団地である。

ダンチは戦災で疲弊したわが国の圧倒的な住宅不足（420万戸と言われる）を解決するための国家の重要な施策として生み出された。1950年の住宅金融公庫設立、1951年の公営住宅法の制定、1955年の日本住宅公団の設立が戦後の住宅政策の3本柱と言われるが、そのうちの2つ、公営住宅と公団住宅がダンチをもたらした主体である。

日本人の家族に（狭いながらも）きちんとした居場所を提供したのがダンチだったが、鍵のかかる住まい、洋式トイレや内風呂のある暮らし、ステンレス流し台、ダイニングキッチン、そういった全てが戦後民主主義社会のもたらした生活シンボルであり、社会の近代化の象徴として、社会に熱狂的に受け入れられた。

その後、1960年の所得倍増計画、1964年の東京オリンピックなどを契機として、日本経済は「テイクオフ」し高度経済成長期に突入した。1970年の大阪万博は社会変化を体験し、実感する場所だった。1973年には住宅建設は年間190万戸のピークを迎えるが、その年はオイルショックが日本社会を直撃した年でもあった。その後のバブル経済とその崩壊、ポストバブルの複合不況、人口減少と高齢化社会の到来…確かに日本は高度経済成長期を経て短期間に「先進国」のひとつに到達したかもしれないが、その代償として家族や共同体は大きく変容した。今日、ダンチはどうなっているだろうか。

ダンチは畑地や雑木林を取り払って人口の浮島のように出現したが、今やダンチの周囲はすっかり宅地化あるいは都市化して、緑の多いダンチはあたかも公園のように見える。ダンチの周囲には近隣住区理論に従って小学校が作られたが、少子化に伴い、多くの小学校は不要になった。団地内のショッピングセンターは、ダンチ住民はそこしか買物する場所がなかったため、物販も飲食も繁盛したが、それも今や過去の物語である…ダンチを単なる住宅地としてでなく、小さな都市あるいは小さな都市の一部と考えるなら、少子高齢化、空き家（空室）、シャッター街などの都市問題がダンチにもパラレルであること、そして多くの場合、ダンチでは都市以上に問題が顕在化していることがわかるだろう。君の周囲にもこういったダンチがあるのではないだろうか？ そういったダンチをよく観察し、デザイン思考することで、ダンチを社会の大きなストックとして捉え、その活用のための新しい提案を考えてもらうのがこの課題の趣旨である。 審査委員長 渡辺真理

#### 【応募規定】

A. 課題：「ダンチを再考する」

B. 条件：実在する団地を計画対象に設定すること。デザイン提案は必ずしも現行の法規制と適合させる必要はないが、リアリティを感じさせるものであってほしい。

C. 提出物

1. 応募申込書をダウンロードのうえ、必要事項を入力し印刷して下さい。

2. 計画面案

下記①～③をA2サイズ2枚に収めて下さい。模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現して下さい。

①設計主旨。②計画条件・計画対象の現状。③配置図、平面図、断面図、立面図、透視図。

3. 作品名・設計主旨

「2. 計画面案」の作品名と設計主旨

を記載したものをA4判1枚に印刷して下さい。

4. データ

下記①～④をCD又はDVD1枚に収めて下さい。CD又はDVDには、代表者の氏名と所属を明記して下さい。

①「1 応募申込書」のWordファイル。②「2 計画面案」のA3サイズのPDFファイル。③作品名および設計主旨の要約テキストデータ。④顔写真を記載したもの

#### 計画系

「千葉ポートパークを中心とした水辺空間の賑わい創出に向けた提案」

（担当：桜井慎一、山本和清、菅原 遼、吉田郁夫、寺口敬秀）

#### 【課題趣旨】

千葉市は県庁所在地であり、東京大都市圏における千葉県西部の核として「政令指定都市」「業務核都市」に指定されており、市内には国内有数のコンベンションセンターである「幕張メッセ」や、日本三大貿易港である千葉港を有し、京葉工業地帯の中核を成す都市である。また、「国家戦略特区」「グローバルMICE都市」「都市再生特別地区」にも指定されており、首都圏のなかでも多様な業務機能が集積した首都機能の一翼を担い、幕張新都心を中心

に先端技術産業の集積地として世界に開かれた国際都市の役割を担っている。歴史的には、県庁が千葉町に置かれたことにより、県内の政治・経済・文化の中心地、また交通の要衝として発展し、人口約98万人の規模を有する千葉県最大の都市へと成長している。さらに、市域には多くの国道や高速道路が集まり県内鉄道網の要となっている都市でもあり、東京都心と成田国際空港の中間地点に位置することから、首都圏のなかでも幕張新都心や千葉港のような国際的な役割としても重要なグローバル都市としての特性を有している。

こうした千葉港周辺には、千葉ポートスクエア・千葉みなと桟橋・ケーズハーバー・千葉ポートタワー・千葉県立美術館・ミハマニューポートリゾート・ベイサイドパーク迎賓館など、港湾都市としてのウォーターフロント開発が集中し、さらには国際クルーズ船誘致の可能性も秘めた水辺空間となっており、今後、さらなる賑わい空間の創出が期待されている地域である。

そこで本授業の課題として、千葉ポートパークを中心とした水辺空間を対象に、千葉市の国際的特色を顕著に有する地域的特性を活かし、一体的な回遊性を持たせた賑わい空間の創出・提案を行うことを目的とする。



総合演習 デザイン系  
都市の涵養  
—雨水濾過による団地の再興—

中村美月・小山田駿志  
・渡邊康介・大石展洋

■コンセプト

団地を大都市における雨水の受け皿として再編していきました。日本には河川が急勾配のため、水の安定した確保が難しい環境であることと、団地の深刻な空き家問題に着目しました。敷地はケーススタディとして中野区の江古田団地を選定。団地の空き家へろ過装置を挿入し、雨水を浄化し、生活用水として使用するとともに、非常時のた

めに貯水しておき、水とともに暮らす提案です。設計ダイアグラムとして、空き家にろ過装置を挿入し、既存の木々たちに混じり交じるように柱を林立します。団地間をつなぐスラブをかけ水の道を形成し、スラブには人が集まる居場所を作りたくさんの雨水を収集できるように集水ネットを設置していきます。住人は庭に設けられた共有の坪池を介し、水とともに生活していきます。本提案で全国各地の都市に点在する団地にシステムを適用していくことによって都市型水害に強い都市を構築していくことが可能です。これまで水害の原因として排除されていた大量の雨水が全国各地で生活や防災、農業などに活かされていきます。

■講評

総合演習では、毎年日本建築学会支部共通事業コンペを課題としている。本提案は、2019日本建築学会支部共通事業コンペ課題「ダンチを再考する」において、提案された作品である。

本計画では「ダンチ」のこれからの役割として、都市における水問題の解決策になり得る存在であると提案している。具体的には、日本の国土における河川が欧米諸国に比べて急傾斜であるため、昨今のゲリラ豪雨に対応できていないことを言及している。この都市河川の問題を「ダンチを再考する」ことによって解決しようとしている。一方、大量に安価な住宅を供給する

という1980年代までの役割が終了した、「ダンチ」については、その躯体を利用することによって、都市の中に水を貯水する役割を付加しようとしている。さらに、この貯水した水については、たんなる都市ダムとしての役割だけではなく積極的に利活用することによって、そこに住む住民の住環境の向上に役立てようとしている。さらに、この住環境の向上策については、住民だけでなく付近の住宅街に住んでいる住民にも開放することを計画している。無味乾燥とした住宅の象徴であった「ダンチ」が、街の住環境を向上させる緑のオアシスとなるという提案は「ダンチを再考する」うえで有効な解決策であると考えられる。(佐藤信治)

日本建築学会設計競技2019 関東支部入選、タジマ奨励賞



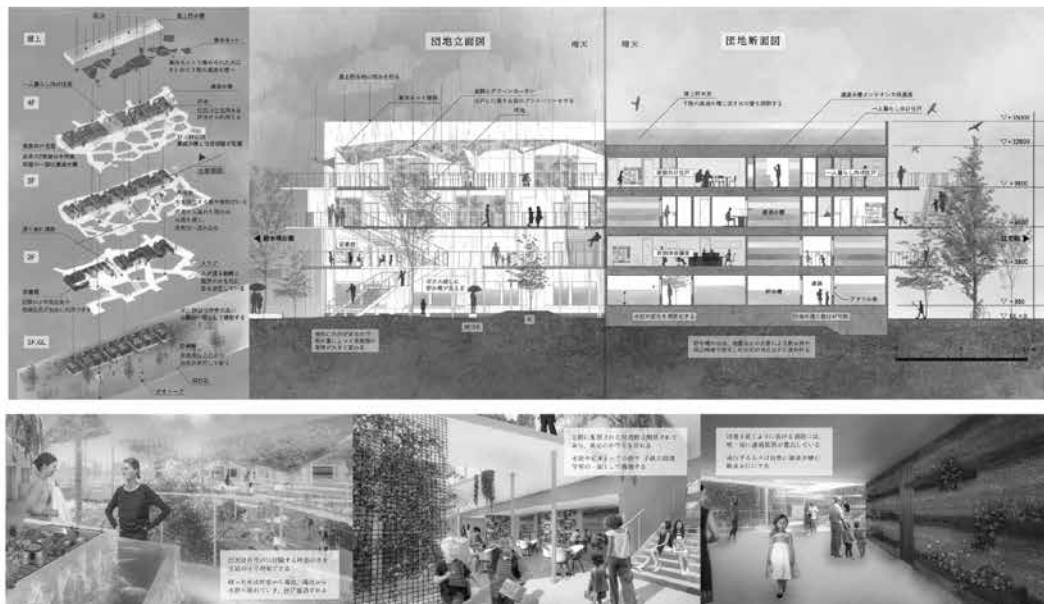
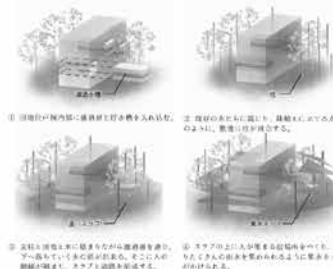
提案 - 雨を濾す、都市の森としての団地の再興 -

コンクリートに覆われたことにより雨水の行き場を失ってしまった現代の都市に点在する既存団地を雨水を濾過・貯蓄できる緑地として再編する。



設計ダイアグラム

団地の豊かな緑を活かしながら、雨を集め、美しい水を流れる道をつくる。



総合演習 デザイン系  
充電しませんか？

宇津里緒奈・鷹田知輝  
・西 遼・渡邊ももか  
・横畑佑樹

■コンセプト

昔、ダンチには多くの人が住み、水を汲むための井戸があり、人々は集まり会話が生まれ、「井戸端会議」という言葉が使われるくらいの活気あふれる場所であった。敷地は長野県長野市若里団地、近年の首都圏への人口流出により、地方のダンチには空き家が増えている傾向にある。これからの未来、

AIやIoT・EV車の発達することが考えられている。つまり、人々は充電するために電力があるところに集まる。そして、現代の井戸端会議「充電会議」が誕生するのである。30年後、空き家となっているダンチのストックを生かし、人の生活から出るゴミなどを利用するバイオマス発電所を軸に発電による温泉・住居・地域活性化に役立つダンチブランドを生み出す商業施設を計画する、これらにより敷地周辺住宅の働き手や県外の観光客を呼び寄せダンチで生み出されたエネルギー源を補給するために数多くの人が立ち寄るのである。ダンチを再興するとともに空き家のストックを利用し、人の精神的エネルギーと電力を同時に補給す

ることができる豊かな空間を創造した。

■講評

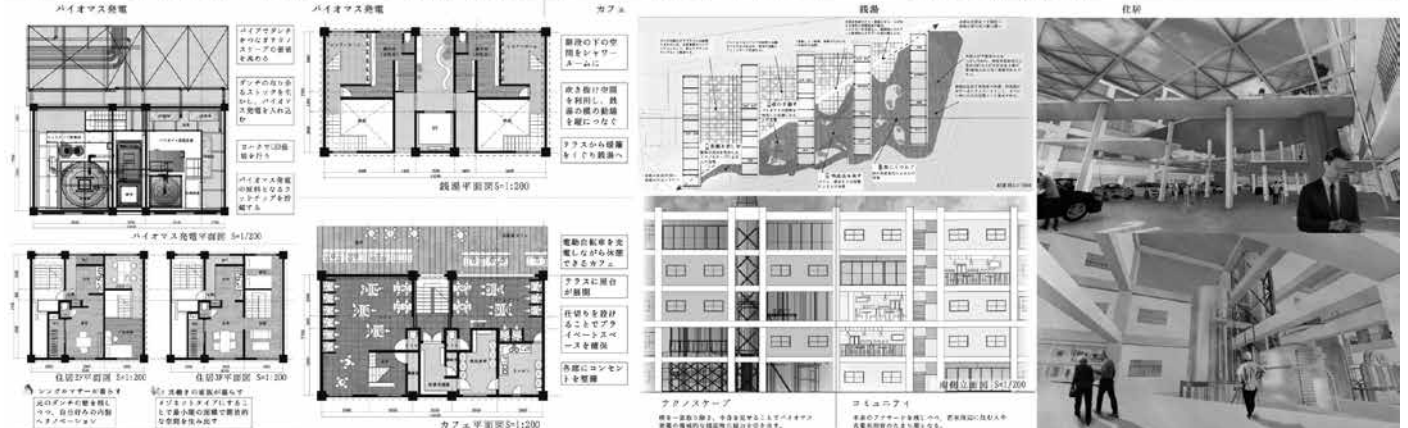
既存ストックである団地をどのように再利用させるかを問われているなか、本提案は過去における水の供給の場「井戸端」に着目し、そこで行われた「井戸端会議」を現代の「充電会議」として解釈した。井戸という自然の供給と同様に、エネルギー供給を自然環境配慮型の発電施設としている。長野県という林業に連携したバイオマス発電施設と、その研究施設をあわせ持ったスマートエネルギーの電気および廃熱利用を図った共同住宅である。かつて井戸端会議において、住民のコミュニ

ケーションが行われた行為を、現代風に誘発するための銭湯、カフェ、屋台などの用途を有している。5棟からなる団地を柔らかな木構造の隆起のある人工床で結び、団地の各棟の人のつながりにも建築計画的な配慮が為されている。また人工床からは長野えびす公園花火大会を望む共有の床とも成り得る。バイオマス発電の仕組みを敢えて見せることで、人々への環境配慮技術の啓蒙も行う設えも取っている。移動手段の自動車もEV化されるなか、充電をする行為および充電する時間の必然性は高まることに連携した、これからの人と人のコミュニケーションの在り方を団地という既存ストックをとおして提案している。(小林直明)



充電しませんか？

昔は水を汲むために井戸に人が集まり、そこで会話が生まれ井戸端会議という言葉が使われるようになった。これからの未来、充電のために電力があるところに人が集まり「充電会議」が誕生する。30年後、ダンチのストックを生かし、「発電」というエネルギー源が周辺住宅の働き手や観光客を呼び寄せる。「人と機械」「心とバッテリー」を充電する。





# 災成都市 土砂災害と共生し、成長する団地のあり方

小林陽太・西村寿々美・三橋一貴・山内 颯・山本裕貴  
■コンセプト

高度経済成長期に急増した団地は当時、多くの国民の憧れであった。しかし、さらなる経済の発展によって団地に住みたいと思う人々は減り、空き家問題や、建物の老朽化など多くの問題が顕在化している。敷地は、兵庫県神戸市の六甲山の麓に位置する鶴甲団地。この団地は六甲アイランドを造成するために山を切り崩した場所に建てられ

た。しかし、もう直ぐ来るであろう30年に1度の大きな土砂災害の危機に直面している。団地を防災インフラとし、地域に開くことで人々の拠り所へと転換し、活用していく。本提案では植木鉢やベンチが置かれることで住人の生活が少し漏れ出し、個と公がゆるやかにつながる。また、団地の回遊が可能となり、その道の中に階段が出現することで階段室に頼らない、自由な上り下りが可能になる。災害後は避難者と団地住人が助け合いながら、上層に街を作っていく。人々が望むその時代の暮らし方が反映された形となる。自分たちで作った建築が拠り所となる。生活の一部が多く見える団地になることで、地域住人にも開かれていく。災害

を受け入れ、災害に学び、自ら成長していく都市の拠点として、団地を再考する。

### ■講評

本計画では、「ダンチ」のこれからの役割として、都市における土砂災害の問題を「ダンチを再考する」ことによって解決しようとしている。

具体的には、兵庫県神戸市の六甲山麓における土砂災害が想定される地域を、そこに元からある「ダンチ」を利用することによって、安全・安心な街に造り替えようとしている。そこには1980年代までに供給された、RC造の「ダンチ」がある。本計画ではその躯体を利用しながら、「ダンチ」の上

空へ空中回廊を設けて住環境を増築することで住民をそのまま高台移転させようとするものである。こうすることで、将来起こりうる土砂災害においては、「ダンチ」の下層階を土砂ダム的に利用することが可能となり、この地域の安全性を確保することが可能となる。さらに、上部に住環境を持ち上げることで、これまでとは違う六甲湾を堪能することが可能となり、海風の恩恵を受けるなど住環境の向上が見込まれる。さらに、空中回廊によってつながれた住棟は、これまで以上に住民の交流を促すことになるだろう。惜しむらくは、図面表現の稚拙さのため、せつかくの提案の価値がうまく伝わらなかったと思われる点である。(佐藤信治)



## 千葉ウェルネスパーク

～人生を豊かにする健康増進計画～

柿崎龍平・川口直也・斉藤征大  
・武田竜治・徳田 凌・鳥海健太  
■コンセプト

近年、国民の健康意識の高まりにより地域スポーツクラブの需要が増加し、高齢化に伴い健康施設を利用する高齢者も増加傾向にある。さらに計画地である千葉市の高齢化率の推移は年々増加しており、健康施設のさらなる需要が見込まれる。

そこで、①健康増進を図るフィットネス、②広いパーク内や人工海浜を利用したレジャーまたはレクリエーション空間の提供、③フィットネス・レジャーをととした地域交流の場の提供、この3つを軸とした施設利用をとおして、高齢者を含めたさまざまな層の人々の人生を豊かにする施設計画を行う。さらに、健康を身体の側面だけでなく、より広義に総合的に捉えた概念である「ウェルネス」を取り入れ、身体や精神の健康だけでなく、人々と交流をもったり、ストレスの解消をしたりすることで生活の質の向上を図る。これらの要素を含み、千葉市中央区や千葉ポートパーク一帯を巻き込んだ複合型ウェルネスパークを提案する。

超高齢化社会で世界の先頭を走る日本では、国民すべてが健康増進に積極的に取り組み、とくに高齢者は要介護とならないよう「健康長寿」を目指す努力が大切である。本計画は、東京湾に面する千葉港の一角「千葉みなと地区」に、ウォーターフロントの開放性と海や港の景観を活かした、「健康スポーツ拠点」を整備した提案である。

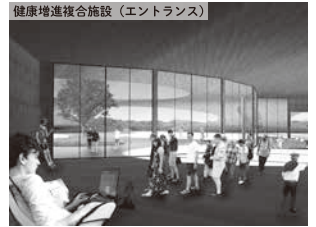
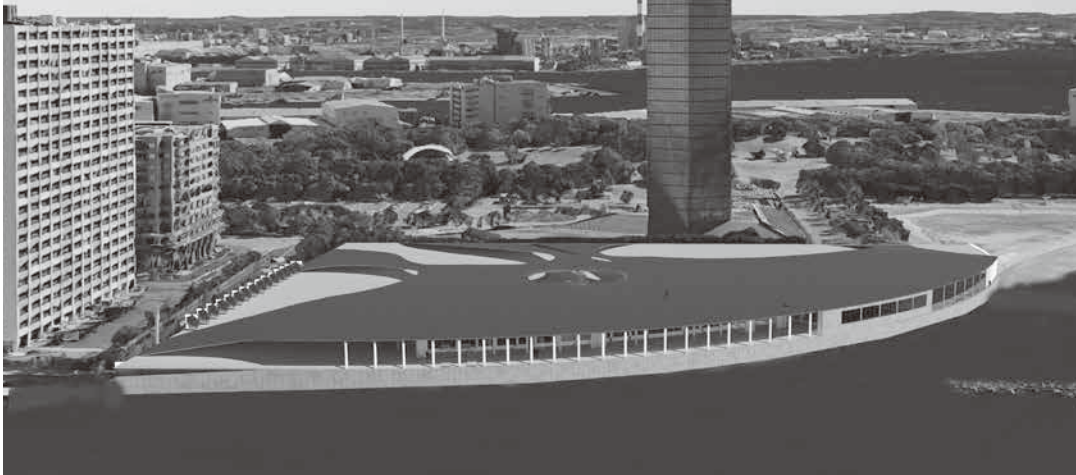
健康増進が目的とはいえ、スポーツやレクリエーションは、多様な選択が可能で、何より楽しく、快適に行えることが継続実施にとって重要である。千葉みなと地区には、人工海浜のビーチプラザ、千葉県立美術館、千葉ポートタワー、バーベキュー場、親水広場などの諸施設から構成される広大な

「千葉ポートパーク」が存在しているが、本計画は、これらに隣接した海面を埋め立てて、屋上を芝生広場とした総合ウェルネス施設を建設するものである。ここの利用者は、施設内の健康器具を利用するだけでなく、千葉ポートパーク内に配置された特色ある各種ゾーン（マリンレジャー、海釣り、海浜、ジョギング、サイクリング、子ども遊び、アウトドアスポーツなど）を巡って、変化に富んだ活動が行えるよう配慮されている。通常、駅前等、利便性の高い場所に立地する複数のスポーツジムと連携することで、千葉市民のための広域的なウェルネス拠点の役割を果たすことも期待できる提案になっている。（桜井慎一）

■講評

# 千葉ウェルネスパーク

## ～人生を豊かにする健康増進計画～



### ①地域交流ゾーン

フリーマーケットや物産展などのイベント利用、ボール遊びやパドミントンなどの公園利用で子供連れの家族やカップル、友人と利用でき、多くの人々が利用できる。

### ②アウトドアフィットネスゾーン

開放的な空間で景色や自然を楽しみながらフィットネスやトレーニングを行うことができる。

### ③子供遊びゾーン

池に入ったり、遊具で遊んだりして楽しむことができる。

### ④海浜ゾーン

潮干狩りやビーチフィットネス（砂浜でのホットヨガやビーチバレー、ビーチテニスなど）をして体を動かすことができる。

### ⑤マリンレジャーゾーン

SUPやSUPヨガ、空飛ぶジェットバック、カヌー、サーフユニットなどを行い、水遊びを楽しむことができる。

### ⑥スポーツゾーン

テニスコートやバスケットボールコート、スケートボード場があり、幅広い年齢層の人々が賑わう。開けた沿岸部に位置しているため、騒音が気にならない。

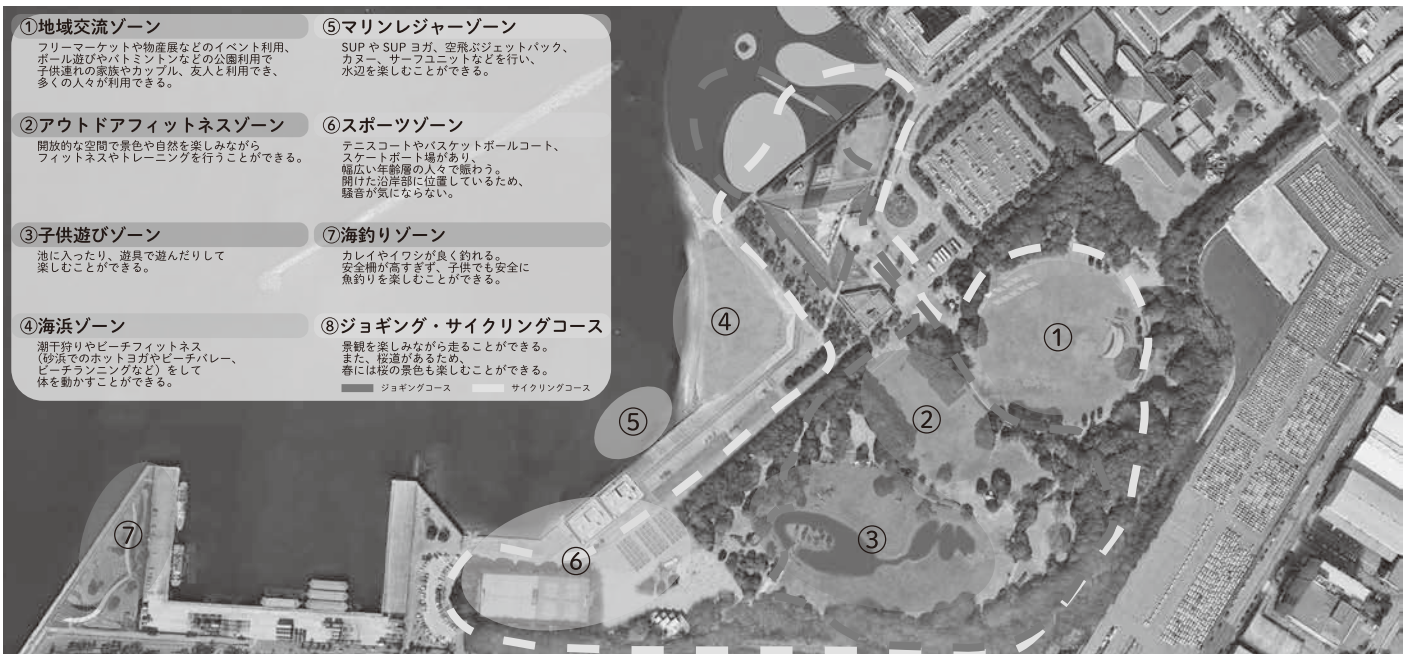
### ⑦海釣りゾーン

カレイやイワシが良く釣れる。安全柵が高すぎず、子供でも安全に魚釣りを楽しむことができる。

### ⑧ジョギング・サイクリングコース

景観を楽しみながら走ることができる。また、税道があるため、春には桜の景色を楽しむことができる。

■ ジョギングコース ■ サイクリングコース



## Chiba-Minato Environment sea Park ～子どもたちが創る未来～

漆山雄大・梅田敢司・窪田直生  
・サカイ花・坂井律樹・三澤 僚

### ■コンセプト

四季の彩りを映す緑と水辺に恵まれた千葉みなとの自然は、近年水質汚染や海ごみ問題の影響により地域の魅力が減少しつつある。環境汚染問題のない地域を実現するためには、幼少期からの環境学習が重要だと考え、千葉みなとの恵まれた海の生態系を利用したさまざまな仕掛けから千葉みなとを

「自然を身近に感じられるまち」として活性化させる。

### ■提案

【配置計画】計画地内に「学びゾーン」と「遊びゾーン」を設け、子どもの環境学習を中心とした配置計画を行った。「学びゾーン」では、千葉みなとに棲息する在来種に悪影響を与えている外来種の展示や、海洋汚染への問題提起として海ごみを用いたアート作品の展示などを行う水族館を配置した。「遊びゾーン」では、水族館で実際に学習した知識を踏まえ、人工海浜での遊びや釣り体験から実際に海の遊び方や楽しさを経験してもらう。

【動線計画】「学びゾーン」と「遊びゾーン」を水路で結び、古くより舟運に

使われていた木造の舟（べか舟）で移動する。学びから遊び、遊びから学びといった双方の行き来により子どもたちの環境学習の定着をより確かなものとする。

### ■講評

この作品は「自然を身近に感じるまち」をコンセプトに掲げ、「千葉みなと」が本来持っている恵まれた海の生態系を生かした環境再生を目指している。そして、その過程を市民に分かりやすく伝える環境教育の場としての水族館を具体的に提案した点が評価されるポイントである。

この地域は、1930年ごろは海水浴でにぎわい納涼船が並んでいたが、戦後

の工業化により環境汚染が問題化した歴史を持つ。チームは環境教育の場で自然の力を利用した環境改善方法の理解を深める必要があると考えた。教育には、関心、理解、知識、参加、そして行動という5つの段階が必要であり、これらを実践できる場を水族館という場で具体化した。ここには、アマモや牡蠣による水質浄化効果を実際に学ぶ場や、魚に触れることのできるタッチプール、あるいは、「べか舟」という伝統を継承した舟で計画地内をめぐるコースなど、楽しみながら学ぶ場が設けられている。また、敷地内の海水を満干潮の水位差を利用して循環するなど、環境にやさしい親水空間が提案されている。(吉田郁夫)

# Chiba Enviroment sea Park

～子どもたちが創る未来～



## Concept 自然を感じられるまち

### 環境教育【5つの目標】

#### 関心



水質・底質の悪化や生育の生育環境の減少などの環境問題に対する自覚と感受性を取得することを目標とする。

#### 理解



環境とそれに関する問題についてもさまざまな経験と基本的な理解を獲得することを援助する。

#### 知識



環境に対する価値観と感性を得て、環境改善と自然を守ることに積極的に参加する動機づけをする。

#### 参加



公園内における「遊ぶ」環境問題の実際の解決に向けて、あらゆる問題に取り組むの動機を与える。

#### 行動



環境問題を識別し、解決する技能を得て行動する。

## 学びゾーン

### 水族館

- 東京湾の生き物
- 比較展示（水質浄化実験等）
- 在来種・外来種の展示
- タッチプール
- プラスチックアート

### 多目的スペース

- NPO 法人企画展示

## 遊びゾーン

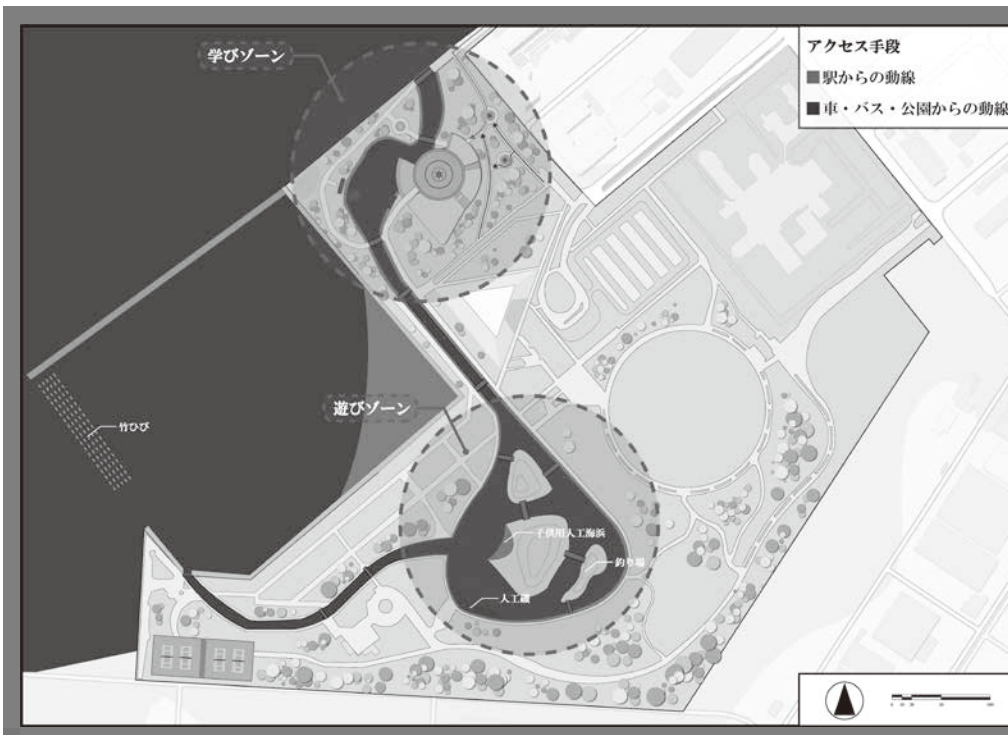
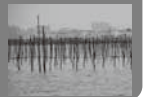
### ウォータープラザ

- 人口磯・人工海浜
- 釣り体験



### 前面水域

- 潮干狩り体験
- 竹ひび



# 卒業設計

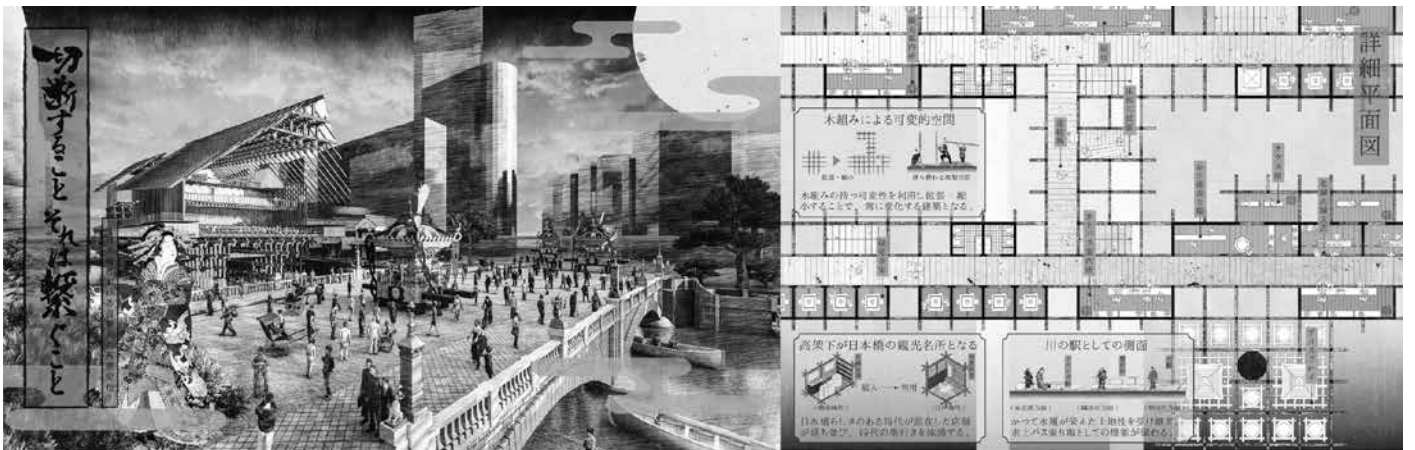
【担当】 佐藤 信治  
小林 直明  
小野 和幸  
安藤 亮  
金子 太亮  
桔川 卓也  
玉上 貴人  
木内 厚子  
穴澤 順子  
川久保智康  
勝又 洋



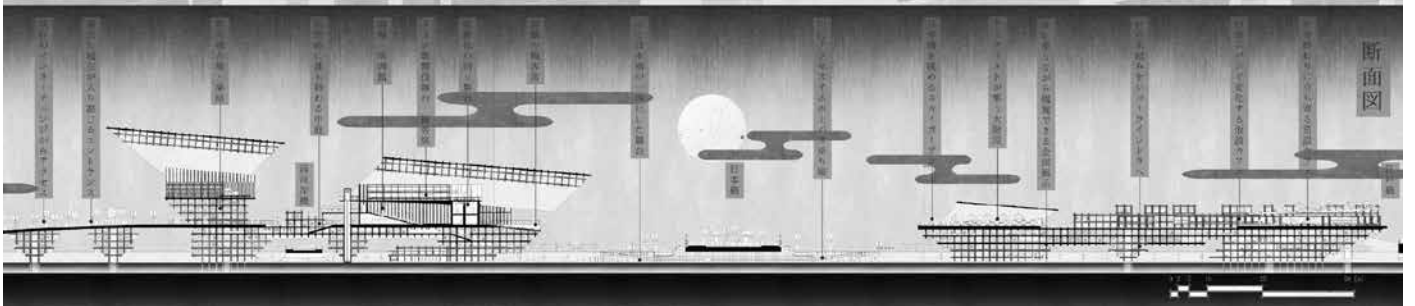
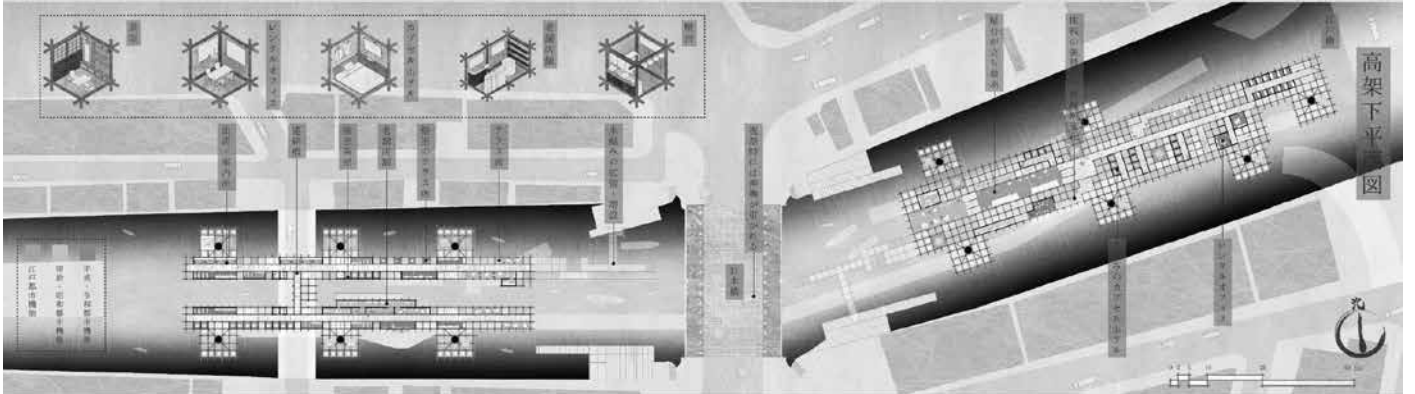
横畑佑樹

はじめに

急激な都市化の代償として歴史的遺産が排除されようとしている。その一つが日本橋首都高である。首都高を取



01. 歴史が積層された日本橋 02. 首都高地下化による歴史の切断 03. 首都高と日本橋の共存



り壊し、周辺一帯を再整備することが決定している。この計画は歴史を切断しているのではないだろうか。本提案では首都高を日本橋の歴史の帯へと戻し、建築化することで都市型道の駅として新たな日本橋の風景を形成していく。

### 1. 歴史が積層された日本橋

日本橋地区は日本橋が架けられて以降、水運が発展し、魚河岸が栄えた。人と物が頻繁に行き交い、水陸両面にわたる重要拠点であった。明治期に入り、日本橋が石積みになり、高度成長期には首都高速道路が建設され、現在ではオフィス街として知られている。こうした時代背景から各時代の要素が入り混じり、共生しながら街が構成さ

れている。

### 2. 首都高地下化による歴史の切断

日本橋と首都高は半世紀の間共存し、現在では日本橋らしさの象徴となる存在である。そして今、日本橋上空の首都高1.8km区間を地下へと移動し、残った高架橋をすべて取り壊し、周辺一帯を再開発する計画が始まること決定している。この暴力的な都市計画は「歴史の切断」といえるのではないだろうか。

### 3. 日本橋と首都高の共存

日本橋に蓋をする形で存在している首都高。日本橋から空を見上げることは叶わない。両者の関係を整理し破壊ではなく、「修復」を施すことで首都高を日本橋にとっての舞台装置へと再

編する。そして、首都高を残すという立場から「切断」という設計手法を用いる。景観、環境に影響を与えている部分を切断していく。首都高の痕跡を残し、後世へと継承されながら親しみある空間として生まれ変わる。また、切断によって空いた首都高の余白部分に木組みを挿入することで建築化していく。木組みの中には日本橋に備わっていた都市機能を蓄積し、歩くことで歴史を感じるプロセスを作り出す。

### 4. 各時代の都市機能の集積

木組みは日本橋発祥の歌舞伎の升席をデザインコードとして拡張し、2,300mmグリッドの建築空間を作り出す。その中には江戸から現在までの日本橋に備わっていた都市機能を挿入

していく。それにより、首都高が観光だけでなくオフィス街としての側面もある日本橋を両者が共存できる場へ再編する。

### 5. 日本橋に根付くハレとケを受け継ぐ

現状、日本橋と首都高は干渉することはない。首都高を通過する車は日本橋を意識せず、日本橋を歩く人は頭上を車が通過していることに気づかない。しかし、首都高を切断し、境界線を開放することで両者が交わり、新たな関係性が生まれる。日常時には都市型道の駅として、ビジネスマンなどが行きかう空間となり、祝祭時には首都高を観客席とした日本橋が舞台となる観光空間に建ち替わり、日本橋のハレとケの空間性を受け継ぐ。

第32回千葉県建築学生賞 最優秀賞(建築)、特別審査委員賞 / 全国合同卒業設計展「卒、20」特別賞(総合資格賞) / せんだいデザインリーグ2020卒業設計日本一決定戦 100選 / 第43回学生設計優秀作品展 出展



自の遺産として排他されようとしている首都高を日本橋の歴史の一つと捉えて再編し、都市型道の駅として建築へと変えることで、今日本橋に最も必要とされている空間になる

下水道化されたり、蓋をされたことにより、現在は線状の空き地として残されている。

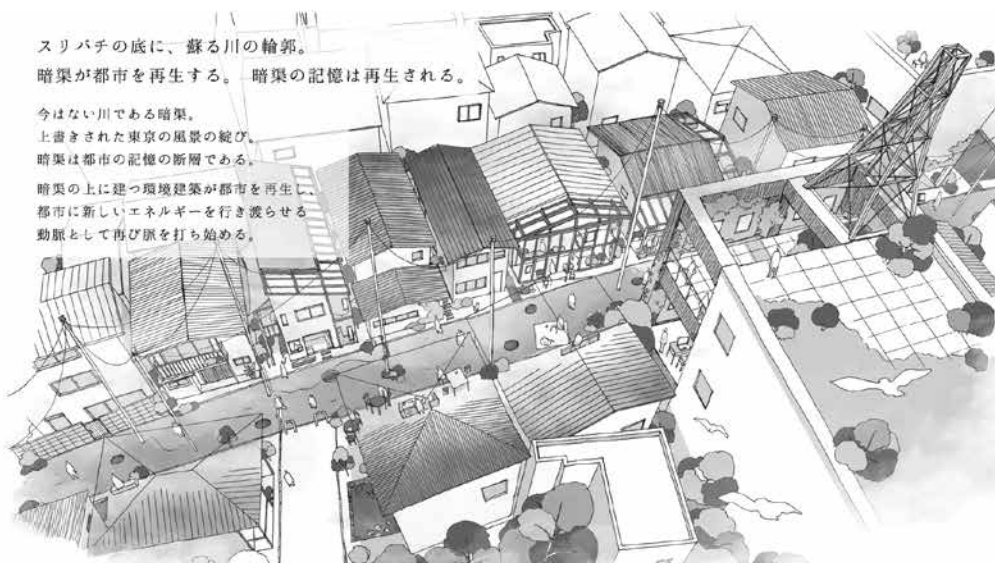
橋跡の一部や地下へ伸びる排水管、連続する大量のマンホール、銭湯やコインランドリーなど、水面が消えた今も水辺であった頃の記憶を断片的に有する暗渠は、地下から聞こえる微かな水音や湿った空気感とともに独特な景観を形成している。

中村美月

本提案は、都内暗渠における環境装置の拡幅と既存建築の減築・補強を計画軸とした新しい都市開発手法の提案である。

東京には「かつて川だった場所」である暗渠が数多く存在している。暗渠は、近代急速に進んだ都市化のなかで、

ケーススタディとして選んだ笹塚支流暗渠は、かつて新宿周辺を流れる長さ4kmほどの川であった。川の名前さえすでに失われて久しいが、川だった痕跡は数多く残されており、ビルや住宅の合間を縫うようにして記憶の記録・収集を行った。



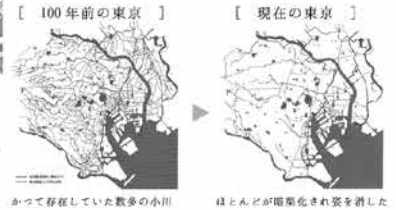
スリパチの底に、蘇る川の輪郭。暗渠が都市を再生する。暗渠の記憶は再生される。

今はない川である暗渠。書きこまれた東京の風景の結び。暗渠は都市の記憶の断層である。

暗渠の上に建つ環境建築が都市を再生し、都市に新しいエネルギーを運び渡らせる動脈として再び脈を打ち始める。

都市の負を背負う暗渠

川が姿を消した歴史は、川が「都市の負」を背負われてきた歴史とも捉えられる。



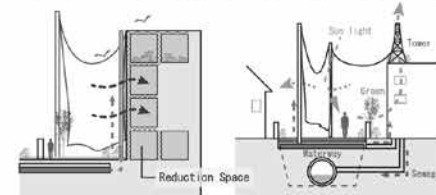
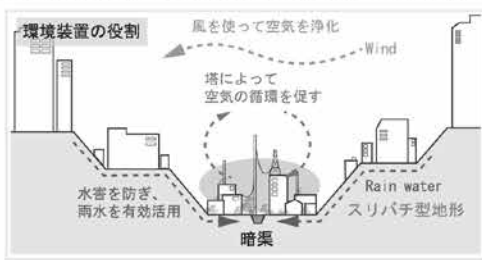
かつて存在していた数多の小川 ほとんどが暗渠化され姿を消した

【現在の暗渠の写真】



暗渠は水の記憶を断片的に残しながら、都市の中で線状の空き地となっている。

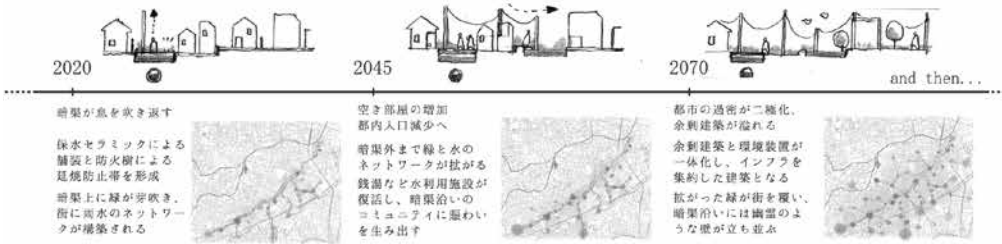
蘇る川 再び脈を打つ動脈へ



暗渠の上に芽吹き、時間とともに拡幅していく環境装置が発展の中で都市が失ったものを取り戻し、都市を少しずつ回復していく計画を提案する。



部分模型写真 S=1/50 50年後の新しい暗渠風景



長い時間をかけて、都市に川の姿が浮かび上がり、水と緑が都市を覆っていく



既存建築の上に建つ 排気塔とフィルターカーテン

本提案では、暗渠を「景観」「時間軸」「空間」といった複数のレイヤーが重なり露出した都市における多層的な歴史的空間として捉え、①長い時間をかけて水と緑で街を覆っていく環境装置 ②周辺既存建築の減築補強 ③水辺の記憶の継承・昇華を3つの軸とした計画を行う。現在、都市の裏側・負のインフラとして扱われている暗渠を、長い時間をかけて都市を再生させるための動脈へと反転させていく。

具体的な環境装置としては、まず、暗渠が位置するスリパチ型の地形を活かし、地下に雨水用の水路を新たに敷設し、点在する一時貯水池をつなぐことで街全体に雨水のネットワークを形成する(断面図を参照)。暗渠歩道の

表面はコンクリートではなく保水セラミックパネルによって舗装され、緑化と同時に周辺地帯から流れ込んでくる雨水の保水を実現し、都市型水害の発生を防ぐ一助となる。緑化として植樹する植物は、防火植物を中心に選定することで、暗渠を木造住宅密集地域における延焼防止帯として機能させる。また、一時貯水池は、既存建築の地下ピットを転用し、地上に水面が露出するかたちで親水空間を形成する。

さらに、地下を流れる雨水を上へ吸い上げるためにストロー状の柱を林立させ、空気を浄化するフィルターカーテンへと水を行き渡らせる仕組みをつくる。ポリエステル繊維のカーテンは水を含むことで空気中の微粒子を吸着

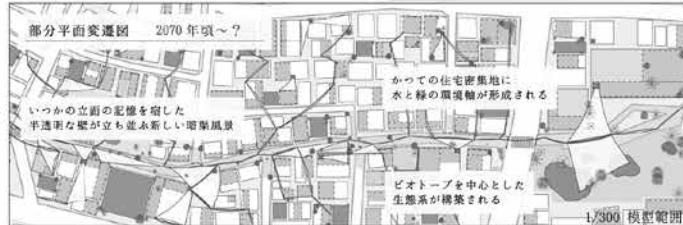
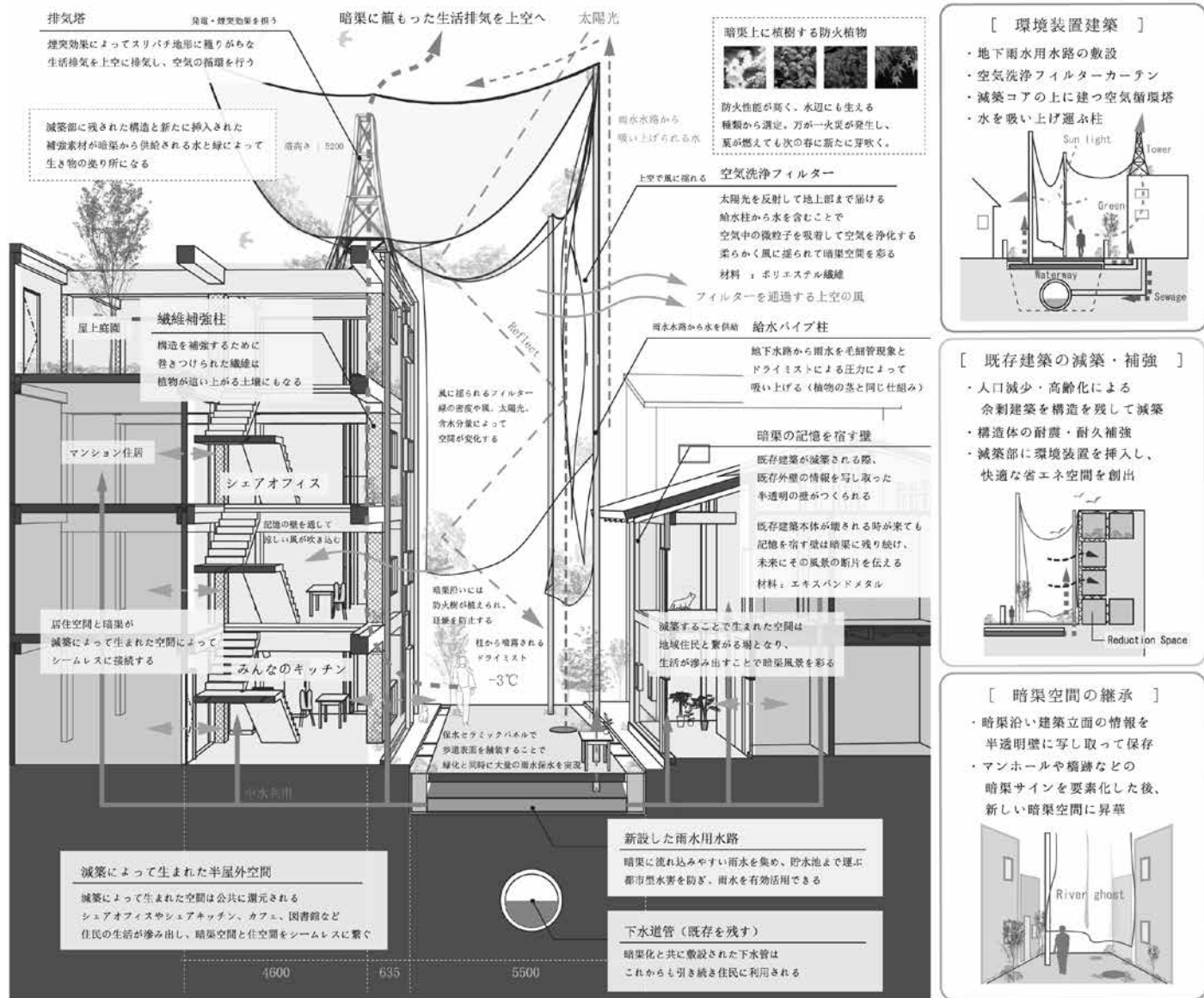
し、空気を浄化すると同時に、揺らめきながら陽の光を反射させて地上へ届けるため、日によって変化する柔らかい光と風が暗渠空間を彩る。

本計画では鳥瞰的な都市の視点から暗渠を歩く人の目線まで、大小さまざまなスケールからアプローチし、数十年から百年かけて都市を塗り替えていく長期的なタイムスケープを構想した。数十年後、都内の人口が減少し始め、余剰建築が増加した際には、その余剰面積の減築・構造の補強を行い、そこへ環境装置が入り込んでいくことで、生まれた余白空間を公共に還元する計画とした。また、建築の骨組を残しながら半屋外空間を連続させていくことで、街には風と緑の環境軸が形成され

る。計画の中で、独特な景観として点在している暗渠の断片的な記憶(暗渠サイン)は、緑歩道上の小池や、開口部の情報を写し取った壁など、かたちを変えて未来へ継承されていく。

こうして、土地の記憶を引き継ぎながら、暗渠は街へと拡幅し、建築を飲み込み、コンクリートを剥がし、やがて湿ったランドスケープが都市を覆っていく。水の流れのスピードを緩やかにコントロールしながら、失われた川は蘇るようにして、亡霊のような姿を都市の上に浮かび上がらせる。今、暗渠を歩く私がかつてあった川の姿を想像するように、百年後もここを歩く誰かが過去に思いを馳せる場所であるようにと、願っている。

赤レンガ卒業設計展2020 最優秀賞 日本 / せんだいデザインリーグ2020卒業設計日本一決定戦 20選 / 第51回毎日・DAS 学生デザイン賞 出展





# 星景の方舟

—豊穰と再生、エジプト神話に基づく宇宙軸—

### 三橋一貴

古来よりナイルの恵みにより誕生し発展してきたエジプトは大きな自然循環の中で生きてきた。数学や幾何学、占星学を発展させ自然の秩序や調和的ルールを解明し、自然物や自然現象、世界の始まりにおける神など超自然的、形而上的な存在を結びつけ、古代エジプトは自然と共生する高度な文明が築かれていったといえる。

しかし20世紀、人間は利便性を求め

## 星景の方舟 - 豊穰と再生、エジプト神話に基づく宇宙軸 -

ナイルの恵みにより誕生し発展してきたエジプトは大きな自然循環の中で生きてきた。数学や幾何学、占星学を発展させ自然の秩序や調和的ルールを解明し自然物や自然現象、世界の始まりにおける神など超自然的、形而上的な存在を結びつけ、古代エジプトは、  
しかし20世紀、自然をコントロールする時代に入り自然との共生が終わる。上流部に建設された世界最大のダムによりエジプトとナイルの繋がりは断絶されてしまった。氾濫がもたらす肥沃な土壌はダムが受け止め、生態系の破壊、畑の塩害、風土病の蔓延と代償が降りかかってきている。

これらを踏まえナイルが氾濫し恵みを与えていた姿をエジプト固有の純粋な自然の真実を書き記した神話を読み解き、再編する。  
自然との関係を見つめ直し自然循環のなかで共生する新たな物語を作り出す。

### 01. 秩序と調和の古代エジプト世界

#### 1-1 ナイルの恵みと神々の共生

エジプトはナイルの賜物とされるようにナイル周辺には世界最古の文明が栄えた。毎年決まった時期に穏やかに増水するナイルの氾濫は上流より中下流まで運り砂漠の国に作物を育てた。太陽と砂漠の国には雨がほとんど降らず、水のはほとんどをナイル川に依存し、これらのナイルの恵みは人々は豊かになり、また豊かになった。繰り返してこの自然循環はエジプトの歴史に流れる永遠性を多量自然と捉えることで秩序や調和な世界の中を歩いていた。



### 02. 混沌に包まれる現代

#### 2-1 ナイルの恵みを断絶したダム

20世紀最大の土木事業、アスワンハイダムはナイル川の氾濫の防止、不足しがちな農業用水の確保と砂漠の緑化、水力発電を目的として1970年に作られた。しかし、アスワンハイダムは20世紀最大の失敗とも言われており、当時、環境アセスメントを考慮することなく作られた世界最大のダムは環境にも大きな影響を与えていた。大規模な建設は周囲に住む生物を死滅させ環境は水に死んだ。また、水をせき止めるダムは自然の循環をも止めた。エジプト全土に風土病、肥田剤、三橋の崩壊などの病へと変えてしまった。最終的に必要不可欠な農業用水、環境用水、工業用水をナイル川一本に依存しているエジプトではナイル川の死はエジプトの存続に繋がることありエジプトは国そのものに傾いている。『これはエジプトに対して神々もたらした災害の予兆である』



自然をコントロールし、ナイルの恵みを断絶してしまった。エジプトナイル上流部に築き上げられた20世紀最大の土木事業、アスワンハイダムはナイル川の氾濫の防止、不足しがちな農業用水の灌漑供給および砂漠の緑地化、水力発電を目的とし1970年に作られた。当時、環境アセスメントを考慮することなく作られた世界最大のダムは環境に与える影響も大きかった。大規模な建設は周囲に住む生物を死滅させ遺跡は川底に沈んだ。また、水をせき止めるダムは肥沃な土壌さえもせき止め、エジプト全土に風土病、畑の塩害、生態系の破壊と死の川へと変えてしまった。生活する上で必要な生活用水、灌漑用水、工業用水をナイル川一本に依

存しているエジプトではナイル川の死はエジプトの存続につながることであり、エジプトは滅亡の危機に瀕している。

私はこれらが『エジプトに対して神がもたらした災害のようである』と感じた。

これらを踏まえナイルが氾濫し恵みを与えていた姿をエジプト固有の純粋な自然の真理を書き記した神話を読み解き、再編する。

そこで本提案ではナイルの恵みを断絶するのではなく、享受し、神々が住む自然と人間がつながり自然循環のなかで共生する新たな循環型環境装置を提案する。

ナイルの恵みによりナイル周辺には

多くの固有の神々を祀る都市が築き上げられてきた。さまざまな神話が作られ特殊な神々がその都市に根つき文化が生まれた王国は超自然的な神（自然）との関係があったといえる。そこで今回はケーススタディとして首都カイロより南20kmに位置する主神プタハが統べるエジプト最古の王国メンフィスを敷地として選定し神話の抽出を行う。

今から3000年前メンフィスが都として栄えた時代、周辺に現在も謎に包まれたピラミッドがいくつも建設された。宇宙の建築家であるプタハが作り上げたそのモニュメンタルな形態は完璧なバランスで今なお立ち続けている。そのプロポジションを継承し現代に新た

なピラミッドを新しく作ることはメンフィス神話の復活を象徴する。

ナイルの自然サイクル合わせプタハの創造神話である天地循環を建築に取り入れる。

毎年決まった時期に緩やかに増水するナイルの氾濫は肥沃な土壌を堆積し生命が芽吹く。地面に浸透した水は濾過され地下に降り注ぐ。2,000万 m<sup>3</sup>を貯水できる地下貯水槽は通常時灌漑用水として効率よく供給され、渇水時にはナイル川に排水される。プタハ神の象徴であるアーチは構造としての役割を持ち、また、地下水、肥沃な土壌を上部に供給する循環装置の役割も持つ。ピラミッド状ナイルの恵みが積層し生態系が育まれていく。

### 03. エジプト各地に眠る神話の抽出

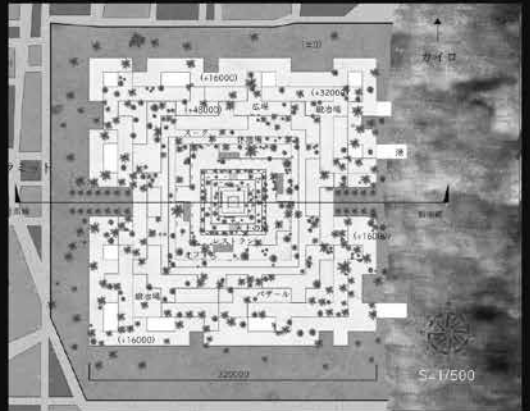
#### 3-1 古代王国跡地

古代エジプト時代よりナイル周辺には多くの固有の神々を祀る都市が築き上げられてきた。異なる神々を祀り異なる神話を持つ都市がその都市に根つき文化が生まれた王国は超自然的な神（自然）との関係があったとされる。それらを踏まえその土地に眠る神々のコードを抽出し建築化する事で自然と人間を繋げる架け橋を創り、ナイルに新たなライフラインを作り出す。



#### 3-2 メンフィス

首都カイロより南に20km離れたメンフィスは古代エジプトにおいて最初に生まれた上下統一王国である。ナイル川の口付近のデルタ地帯といふ熱帯的気候に形成された都市であり、各種の社会生活の拠点として栄えていた。都市内に宮殿・廟宇等があるが遺蹟となるものやカイロの遺蹟などにより遺跡は残れぬままに消滅したと推定されている。本敷地はメンフィスの主要部である河川周辺にあり、調査の結果を踏まえて選定する。



#### 3-3 メンフィス神話より建築特性の抽出

メンフィスの主神であるプタハは常に羽根を体にびたりつけた死者の姿で現れる。古代エジプトの長い歴史の中、姿も信仰もほとんど変化しなかった神々であり、動物の姿をとることはない。メンフィス系神話と独自の神話を持ち、それによればプタハ神が世界を創造したことになっている。これらの神話を建築特性に用いることでその土地に眠る自然との関係性を再編する。



### 断面図 [1/500]



卒業設計

# BORDERLESS ARCHITECTURE

—国境におけるあそび場の提案—

卒業設計は、「BORDERLESS ARCHITECTURE 一国境におけるあそび場の提案—」と題しまして、アメリカとメキシコの国境を線としてではなく平面的な奥行きを持った面として、相互理解の拠点となる教育施設、研究施設を地下空間に設計していきました。

私は近年グローバル化の流れに反して対立傾向にある国が増えており、国境が壁により隔たれつつある現状に疑問を抱きました。

そこで私は国境上にある唯一の建築、出入国管理施設に異文化交流の機能を付け足し、再設計していきました。

地上に存在している出入国動線を地下へ入れ、地下はニュートラルな環境

で教育施設と研究施設が存在します。国境は壁によって隣国との関わりが断絶されストレスを受けています。お互いを知らないことから生まれるステレオタイプにより争いも起こる状況にあります。

本来国境は文化や、人、物流の動線など、さまざまな交流地点がありますが国境線に存在する建築は出入国管理施設しかない状況です。そこで私は今回、異文化交流の機能を付け足した相互理解の拠点として設計していきました。

地上は両国の共通の緑を設け、長い時間かけて都市のリビングが成り立ちます。

国境壁は、新たにアクリルで作る

え、国境が分断場から創造の場の象徴になることを目的としました。日中は地下へ光を落とす仕組み、夕方になると地下の光が地上にもれ出てきます。

地下1階教育施設は小学生と大学生のラボを交互に配置し、中心に置かれたコネクターとなる空間によってお互いの交流を促していきます。自然が地下へ潜り込むように設計されており豊かな自然環境が相互理解を助長します。共に学び、共に成長する教育環境を目指しました。

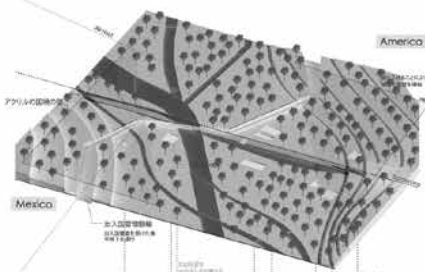
研究施設内はすべてフリーアドレスとなっており国境上には水、植物、光の壁が存在し、自然のレイヤーが豊かな仕事環境を実現させ、知的生産性の向上を図っています。

小山田駿志

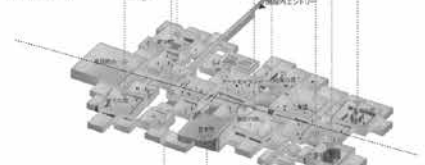
せんだいデザインリーグ2020卒業設計日本一決定戦 100選



(G1) 都市のリビング



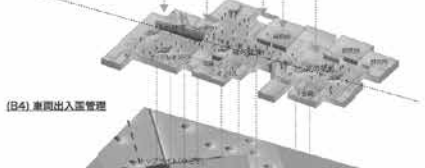
(B1) 教育施設



(B2) 研究施設



(B3) 研究施設



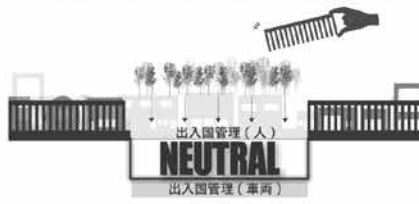
(B4) 出入国管理



両国をつなげる結節点は出入国管理施設のみだが交流の機能を有していない



地上を蓋いでいた出入国管理施設を地下へ自然を再生し、都市のリビングとして活用可能とする



共有施設・研究施設を挿入 地上は機能を有したアクリルの壁で国境を保つ



気持ちを伝えることは難しかった。  
限りある時間の中で、死という壁に直面しながらも家族との時間を過ごしていくということは難しいのである。  
今、日本は死亡する人が多くなり、人口が少なくなっていく“多死社会”を迎えようとしている。その中で問題として挙げられるのは、亡くなる場所である。人生の最終段階に入った時に選ぶ場所は、国民の7割が自宅や介護施設での最期を望むと答えている。しかし現実には、全体の7割が依然として病院で亡くなっている。このままでは、病院で死を待つ人たちが多く存在し、孤独に亡くなっていく人や“死”が隠された状態に在ることになり、病院としての役割をなくしてしまうのではな

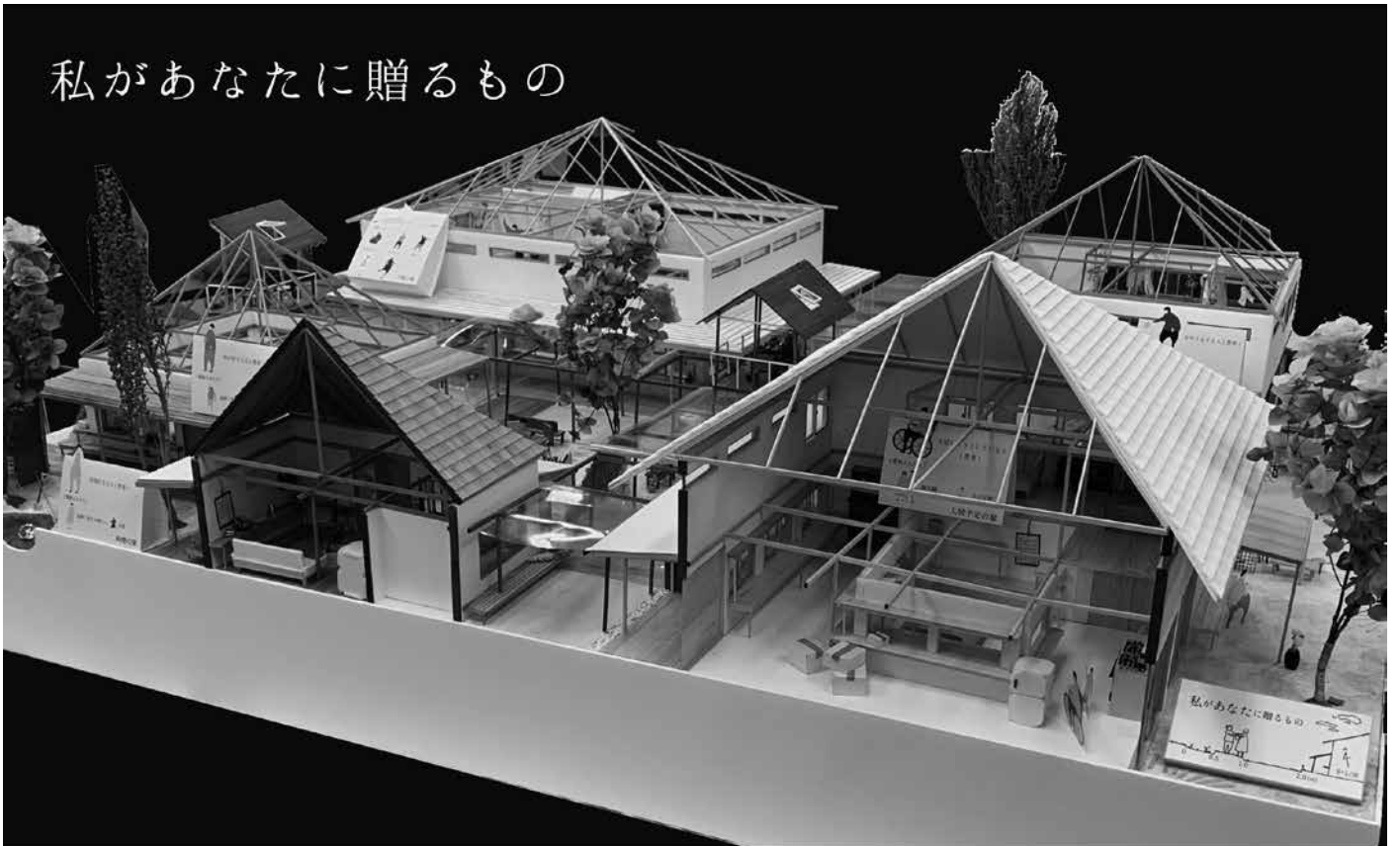
いか。  
また、最近では日本人の死生観についても変化が現れ、2000年代からは“老衰”が多くなってきている。延命することを自らやめ、検査をせずに、自然に死んでいきたいという考えが広まりつつある。  
病院のような隔離され、閉鎖された空間ではなく、自宅のような暖かく懐かしい空間で、家族に看取られながら静かに死にたいという人が多いことがわかる。“死”というものが「見たくない」、「考えたくない」、「悲しいもの」というタブーから、「自分もこのように死んでいきたい」、「もっと家族との時間を大切にしよう」と思えるものになるべきではないかと考える。

自分の最期の迎え方を自分で決めることのできない今、事前に最期のあり方、どう過ごすべきなのかを考えることが大事である。  
最期を迎える人を中心に配置し、その人の生きた痕跡や思い出を住宅内に配置し、家族と最後の時間を濃いものにする。始まりの家から持ち込んだ家具を終わりの家に持参し、その家族にしかいない住宅の空間を作り出す。さらに、住宅のそとの縁側部分には外付けの棚を設置し、第三者にも患者の痕跡を徐々に広げていく。本提案では、そういった理想と現実を踏まえ、終末期における在宅での看取りと家族と患者間でのお別れのできる施設を提案する。

西村寿々美

2018年8月17日、私の祖父は亡くなった。死因は膀胱癌だった。病気が発覚してから約2カ月という短い間であったが、毎日病院に通い、衰弱していく祖父を見ながら別れの言葉や感謝の

全国合同卒業設計展「卒、20」8選

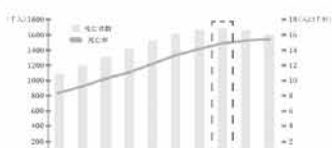


01 最期を迎える時



最期を迎える時には、悲しみや苦しみのような“負の感情”が溢れる。誰かに話すことはできずに、1人で抱え込んでしまうことが多い。その時間を病院で終えてしまうのが現状。

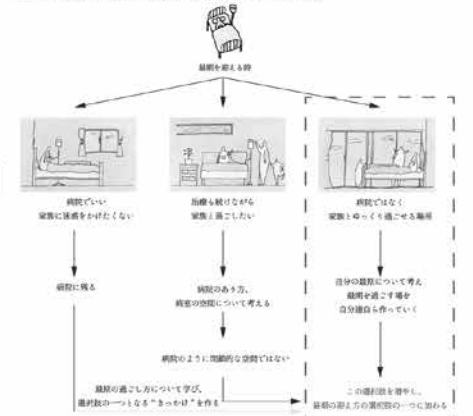
02 高齢化社会から多死社会へ



これからの日本は、高齢化社会から多死社会に移行する。数多くの高齢者が最期を迎えることになるのだ。

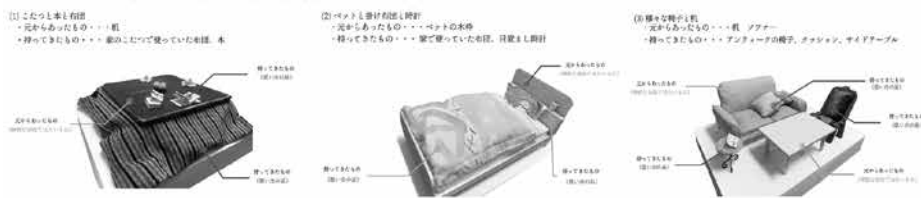
03 自分の最期を決める選択肢

自分の最期の迎え方を自分で決めることのできない今、事前に最期のあり方、どう過ごすべきなのかを考えることが大事である。最後が近づき、余命を宣告された段階でそれぞれ最期について選択する。



09 それぞれ思い入れのある家具が空間をつくる

人それぞれ違った思い入れの家具が種類の違う家具が一つの空間を作り出す。



修士設計

## 植物工場を有した複合型 研究開発施設的设计

—植物工場の産業としての自立に  
向けた連携拠点の提案—

中村圭佑

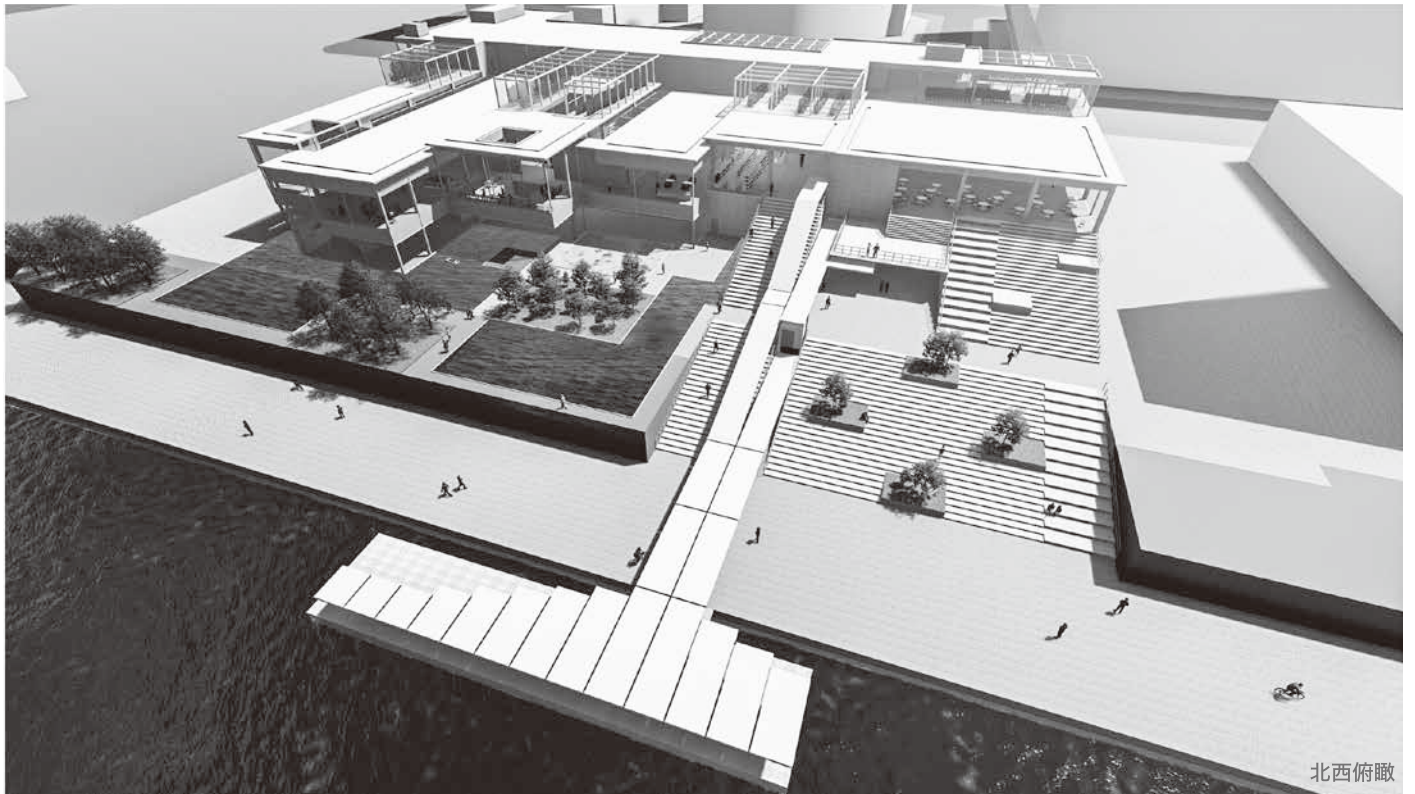
近年、度重なる災害や環境汚染、地球温暖化などの報道により環境や食に関する消費者の意識が変化してきている。しかし、日本の食の現状は、減反政策や従業者の高齢化などを背景に食料自給率の低さが大きな社会問題となっている。さらに TPP 加入による国内農業に打撃を与える可能性や放射能汚染や農業による食の安全性の問題や、年々増える天候不順により野菜の価格変動が大きくなっている。今、新たな農業や食料生産の形が求められている。植物工場の産業としての自立という

時代の要請を受け、複合型研究開発施設を計画する。連携拠点である当施設が、安定した生産を担保しつつ、情報の共有・発信、そして人材育成の場となることで、植物工場のさらなる普及と、新たな事業モデルの確立に寄与する。

計画背景を踏まえ、現在の科学技術や地域の既存インフラを活用した「複合型植物工場」を提案する。そのために本計画ではさまざまな事業者・主体を1つの施設に集約、共存するものとする。複合型研究開発施設として計画することによって、(1)大学研究機関と連携し、人材の育成・確保。(2)多方面からの事業者参入促進。(3)異分野の事業者間交流によるオープンイノベー

ションの促進。(4)周辺地域、施設、とエネルギー循環や生産システム、流通インフラの共有も行き、ストックを用いながら周辺施設と発展的連携を図る。以上により、農業・商業・工業連携拠点である当施設が、情報の共有・発信の場となることで安定した地産地消拠点となり、植物工場のさらなる普及と、新たな事業モデルの確立に寄与する。

本計画では、植物の研究開発・生産・販売・流通のそれぞれ過程に関わるさまざまな主体が協力し合い、シナジーを生む連携拠点を計画する。また、率先して既存の交通・エネルギーインフラを活用するものとする。よって以下の敷地選定条件を設けた。(1)生鮮食品流通拠点に近接し、出荷効率が良好。



北西俯瞰



植物工場併設レンタルラボ



コワーキングスペース



一般見学動線

(2)浸水率の低い安全な土地。(3)地域冷暖房や熱供給のインフラが整っている。(4)観光客来場を見込める。(5)交通インフラが整い、アクセス性が高い。(6)日常的に地域住民が訪れる。以上の条件より、江東区豊洲6丁目の一画を計画敷地として選定する。豊洲市場の青果棟に近接し流通機能として連携を図れる。アクセス性にも優れ、エネルギーネットワークにも接続可能である。また、浸水可能性が極めて低く、首都直下型地震を想定した防潮護岸整備も為されているため、防災面においても優れている。

豊洲埠頭地区は、江東区によって策定された「豊洲グリーン・エコアイランド構想」等に基づき、まちづくりが

進んでいる地区である。豊洲6丁目区域4に存在する東京ガススマートエネルギーセンターでは、大型で高効率のガスエンジンコージェネレーションシステムの導入により、発電した電力を豊洲市場へ供給し、廃熱を本区域の熱供給に有効活用する。このエネルギーネットワークに接続し、インフラを共有することで運営に要するエネルギーの一部として利用することし、大幅なランニングコスト削減を図る。

植物工場の利点を活かし、環境負荷を低減する各機能を積層した構成とする。積層したフロア間でエネルギーを循環させ、低コストで栽培を行う。地下には栽培支援機能を設置し、熱供給プラントからエネルギーネットワーク

より熱、電気供給を受ける。1階では人工光型栽培を行う植物工場と、豊洲の輸送網と効率よくつなぐ備蓄倉庫・荷捌きスペースを配置。2階は、駅直結の連絡通路から集客を見込める為、店産店消のレストランや植物工場見学フロアを設け、1階の栽培スペースを見学できるよう計画し、一般客への周知を図る。3階は太陽光型の栽培エリアとオフィスが混在し、植物工場がオフィスグリーンとしても機能する新たな執務空間として計画。

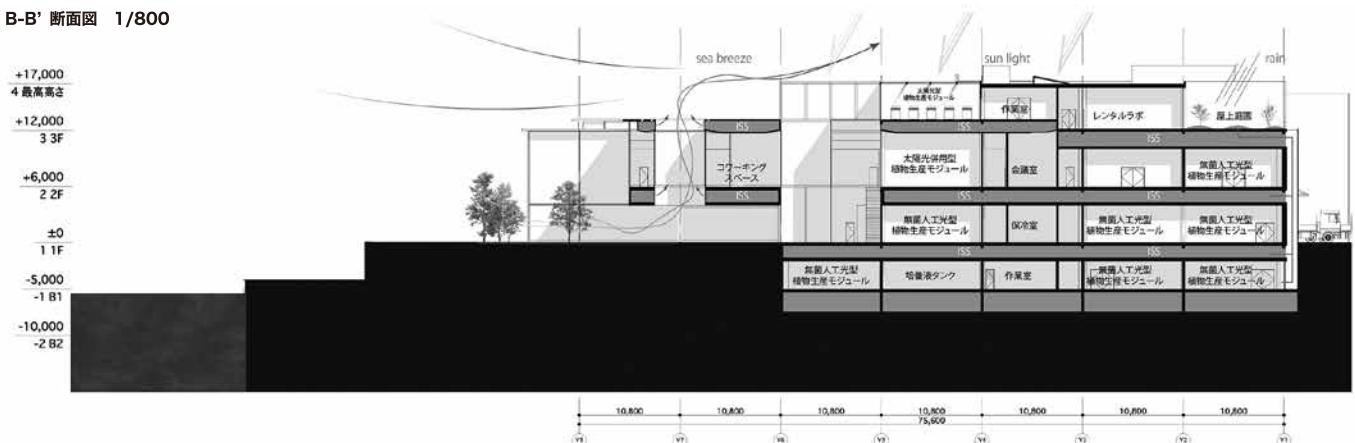
現在、見学エリアや執務空間と植物生産エリアが近接して配置されている事例は極めて少ない。普段一般公開されず見えない生産部門を消費者と近づけ、一般理解を深める空間構成とし、

建築計画を行う。屋上では太陽光パネルや雨水集積を行い、施設内のエネルギーとして活用することで光熱費削減を図る。

規模算定を元に一般学習部門、生産部門、研究開発部門からなる平面構成とする。生産者、研究者、事業者を施設内で連携させ、交流学習までを行い、各部門が相互に関わり合いながら消費者との距離を近づける計画とする。敷地南西側の一般学習部門はゆりかもめ市場前駅から2階レベル連絡通路を通り直接アクセス可能。一般客動線は植物工場、研究開発部門の見学ルートを介し、階段へ接続し、豊洲の歩行者シークエンスをウォーターフロントまでつなぐ計画となっている。



B-B' 断面図 1/800



修士設計

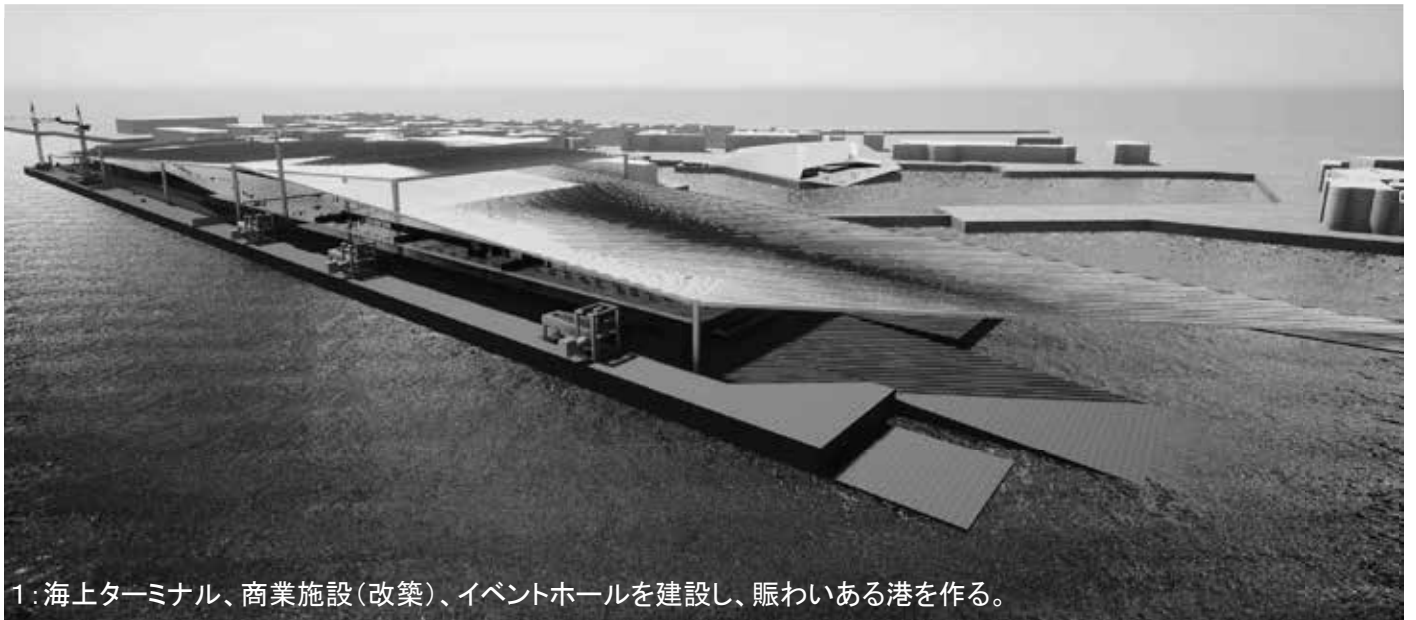
## 清水港国際旅客船ターミナル計画

香港と連携をし、国際クルーズ拠点になるための整備を進めている。しかし、現状の清水港にはまだまだ課題が山積みであるとともに、南海トラフ地震の対策等も講じなければならず、その問題を解決するために本提案を行う。

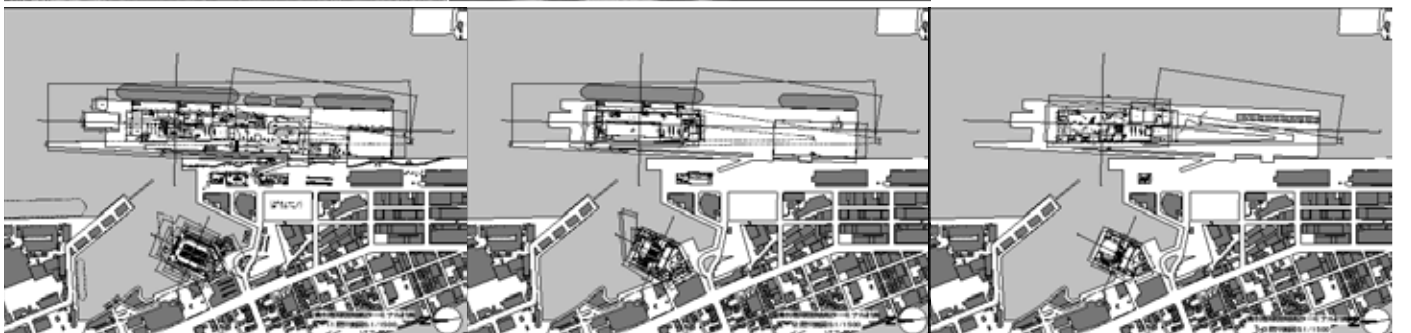
静岡県が抱えている、旅客船の受け入れ先と貨物の受け入れ先が同じであり移動の労力がかかる・CIQ 機能を有していないので発着港として現在機能できない・港湾の魅力がない・物流動線と人流動線が混在している・くつろぎの場の不足という清水港の問題点と、私自身が感じた、南海トラフが来た際今の清水港のターミナル1階部分が沈む・津波避難ビルの数が足りないという問題点も加え、これらを解決するた

### 星野智美

近年、クルーズ需要が高まっていることを受け、静岡県は、台湾のクルーズのシェア 8 割強を占めるゲンティン



1: 海上ターミナル、商業施設(改築)、イベントホールを建設し、賑わいある港を作る。



めに、浮体式の海上クルーズターミナル、商業エリア、ホールの計画を行ったものである。

約85,000㎡のターミナル施設兼物流施設を作り、浮体式のターミナルとすることで、南海トラフ地震がきた際も対応可能な施設とする。また、防災機能もつけることで、防災避難施設としても活用する。1階には、遠方への移動をしたい観光客に向けて設置する水上飛行機とフェリーの発着場、エントランスロビーを設ける。右側に物流施設を設置し、LASH船が入港できる施設にした。2階は、クルーズの発着港として機能できるようにCIQエリアを設置。3階は、クルーズのクルーが休憩できるラウンジを設置し、クル

ーにも親しんでもらえる港にすることで、クルーズ船にもっときてもらえる賑わいある港にする。また、4階には富士山を見ながら食事ができるレストランも併設する。防災に備えた機能も設置することで、津波や地震が来た際も、避難場所として機能できる施設とした。普段もそして避難用にも使えるよう、外からもわかる大きなスロープを有したデザインにし、災害時にスムーズに避難できるよう工夫した。津波が来る想定高さまでを水にも強い素材である玄武岩を使用したデザインとし、津波高さから上を地元の素材である天竜杉を用いたデザインにした。物流ターミナルエリアは、改築によって取り壊された倉庫面積の倍の倉庫を設け、

物流エリアとしてもより発展できるように工夫した。

商業エリアは、現在の清水マリンターミナルを商業施設にし、食と文化の発信施設とすることで、観光案内のサポートをし、近郊にお金が落ちる仕組みを作り、現状のターミナルの問題を解消する施設とした。

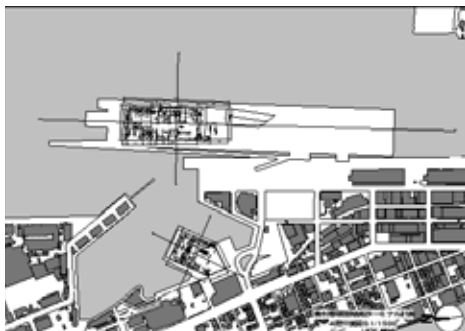
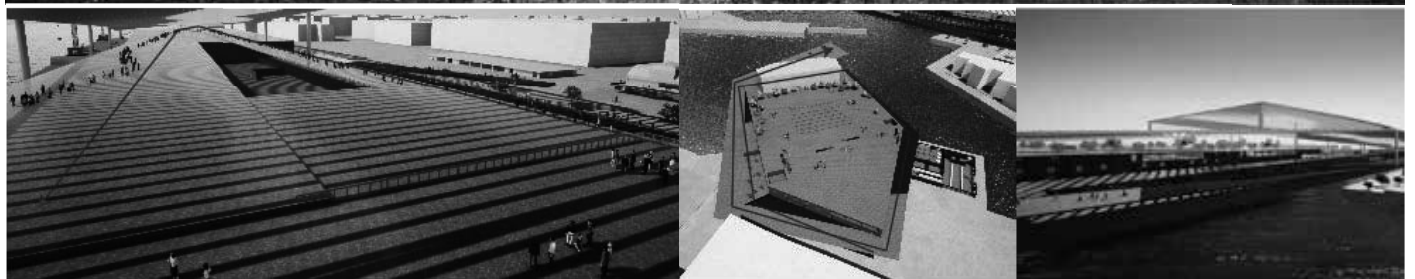
また、くつろぎの場が足りないという問題に対して、倉庫を改築した商業施設を作り、地元の人も利用できる商業施設を設計した。銭湯やショップなどを設け、長旅で疲れてなかなかゆっくりお風呂に浸かれないことや、日用品を買い足しておきたい要望のあるクルーに対したくつろぎの場としても機能し、また地域住民の人たちも日常的

にくつろげる場になる施設とする。

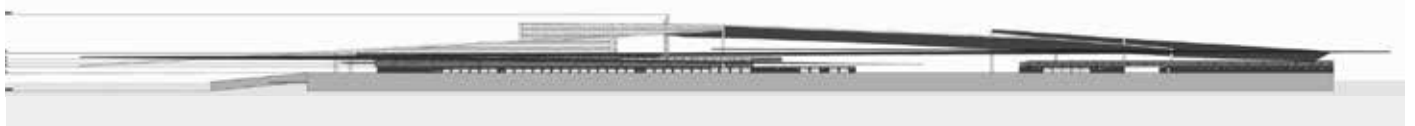
ホールは、既存のイベント広場の場所に建設し、客席数を3,000席とした。地元企業と連携し、コンサートの開催や、モーターショーの開催をする場所とし、さらに、県のコンセプトである産学連携を意識し、学会・研究発表の場としても機能するよう設計した。ターミナルと同様、避難施設も兼ねているので、外からもわかる大きなスロープを有したデザインにし、避難時にスムーズに避難できるよう工夫した。また、外観デザインは、津波が来る想定高さまでを水にも強い素材である玄武岩を使用したデザインとし、津波高さから上を地元の素材である天竜杉を用いたデザインにした。



2: 避難を誘導するスロープを建設する→通常時に使えるものにし、災害時には、一時避難場所としても機能する。



3: 津波で沈むラインを建築素材でわかりやすく分ける。





## ■コンペ受賞歴一覧

**日本一** 34作品 (卒業設計 23作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 10作品)

**日本二** 21作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 4作品、その他のコンペ 15作品)

**日本三** 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 354作品

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/石渡孝夫(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/富田善弘(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/小林直明(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/吉本宏 <b>日本一</b> ・同入選/松本康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/稲村健一 <b>日本一</b>	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選/鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/遠藤卓郎 <b>日本一</b> ○(財)日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞/川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作/稲村健一 ・支部入選/大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等/遠藤卓郎、岩崎博一 <b>日本三</b> ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞/中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作/秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作/川口利之、菅沼徹、高井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作/稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等/藤沢仲佳、柳泰彦、林和樹 <b>日本三</b>	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等/秋江康弘 <b>日本二</b>
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等/小林達也、佐藤信治、小川克巳 <b>日本三</b> ・支部入選/渋谷文幸 ・支部入選/林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜門校友クラブ」 ・1等/山崎淳一、松尾茂 ・佳作/小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作/小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選/松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選/小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選/小林達也
63	●千葉県建築三学生会賞 ・銅賞/近藤陽次 <b>地域三</b> ・奨励賞/毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等/新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 <b>日本一</b> ・全国入選佳作/團部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選/松尾茂、山本和清 ・支部入選/岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作/山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作/川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等/山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等/加藤麻生 ・3等/飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作/小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作/長谷川晃三郎、佐久間明
平成1年	●第22回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/長谷川晃三郎 <b>日本一</b> ・入選/佐久間明 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞/佐久間明 <b>地域三</b> ・奨励賞/長谷川晃三郎	●「ふるさとの芸能空間」 ・全国入選2等/新岡英一、長谷川晃三郎、佐久間明、岡里潤 <b>日本二</b> ・全国入選3等/丹羽雄一(建築)、益田勝郎 <b>日本三</b>	●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」 ・1等/矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏佑 <b>日本一</b> ●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ ・選外入選/長谷川晃三郎 ●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」 ・入選/山本和清

年度	卒業設計(●)・修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第23回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/山口哲也</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・金賞/矢野一志 <b>地域二</b></li> <li>・銅賞/山口哲也 <b>地域三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「交流の場としてのわが駅わが駅前」</li> <li>・全国入選2等/植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) <b>日本二</b></li> <li>・全国入選3等/飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 <b>日本三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」</li> <li>・3等/川久保智康、野沢良太 <b>日本三</b></li> <li>●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」</li> <li>・佳作/矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光</li> <li>●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技)</li> <li>・優秀賞/佐久間明 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/益田勝郎</li> <li>●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」</li> <li>・2等/岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光</li> <li>・佳作/植竹和弘、白石充、根岸延行(建築)</li> <li>・佳作/山口哲也、佐藤教明</li> <li>・佳作/広部剛司、佐藤岳志、菅浩康</li> <li>●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」</li> <li>・佳作/武田和之、岡里潤</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第24回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/高橋武志 <b>日本二</b></li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/高橋武志 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/廣川雅樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「都市の森」</li> <li>・1部全国入選2等/山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 <b>日本二</b></li> <li>・2部全国入選最優秀/片桐岳志</li> <li>・2部支部入選/布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」</li> <li>・1等/佐藤教明、山口哲也、木口英俊 <b>日本一</b></li> <li>・佳作/川久保智康、野沢良太</li> <li>●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」</li> <li>・最優秀賞/河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 <b>日本一</b></li> <li>●第2回長谷エイメージデザインコンペ「現代の夢殿」</li> <li>・入選/川添隆史、渡辺千香子</li> <li>●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」</li> <li>・入選/川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築)</li> <li>●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をほらむ都市装置」</li> <li>・3等/降旗恭子、黒田佳代 <b>日本三</b></li> <li>・入選/木口英俊</li> <li>●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」</li> <li>・奨励賞/川添隆史</li> <li>●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/木口英俊、渡辺昇</li> <li>●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」</li> <li>・佳作/佐藤教明</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第25回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/片桐岳志 <b>日本二</b></li> <li>・入選/寶田陵</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/片桐岳志 <b>地域二</b></li> <li>・銅賞/寶田陵 <b>地域二</b></li> <li>●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」</li> <li>第10回記念『1993卒業設計制作大賞』</li> <li>・金賞/寶田陵 <b>日本一</b></li> <li>・銅賞/片桐岳志 <b>日本三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「わが町のタウンカレッジをつくる」</li> <li>・1部全国入選3等/佐藤教明、木口英俊 <b>日本三</b></li> <li>・1部全国入選佳作/廣川雅樹、寶田陵</li> <li>・1部支部入選/山口哲也、河本憲一</li> <li>・1部支部入選/木口英俊、高橋武志</li> <li>・2部支部入選/関谷和則、石渡義隆</li> <li>・2部支部入選/平崎彰、望月喜之</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●盛岡・水辺のデザイン大賞</li> <li>・専門部門佳作/佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢</li> <li>●奈良・TOTO世界建築トリエンナーレ</li> <li>・佳作/川久保智康、野沢良太、永島元秀</li> <li>●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」</li> <li>・2等/片桐岳志 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/高橋武志、関戸浩二</li> <li>●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」</li> <li>・2等/片桐岳志、岡田和紀</li> <li>●アーキテクチュア・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」</li> <li>・佳作/吉田幸正</li> <li>●川鉄デザインコンペ'92</li> <li>・佳作/三輪政幸</li> <li>●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/佐藤教明</li> <li>●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」</li> <li>・佳作/野沢良太</li> <li>●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」</li> <li>・佳作/竹内大介、高山一頼、穴倉尚行</li> <li>●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」</li> <li>・奨励賞/竹内大介、高山一頼、穴倉尚行</li> <li>・奨励賞/石井昭博、寶田陵、西上順久</li> <li>●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」</li> <li>・3等/山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 <b>日本三</b></li> <li>・3等/高橋武志、石井昭博 <b>日本三</b></li> <li>●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」</li> <li>・佳作/川久保智康、高山一頼</li> <li>●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」</li> <li>・佳作/山口哲也、木口英俊</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第26回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・洋々賞/吉田幸正 <b>日本二</b></li> <li>・入選/関谷和則</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/関谷和則 <b>地域二</b></li> <li>・銀賞/吉田幸正 <b>地域二</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「川のある風景」</li> <li>・1部全国入選佳作/片桐岳志、小野和幸</li> <li>・1部支部入選/石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永</li> <li>・2部全国入選佳作/橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道</li> <li>・2部全国入選佳作/関谷和則、三輪政幸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」</li> <li>・佳作/片桐岳志</li> <li>●第4回長谷エイメージデザインコンペ「現代のさや堂」</li> <li>・入選/片桐岳志</li> <li>●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」</li> <li>・銀賞/田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀</li> <li>●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」</li> <li>・優秀賞/小野和幸 <b>日本二</b></li> <li>●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康</li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第27回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/清水信友</li> <li>・入選/戸國義直</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築三会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/清水信友 <b>地域三</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の集住体」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行</li> <li>・特別賞/井上真樹、馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●川鉄デザインコンペ'94 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●小山市城東地区街角広場デザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友</li> </ul> </li> <li>●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/小野和幸</li> </ul> </li> <li>●第1回 ARCASIA 学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第28回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/田村裕彦</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅賞/浦野雄一 <b>地域三</b></li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「テンポラリー・ハウジング」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/清水信友</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/井上真樹、馬淵晃 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第5回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京水空間」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/広瀬倫恒</li> </ul> </li> <li>●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/梶原崇宏、村松保洋</li> </ul> </li> <li>●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/下平将也</li> <li>・作品展示/川崎拓二</li> </ul> </li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/中村武晃 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/小川太士</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県街並み景観賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準特選/鳥居延行 <b>地域二</b></li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築)</li> </ul> </li> <li>●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1等/田中厚三 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/馬淵晃</li> </ul> </li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第30回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/市原裕之</li> <li>・入選/針生康</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> <li>・奨励賞/針生康</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の学校」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部全国入選2等/村松保洋、渡辺泰夫 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/富永恒太 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/宮下新</li> <li>・作品展示/佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員特別賞/長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦</li> </ul> </li> <li>●運輸省「みんなで作ろう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校部門 フロンティア賞/鳥居延行、若山喜信、金田岩光</li> </ul> </li> <li>●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石川阿弥子、大野貴司、桶川嘉子、山田博栄</li> </ul> </li> <li>●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚</li> </ul> </li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第31回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/大野貴司</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/大野貴司 <b>地域二</b></li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/田中克典 <b>日本一</b></li> <li>・優秀賞/長井厚 <b>日本二</b></li> </ul> </li> <li>●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> </ul> </li> <li>●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員企業賞/伊藤昌明</li> </ul> </li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/寺田健 <b>地域二</b></li> <li>・特別賞/江橋亜希子</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/塙貴宏 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第33回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/渡邊昌也</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/原香菜子</li> <li>・奨励賞/渡邊昌也</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「新世紀の田園居住」</li> <li>・タジマ奨励賞/青山純、岡田俊博、岡部敏明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司</li> </ul>	
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第34回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/秦野浩司 <b>日本一</b></li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/秦野浩司</li> <li>・奨励賞/木村輝之</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもの居場所」</li> <li>・関東支部入選/齋藤洋平、木村輝之</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」</li> <li>・優秀賞/山端俊也 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/大工原洋充、舟岡徳朗</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/羽根田治</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第35回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/丸山貴広</li> <li>・入選/山下忠相</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/栗田耕史</li> <li>・奨励賞/長坂悠司</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正</li> <li>・審査員長特別賞/篇淵正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介</li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2002</li> <li>・佳作/白砂孝洋</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/清水大地</li> <li>●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞</li> <li>・入選/丸山貴広</li> </ul>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第36回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/川崎未来生</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・奨励賞/川崎未来生</li> <li>・奨励賞/白砂孝洋</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●新建築住宅設計競技2003</li> <li>・2等/川崎未来生 <b>日本二</b></li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2003</li> <li>・金賞/片桐雄歩 <b>日本一</b></li> <li>・入選/白砂孝洋</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/中村智裕</li> </ul>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第37回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/永嶋順一</li> <li>・入選/佐藤俊介</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・特別賞/稲垣直秀</li> <li>・奨励賞/勝又洋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「建築の転生・都市の転生」</li> <li>・全国入選佳作/丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎</li> <li>・東海支部入選/土井涼恵、内田真紀子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2004</li> <li>・佳作/土井涼恵</li> <li>・入賞/勝又洋</li> <li>・入賞/奥田祥吾</li> <li>・佳作/三村舞、勝間田洋子、望月菜生</li> <li>・佳作/渡辺秀哉</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入賞/賀山雄一</li> </ul>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第38回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/鈴木啓史</li> <li>・入選/渡辺秀哉</li> <li>●第18回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/渡辺秀哉 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/鈴木啓史</li> <li>○第4回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/京野宏亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9坪ハウスコンペ2005</li> <li>・佳作/金子太亮</li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権</li> <li>・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 <b>日本二</b></li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2005</li> <li>・入賞/桔川卓也</li> <li>・佳作/河原一也、信戸佑里</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/五十嵐大輔</li> </ul>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第39回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/桔川卓也</li> <li>●卒業設計日本一決定戦</li> <li>・日本三/桔川卓也 <b>日本三</b></li> <li>●卒業設計裏日本一決定戦</li> <li>・裏日本一/桔川卓也 <b>日本二</b></li> <li>●第19回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞/河原一也</li> <li>・奨励賞/丹沢裕太</li> <li>●第30回学生設計優秀作品展</li> <li>・レモン賞/桔川卓也</li> <li>○第5回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/勝又洋</li> <li>・出展/金子太亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> <li>・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> <li>●「美しいまちをつくる むらをつくる」</li> <li>・最優秀賞/渡辺秀哉</li> <li>・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」</li> <li>・佳作/勝又洋</li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」</li> <li>・最優秀作/勝又洋 <b>日本一</b></li> <li>●(財)ナムラコンチネンタルホーム事業本部・(財)日本住研</li> <li>第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」</li> <li>・優秀賞/勝又洋、金子太亮 <b>日本二</b></li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/島田かおり</li> </ul>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第40回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選/赤澤知也</li> <li>・入選/丸山大史</li> <li>●第20回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/小松崎博敏 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/西村秀勇</li> <li>○第6回JIA大学院修士設計展</li> <li>・出展/三村舞</li> </ul>		
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第41回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/椎橋亮 <b>日本一</b></li> <li>●第21回千葉県建築学生賞</li> <li>・奨励賞/上條経伍</li> <li>・奨励賞/爲季仁</li> <li>●第32回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/椎橋亮</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」</li> <li>・入賞/大西慧</li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成20年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/椎川恵太</li> </ul> </li> <li>○第7回 JIA 大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/五十嵐大輔</li> </ul> </li> </ul>		
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/細矢祥太 <b>【日本一】</b></li> <li>・出展/下泉宏記</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第22回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民賞/永田陽子 <b>【地域二】</b></li> <li>・奨励賞/永田陽子</li> <li>・奨励賞/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第33回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/鴨志田航</li> </ul> </li> <li>●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/細矢祥太</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、10」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7選入選/大西慧</li> </ul> </li> <li>○第8回 JIA 大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/小松崎博敏</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「アーバンフィジックスの構想」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/鴨志田航、本多美月</li> </ul> </li> <li>●「美しくまちをつくる むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/朽木健二 <b>【地域二】</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/椎橋亮</li> </ul> </li> <li>●第7回「真の日本のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 <b>【日本一】</b></li> </ul> </li> <li>●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/増田佳菜子</li> </ul> </li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 <b>【日本一】</b></li> <li>・入賞/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第23回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/杉田陽平 <b>【地域二】</b></li> <li>・特別賞/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●JIA 東海学生卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/杉田陽平</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般賞 8位/杉山洋太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第34回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/古明地雲母</li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/杉山洋太</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大きな自然に呼応する建築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/大西慧、菅原遼</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーキテクタ賞/小川雅人</li> </ul> </li> <li>●第6回「新・木造の家」設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/嶋真史</li> </ul> </li> <li>●第2回文化遺産防災アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/爲季仁、平山雄基</li> </ul> </li> <li>●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/増田佳菜子、小山勇気</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/小山勇気</li> </ul> </li> <li>●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/永田陽子、椎橋亮</li> </ul> </li> <li>●ハンスグローエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/椎橋亮、永田陽子</li> </ul> </li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/石原幹太 <b>【日本一】</b></li> <li>・入賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第24回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石原幹太 <b>【地域二】</b></li> <li>・市民賞/石原幹太 <b>【地域二】</b></li> <li>・奨励賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第35回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/井上彩花</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・20選/菅原雅之</li> <li>・100選/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、12」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7選/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●DIPLOMA 2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科代表掲載作品/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会 建築デザイン発表会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門優秀賞/菅原雅之</li> <li>・部門優秀賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀研究賞/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都築響一賞/菅原雅之 <b>【日本一】</b></li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第17回北陸の家づくり設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/渡部亘</li> <li>・佳作/浦井匠、海藤航、齊藤亮介</li> </ul> </li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2011 <ul style="list-style-type: none"> <li>・満田衛賞賞佳作/浦井匠、福田雄太</li> </ul> </li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/浦井匠</li> </ul> </li> <li>●第25回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/浦井匠</li> <li>・奨励賞/海藤航</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第10回 R&amp;R 設計アイデアコンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将</li> </ul> </li> <li>●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/山川大喜</li> </ul> </li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013</li> <li>・佳作/涌井匠 <b>日本一</b></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション</li> <li>・妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗</li> <li>● ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2</li> <li>・優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普</li> <li>● 第4回文化遺産防災アイデアコンペティション</li> <li>・佳作/榎本翔太、涌井匠、杉田陽平</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2012</li> <li>・入選/杉田陽平、涌井匠、川崎将、徳永尚亮</li> <li>● 平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、涌井匠 <b>地域一</b></li> <li>・企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、齊藤亮介、中山淳雄、望月堅二</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2012</li> <li>・永山祐子賞佳作/涌井匠</li> </ul>
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第26回千葉県建築学生賞</li> <li>・奨励賞/山川大喜</li> <li>・奨励賞/川崎将</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2013</li> <li>・入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴</li> <li>● 建築新人戦</li> <li>・100選/出山亮</li> <li>● 平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃果、阿部紘樹 <b>地域一</b></li> <li>・企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2013</li> <li>・遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真</li> <li>・古谷誠章賞佳作/菅原雅之</li> </ul>
26	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第47回毎日・DAS デザイン賞</li> <li>・入賞/滝村菜香</li> <li>・入賞/出山亮</li> <li>・入賞/藤本幸汰</li> <li>● 第27回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時</li> <li>・奨励賞・市民賞2位/志萱侑太</li> <li>● 全国合同卒業設計展「卒、15」</li> <li>・審査委員賞(藤村龍至賞)/山影悠時</li> <li>● 卒業設計日本一決定戦2015</li> <li>・100選/山影悠時</li> <li>・100選/志萱侑太</li> <li>● 福岡デザインレビュー2015</li> <li>・最優秀賞/堤昭文 <b>日本一</b></li> <li>● 赤レンガ卒業設計展2015</li> <li>・審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香</li> <li>● 第38回学生設計優秀作品展</li> <li>・レモン賞/堤昭文</li> <li>● 日本建築学会 建築デザイン発表会</li> <li>・審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時</li> <li>● MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015</li> <li>・入選/志萱侑太</li> <li>・入選/山影悠時</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築新人戦</li> <li>・101選/高橋翔</li> <li>● 第8回 JACS 住宅設計コンペ2014</li> <li>・佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2014</li> <li>・五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花</li> <li>● 第6回日本大学校門建築会学生設計コンペティション</li> <li>・審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、齊藤賢司</li> <li>・佳作/涌井匠、遠洞躍斗、山影悠時</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2014</li> <li>・20選/涌井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼</li> <li>● 平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹</li> <li>・佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村采香、福島弘明、増田顕弘</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第48回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/高橋翔 <b>日本一</b></li> <li>● 第28回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞2位・奨励賞/高橋翔</li> <li>・奨励賞/重田秀之</li> <li>● 第39回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/高橋翔</li> <li>○ 第39回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/山川大喜</li> <li>○ 第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016</li> <li>・出展/川崎将</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015</li> <li>・入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション</li> <li>・佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗</li> <li>● Floating City Project Architectural Design Contest</li> <li>・佳作/佐藤信治研究室</li> <li>● シェルターインターナショナル学生設計競技2015</li> <li>・一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔</li> <li>● 第9回 JACS 住宅設計コンペ2015</li> <li>・特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人</li> <li>・佳作/志萱侑太</li> <li>● 平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ</li> <li>・最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 <b>地域一</b></li> <li>● 公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション</li> <li>・実施採択/川崎将</li> <li>● 第7回日本大学校門建築会学生設計コンペティション</li> <li>・佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔</li> <li>● 歴史的空間再編コンペティション2015</li> <li>・10選/出山亮</li> <li>・20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美依</li> <li>・50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口稚奈、蒲生良輔、濱嶋杜人</li> <li>● 第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ</li> <li>・審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎</li> <li>● 第1回学生・コンペティション「共のレシピ」</li> <li>・特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介</li> <li>● キルコス国際建築設計コンペティション2015</li> <li>・近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太</li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞/蒲生良輔 <b>地域</b></li> <li>・奨励賞/蒲生良輔</li> <li>・奨励賞/濱嶋杜人</li> <li>●せんだいデザインリーグ</li> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・100選/上田紗矢香</li> <li>・100選/宮嶋悠輔</li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、17」</li> <li>・総合資格学院賞/上田紗矢香</li> <li>●第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/蒲生良輔</li> <li>○第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/志萱侑太</li> <li>○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017</li> <li>・出展/出山亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技</li> <li>・タジマ奨励賞/宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ERI学生デザインコンペ2016</li> <li>・佳作/蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2016</li> <li>・50選/佐々木秀人、新部理介、加藤毅三</li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ</li> <li>・佳作/志萱侑太、金井亮祐</li> <li>・佳作/永富快、上田紗矢香、山本雄太郎</li> <li>●(財)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入賞/黄起範</li> </ul>
29	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第49回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・金の卵賞/黄起範 <b>日本一</b></li> <li>●第30回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞/黄起範</li> <li>・奨励賞/赤堀厚史</li> <li>○第41回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/千葉雄介</li> <li>○第16回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2018</li> <li>・出展/高橋翔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2017「地域の素材から立ち現れる建築」</li> <li>・全国入選佳作・タジマ奨励賞/赤堀厚史、中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣</li> <li>・四国支部入選/松下知可、青木絵子、島田将武、浅野健</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦</li> <li>・16選/服部立</li> <li>・100選/勝部秋高</li> <li>・100選/山本壮一郎</li> <li>・100選/笹川雄基</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2017</li> <li>・50選/重田秀之、宮嶋悠輔、金井亮祐、山本淳樹、Lunenkova Anastasia、渡辺真理恵、三枝晃、笹川雄基</li> <li>●シェルターインターナショナル学生設計競技</li> <li>・34選/蒲生良輔、山本淳樹</li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ2017</li> <li>・佳作/永富快、山本雄太郎、上田紗矢香</li> <li>・佳作/志萱侑太、金井亮祐</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第50回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・金の卵賞/服部立 <b>日本一</b></li> <li>●第31回千葉県建築学生賞</li> <li>・最優秀賞/勝部秋高 <b>地域</b></li> <li>・特別賞/根本一希</li> <li>・市民賞/勝部秋高 <b>地域</b></li> <li>●赤レンガ卒業設計展2019</li> <li>・審査員賞/高橋遼太郎</li> <li>●デザイン女子 No.1 決定戦</li> <li>・都市・建築部門賞1位/渡辺真理恵 <b>日本一</b></li> <li>○第42回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/上田紗矢香</li> <li>○第17回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2019</li> <li>・出展/佐々木秀人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2018「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」</li> <li>・東海支部入選/山本壮一郎、根本一希、桜井南実、服部立、住吉文登</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦</li> <li>・8選/中村美月</li> <li>・100選/西遼</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2018</li> <li>・第5位/佐々木秀人、金井亮祐、根本一希、桜井南実、小林陽太、中村美月、松下将也</li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2018</li> <li>・金賞/蒲生良輔、山本淳樹、三枝晃、山内颯、西村寿々美、郎敬萬 <b>日本一</b></li> <li>・銀賞/勝部秋高、篠原健</li> <li>●桜建デザイン・コンクール2018</li> <li>・入選/佐々木秀人、山本壮一郎、渡辺真理恵、西村寿々美</li> <li>●住宅課題賞2018</li> <li>・入選/小山田駿志</li> <li>●ひろしま建築学生チャレンジコンペ2018</li> <li>・9選/西遼、小山田駿志、山内颯</li> </ul>
31 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第51回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・出展/中村美月</li> <li>●第32回千葉県建築学生賞</li> <li>・最優秀賞/横畑佑樹 <b>地域</b></li> <li>・特別審査委員賞/横畑佑樹</li> <li>●せんだいデザインリーグ2020</li> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・20選/中村美月</li> <li>・100選/小山田駿志</li> <li>・100選/横畑佑樹</li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、20」</li> <li>・特別賞(総合資格賞)/横畑佑樹</li> <li>・8選/西村寿々美</li> <li>●赤レンガ卒業設計展2020</li> <li>・最優秀賞/中村美月 <b>日本一</b></li> <li>○第43回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/横畑佑樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2019「ダンスを再考する」</li> <li>・関東支部入選/小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介</li> <li>・タジマ奨励賞/小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介</li> <li>・全国入選佳作/根本一希、勝部秋高</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的空間再編コンペティション2019</li> <li>・グランプリ/横畑佑樹、山本壮一郎、中村美月、大石展洋、大久保将吾、駒形史紗、白杵葵</li> </ul>